遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・甕が数片出土している。

【ＳＢ815掘立柱建物跡】（第111･112図）

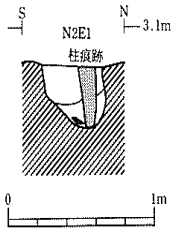
調査区南東部に位置する東西２間、南北２間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で検出し、この中の６ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＫ810土壙、ＳＤ570･683溝跡と重複し、ＳＤ570より古いが、ＳＫ810、ＳＤ683との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で総長4.13m、柱間寸法が西より2.05m･2.09m、東側柱列で総長3.7m、柱間寸法が北より1.97m・1.74mである。方向は北側柱列でみると東で約12度南に偏している。柱穴は径18cm前後の円形や径30cm前後の隅丸方形で、柱痕跡は径9～12cmの円形である。

遺物は柱穴埋土から調整不明の土師器坏・甕が数片出土している。

【ＳＢ813掘立柱建物跡】（第79･110･112図）

調査区南東部に位置する南北３間、東西３間の東廂付の南北棟で、北東部は調査区外になる。柱穴は地山面で身舎８ヶ所、廂３ヶ所検出し、この中の身舎６ヶ所、廂３ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ495・695・748・814・817掘立柱建物跡、ＳＫ661・667・669・773土壙と重複し、ＳＢ695より新しく、ＳＢ495・817、ＳＫ667・669より古いが、ＳＢ748・814、ＳＫ661・773との新旧関係は不明である。



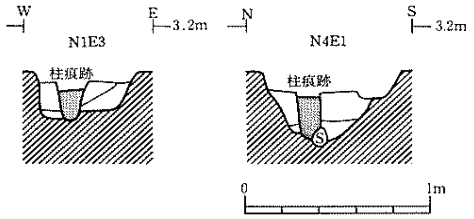
第79図　SB813柱穴断面図

平面規模は桁行が東入側柱列で調査区外になる北端の柱穴を推定すると総長約7.3m、柱間寸法が北より約2.4m･2.23m･2.53mである。また梁行が南妻で総長7.09m、柱間寸法が西より2.72m･2.43mで、廂の出が1.94mである。方向は東入側柱列でみると北で約７度東に偏している。柱穴は身舎、廂ともほぼ同規模であり、一辺39～64cmの隅丸方形で、深さは19～45cm残存している。柱痕跡は径14～17cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が数片出土している。

【ＳＢ695掘立柱建物跡】（第80･110･112図）

調査区南東部に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で検出し、この中の９ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ813・817掘立柱建物跡、ＳＫ669・677土壙と重複し、ＳＢ813・817、ＳＫ669より古いが、ＳＫ677との新旧関係は不明である。



第80図　SB695柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長4.31m、柱間寸法が北より1.36m･1.52m･1.44m、梁行が北側柱列で総長3.11m、柱間寸法が西より1.62m･1.49mである。方向は東側柱列でみると北で約３度東に偏している。柱穴は一辺40～60cmの隅丸方形であるが、やや楕円形を呈するものもある。深さは29～43cm残存している。柱痕跡は径11～18cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が数片出土している。

【ＳＢ817掘立柱建物跡】（第110･112図）

調査区南東部に位置する東西２間、南北２間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で検出し、この中

の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ495･695･813･817 掘立柱建物跡、ＳＫ667 土壙と重複し、ＳＢ695･813 より新しく、ＳＢ495、ＳＫ667 より古い。

平面規模は北側柱列で総長 3.30m、柱間寸法が西より 1.46m・1.85m、東側柱列で総長約 3.0m、柱間寸法が北より 1.57m･約 1.4mである。方向は北側柱列でみると東で約 3 度南、西側柱列でみると北で約10度東に偏しており、やや歪んだ建物跡である。柱穴は一辺 25～41cm のやや歪んだ隅丸方形で、深さは 28～41cm 残存している。柱痕跡は径 10～16cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が数片出土している。

【ＳＢ814 掘立柱建物跡】（第112図）

調査区南東部に位置する東西 2 間、南北 2 間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＫ581･667 土壙、ＳＤ682･736 溝跡と重複し、ＳＤ682･736 より新しく、ＳＫ581･667 より古い。

平面規模は北側柱列で総長 3.65m、柱間寸法が西より 1.81m･1.85m、東側柱列で総長 3.55m、柱間寸法が北より 1.75m・1.81mである。方向は南側柱列でみると東で約14度南に偏している。柱穴は径 30cm 前後の不整形や径70cm 前後のやや歪んだ隅丸方形で、深さは 25～50cm 残存している。柱痕跡は径 10～16cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、瓦片が数片出土している。

【ＳＢ495 掘立柱建物跡】（第112図）

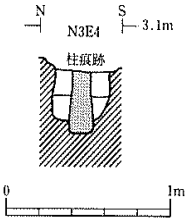
調査区南東部に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で 7 ヶ所検出し、この中の 5 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ813･817 掘立柱建物跡、ＳＥ659 井戸跡、ＳＤ671 溝跡と重複し、ＳＢ813・817 より新しく、ＳＤ671 より古いが、ＳＥ659 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が南側柱列で総長約 3.9m、柱間寸法が西より 1.27m、1.18m、約 1.4m、梁行が西妻で総長 2.24m、柱間寸法が北より約 1.2m、1.0mである。方向は南側柱列でみると東で約 7 度南に偏している。柱穴は径 27～60cm の不整形で、規模、形状ともばらつきがみられる。深さは 32～64cm 残存している。柱痕跡は径 10～14cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕が少量出土している。

【ＳＢ697 掘立柱建物跡】（第81･112図）

調査区南東部に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で 8 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ696 掘立柱建物跡、ＳＫ673 土壙、ＳＤ671 溝跡と重複し、これらより古い。



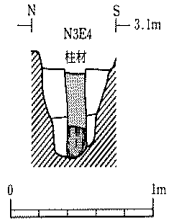
第81図　SB697柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長 4.67m、柱間寸法が西より 1.78m・2.89m（2 間分）、梁行が西妻で総長 3.76m、柱間寸法が北より 1.62m･2.14mである。方向は北側柱列でみると東で約 3 度南に偏している。柱穴は一辺 43～70cm の隅丸方形であるが、やや不整形を呈するものもある。深さは 31～59cm 残存している。柱痕跡は径 12～17cm の円形である。

遺物は柱穴埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、瓦が少量出土している。土師器坏はすべてロクロ調整で、底部に手持ちヘラケズリが施されるものがみられる。須恵器坏は底部がヘラ切り無調整のものが主体をなしている。

【ＳＢ696 掘立柱建物跡】（第82･112 図）

調査区南東部に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で検出し、この中の 9 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ697 掘立柱建物跡、ＳＤ671 溝跡と重複し、これらより新しい。



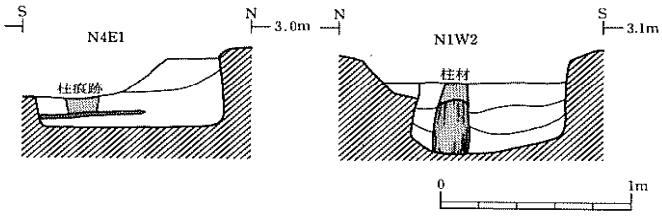
第82図　SB696柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長 5.75m、柱間寸法が西より 2.02m・1.75m・1.97m、梁行が東妻で総長 4.30m、柱間寸法が北より 2.10m･2.21m である。方向は北側柱列でみると東で約 6 度南に偏している。柱穴は一辺 35～50cm の隅丸方形であるが、やや不整形を呈するものもある。深さは 31～61cm 残存している。柱痕跡は径 10～12cm の円形である。

遺物は柱穴埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕、瓦片が少量出土している。土師器坏はすべてロクロ調整で、底部がヘラ切り無調整のものと手持ちヘラケズリが施されるものがみられる。須恵器坏は底部がヘラ切り無調整のものが多い。

【ＳＢ595 掘立柱建物跡】（第78･83･111 図）

調査区南東部に位置する東西 3 間、南北 3 間の総柱建物跡で、一度建て替えられている（ＳＢ595Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出した。ＳＢ685・816 掘立柱建物跡、ＳＥ660 井戸跡、ＳＫ655・686・719 土壙、ＳＡ735 材木塀跡、ＳＤ575･687 溝跡と重複し、ＳＢ816、ＳＥ660、ＳＡ735、ＳＤ687 より新しく、ＳＫ655･686･719、ＳＤ575 より古いが、ＳＢ685 との新旧関係は不明である。



第83図　SB595柱穴断面図

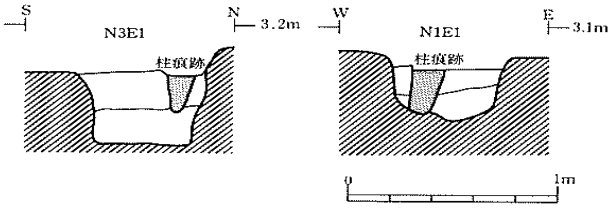
ＳＢ595Ａは 10 ヶ所で柱穴を検出し、柱痕跡は東側柱列の 4 ヶ所で確認している。平面規模は東側柱列で総長 5.24m、柱間寸法が北より 1.61m･1.72m･1.90m である。柱穴は一辺 50～114cm の隅丸方形で、深さは 37～48cm 残存している。柱痕跡は径 14～16cm の円形である。

ＳＢ595Ｂは 15 ヶ所で柱穴を検出し、この中の 13 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ595Ａとほぼ同位置で重複しているが、東側柱列が東傾し、やや歪んだ建物跡となっている。平面規模は北側柱列で総長 6.01m、柱間寸法が西より 2.03･1.86m･2.14m、東側柱列で総長 5.31m、柱間寸法が北より 1.82m･1.62m･1.88m である。方向は北側柱列でみると東で約 7 度南に偏している。柱穴は一辺 71～110cm の隅丸方形で、深さは 42～60cm 残存しており、6 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 12～20cm の円形で、3 ヶ所で柱材が遺存している。

遺物はＳＢ595柱穴埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕・壺、瓦が出土している。土師器坏はすべてロクロ調整で、底部に手持ちヘラケズリが施されるものが多い。須恵器坏は底部がヘラ切り無調整のものが多い。

【ＳＢ685掘立柱建物跡】（第78･84･111図）

調査区南東部に位置する東西３間、南北２間の東西棟で、南西隅は調査区外になる。柱穴は地山面で９ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ595・816 掘立柱建物跡、ＳＡ735 材木塀跡、ＳＤ575・687 溝跡と重複し、ＳＡ735、ＳＤ687より新しく、ＳＤ575より古いが、ＳＢ595・816との新旧関係は不明である。



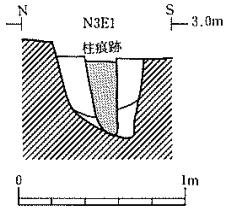
第84図　SB685柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長5.47m、柱間寸法が西より1.75m･1.97m･1.75m、梁行が東側柱列で総長3.07m、北より1.74m･1.33mである。方向は南側柱列でみると東で約３度南に、北側柱列でみると東で約８度南に偏しており、やや歪んだ建物跡である。柱穴は長径60cm、短径46cmの楕円形や、一辺50cm前後の隅丸方形で、深さは40～60cm残存している。柱痕跡は径14～20cmの円形である。

遺物は柱穴埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、平瓦が少量出土している。土師器坏はすべてロクロ調整で、須恵器坏は底部がヘラ切り無調整のものである。

【ＳＢ816掘立柱建物跡】（第78･85･111図）

調査区南東部に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で７ヶ所検出し、柱痕跡も確認している。ＳＢ595･685･744･745 掘立柱建物跡、ＳＥ660井戸跡、ＳＫ686･719土壙、ＳＡ735材木塀跡、ＳＤ575･687溝跡と重複し、ＳＥ660、ＳＡ735 塀跡より新しく、ＳＢ595、ＳＫ686・719、ＳＤ575 より古いが、ＳＢ685・744・745、ＳＤ687との新旧関係は不明である。



第85図　SB816柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長5.10m、柱間寸法が北より1.72m･1.75m･1.63mである。梁行は総長3.92mで、柱間寸法は等間とすると1.96mである。方向は東側柱列でみると北で約11度東に偏している。柱穴は一辺40～56cmの隅丸方形で、楕円形に近いものもあり、深さは22～47cm残存している。柱痕跡は径12～22cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土している。

【ＳＢ744掘立柱建物跡】（第111･112図）

調査区南東部に位置する東西３間、南北２間の東西棟で、一度建て替えられている（ＳＢ595Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出した。ＳＢ816掘立柱建物跡、ＳＫ714・718土壙、ＳＡ735材木塀跡、ＳＤ575溝跡と重複し、ＳＡ735より新しく、ＳＫ718、ＳＤ575より古いが、ＳＢ816、ＳＫ714との新旧関係は不明である。

ＳＢ744Ａはすべての柱穴を検出し、８ヶ所で柱痕跡を確認している。後続するＳＢ744Ｂと同位置で重複し規模もほぼ同様である。平面規模は桁行が北側柱列で総長5.89m、柱間寸法が西より1.87m･2.08m･1.94m、梁行が西妻で総長4.45m、柱間寸法が北より2.21m･2.24m、東妻が総長約4.9m、柱

間寸法が北より約2.5m・約2.4mのやや歪んだ建物跡である。方向は北側柱列でみると東で約7度南に偏している。柱穴は一辺25～45cmのやや歪んだ隅丸方形で、深さは33～64cm残存している。柱痕跡は径10～15cmの円形である。柱穴埋土には灰白色火山灰ブロックが混入している。

ＳＢ744Ｂはすべての柱穴を検出し、6ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が北側柱列で総長6.04m、柱間寸法が西より4.18m(2間分)・1.87m、梁行が西妻で総長4.84m、柱間寸法が北より2.44m・2.41mのやや歪んだ建物跡である。方向は南側柱列でみると東で約8度南に偏している。柱穴は一辺35～58cmの隅丸方形で、深さは30～57cm残存しており、1ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径10～17cmの円形で、3ヶ所で柱材が遺存している。

遺物はＳＢ744Ａ･Ｂの柱穴埋土からロクロ調整の土師器坏・耳皿・甕、須恵器坏・高台坏・甕、赤焼土器坏、製塩土器が少量出土している。

(2)竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査区の北半部で2軒検出しているが、いずれも残存状況が悪く、不明な点が多い。

【ＳＩ822竪穴住居跡】(第48･105図)

調査区北西部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ859掘立柱建物跡、ＳＤ907溝跡と重複し、これらより古い。床面は削平されており、部分的に掘り方埋土の残存範囲を確認したが、カマド、貯蔵穴、周溝などは不明である。

平面形は方形と考えられ、規模は主柱穴の位置から推定すると、一辺 3.5m前後と考えられる。方向は西辺でほぼ真北方向である。主柱穴(Ｐ1～4)は住居の対角線上で検出し、径20cmの円形である。掘り方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色土で、深さは3～5cm程残存している。

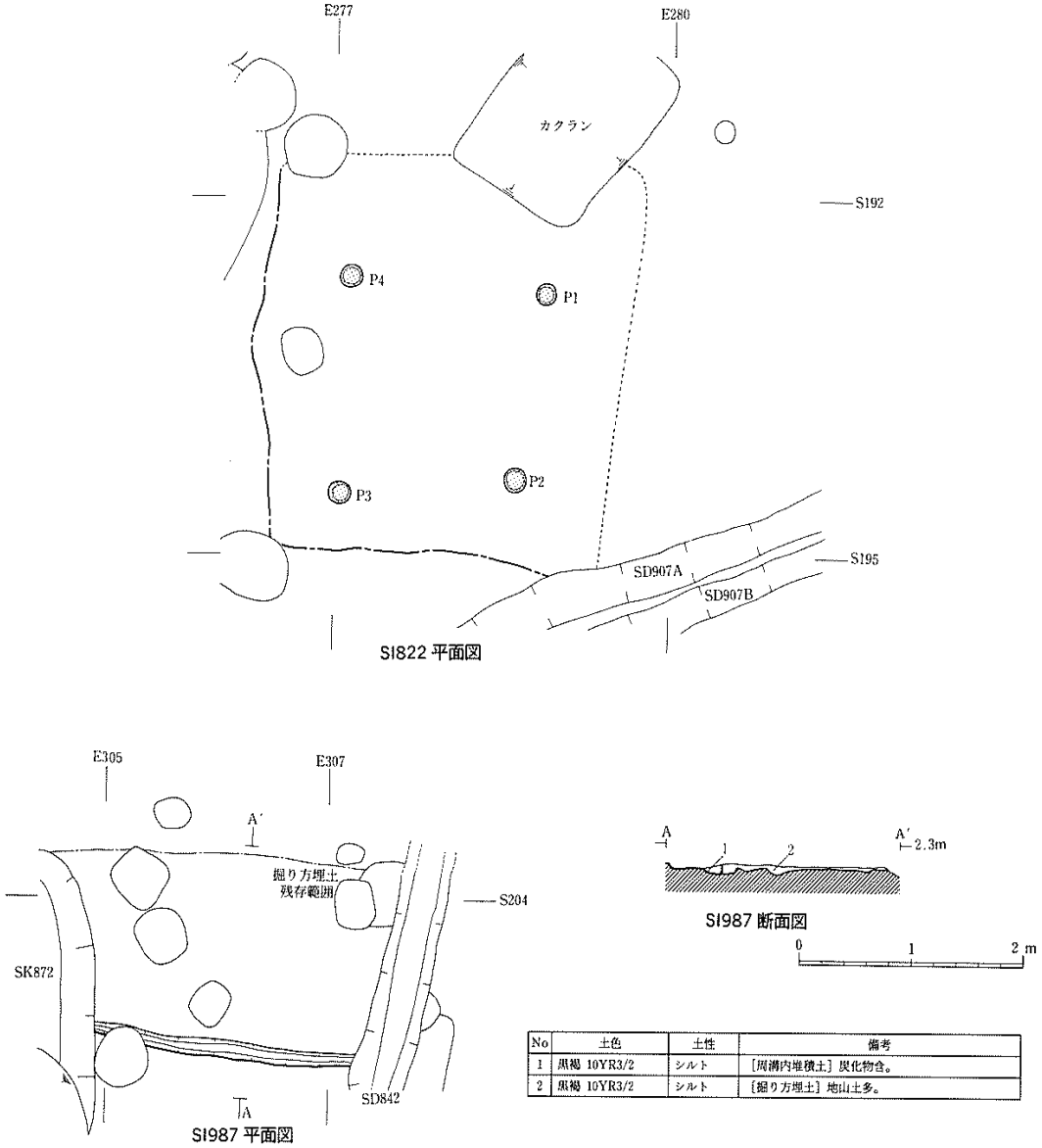
遺物は掘り方埋土から土師器坏･甕、須恵器坏･蓋･甕、瓦の小破片が出土している。土師器は坏･甕とも非ロクロ調整で、坏は無段平底のものが多くみられる。また須恵器坏の底部はヘラ切り無調整が主体となり、静止糸切りも見られる。

【ＳＩ987竪穴住居跡】(第56･107図)

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ986掘立柱建物跡、ＳＫ872土壙、ＳＤ837･842溝跡と重複し、これらより古い。床面は削平されており、南辺周溝の一部と掘り方埋土の残存範囲を確認したが、カマド、貯蔵穴、主柱穴などは不明である。

東辺はＳＤ842、西辺はＳＫ872に壊され、北辺は削平されているため全体の規模･形状は不明で、掘り方埋土は東西2.4m、南北1.7m程残存している。周溝は断面Ｕ字形、幅10～15cmで、深さは8cm程である。掘り方埋土は炭化物、地山ブロックを含む黒褐色土で、深さは8cm程残存している。

遺物は出土していない。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/2	シルト	[周溝内堆積土] 炭化物含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	[掘り方埋土] 地山土多。

第86図　SI822・987住居跡

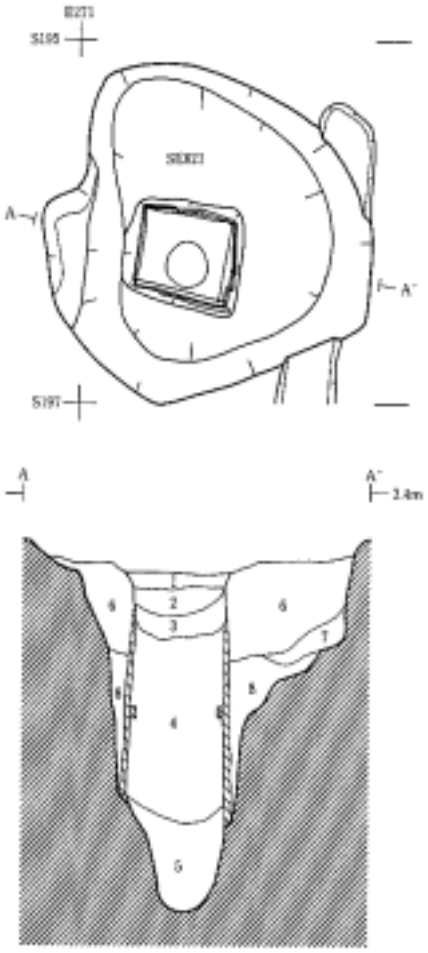
(3) 井戸跡

井戸跡は調査区の北西部で2基、中央付近で3基、南東部で2基の計7基を検出した。これらのうち構造がわかるものは5基（ＳＥ821・892・864・659・660）で、いずれも木組みの井戸枠を有する。

【ＳＥ821井戸跡】（第87･105図）

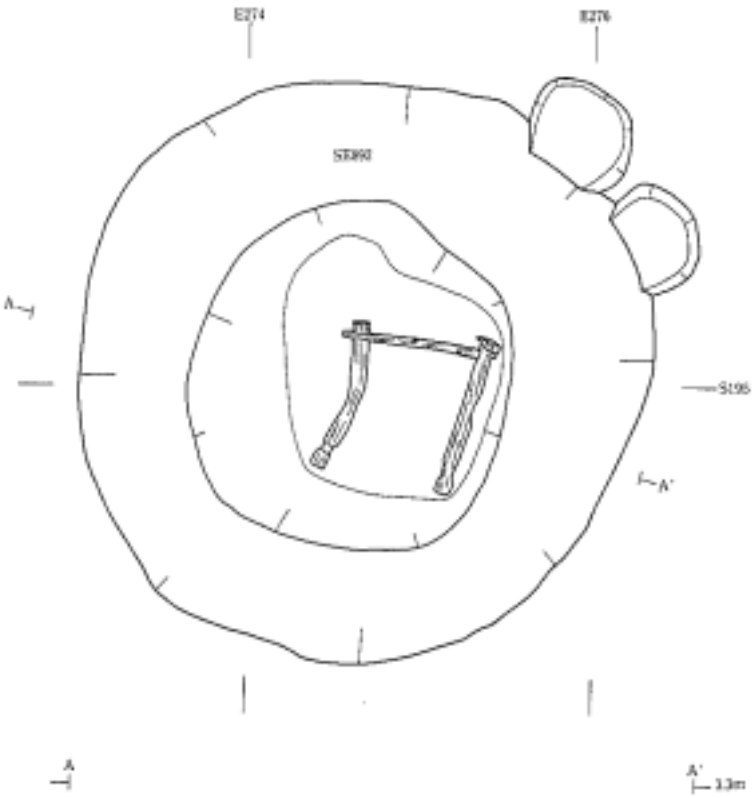
調査区北西部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ859掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

ＳＥ821は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡で、曲げ物は据えられていない。掘り方は長軸1.9m、短軸1.6mの不整形で、検出面からの深さは2.0mである。井戸枠は縦板組みで、掘り方の



No	土色	土性	備　考
1	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	[枠内埋積土] 人為埋積土。地山ブロック含。
2	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	[枠内埋積土] 人為埋積土。
3	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	[枠内埋積土] 人為埋積土。
4	黒褐 2.5Y3/1	粘土	[枠内埋積土] 地山土含。グライ化。
5	オリーブ黒 7.5Y3/1	シルト質粘土	[枠内埋積土] 地山土含。グライ化顕著。
6	黒褐 10YR3/2	シルト	[掘り方埋土] 地山砂多。
7	黒褐 2.5Y3/2	シルト	[掘り方埋土] 地山砂多。炭化物含。
8	オリーブ黒 7.5Y3/1	粘土	[掘り方埋土] グライ化。

SE821 断面図



No	土色	土性	備　考
1	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	[抜取り穴埋積土] 人為埋積土。
2	黒褐 10YR2/2	シルト	[抜取り穴埋積土] 人為埋積土。地山ブロック含。
3	にぶい黒褐 10YR4/3	シルト	[抜取り穴埋積土] 人為埋積土。
4	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	[抜取り穴埋積土] 人為的埋土。地山ブロック含。
5	褐 10YR4/4	砂質シルト	[抜取り穴埋積土] 地山土が層をなす。
6	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	[抜取り穴埋積土]
7	オリーブ褐 2.5Y4/3	砂質シルト	[抜取り穴埋積土] 地山土含。
8	オリーブ黒 5Y3/1	シルト質粘土	[抜取り穴埋積土] ややグライ化。埋積土。
9	オリーブ黒 7.5Y3/1	シルト質粘土	[抜取り穴埋積土] 人為埋積土。地山砂含。
10	灰 5Y4/1	粘土	[枠内埋積土] グライ化顕著。
11	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	[掘り方埋土] グライ化顕著。

SE892 断面図

第87図　SE821・892井戸跡

ほぼ中央に据えられている。各辺2枚の長方形の板材を縦方向に並べて、これを内側から横桟で保持している。規模は内法で東西約48cm、南北約43cmである。縦板材は幅30～40cmのものと幅7～18cmのものを組み合わせており、掘り方底面から116cm残存している。横桟は幅7cm、厚さ3cmの長方形の板材を用い、目違いほぞで組んでいる。掘り方埋土は地山ブロックを含む黒褐色土、オリーブ黒色土である。井戸枠内堆積土は5層に分けられ、4・5層は自然堆積土で、1～3層は井戸廃絶後に人為的に埋め戻されている。

遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器、瓦が少量出土している。坏類の底部調整は土師器坏では手持ちヘラケズリ調整がみられ、また須恵器坏ではヘラ切り無調整が多い。井戸枠内堆積土からはロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏の小破片が数片出土している。また廃絶後の埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦が少量出土している。

【ＳＥ892井戸跡】（第87･105図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ859掘立柱建物跡と重複し、これよりも古い。

ＳＥ892は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡であるが、井戸枠上部は西側から抜き取られている。このため掘り方の規模は不明で、検出面からの深さは約 1.4ｍである。抜き取り穴は径3.1～3.2ｍの円形である。井戸枠は底面の木枠が3辺と北東隅の隅柱が残存しており、その規模は内法で一辺60cm程である。木枠は長さ80cm、径10cm前後の丸材を用いて、北側の丸材の両端に凸ほぞ、東・西側の丸材にほぞ穴をあけて組んでいる。掘り方埋土は地山ブロックを含むオリーブ黒色土である。井戸枠内堆積土（10層）は自然流入土で、約10cm残存している。抜き取り後の堆積土は9層に分けられ、1～4層、9層は人為的に埋め戻され、5～8層は自然堆積土である。

遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器、瓦が出土しており、土師器坏は非ロクロ調整のものが主体で、ロクロ調整の坏の底部調整は手持ちヘラケズリ調整がみられる。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整が多い。井戸枠内堆積土から遺物は出土していない。抜き取り穴堆積土から土師器、須恵器、瓦が出土しており、1～4層からの出土が多く、5～9層からは少ない。1～4層の土師器坏は非ロクロ調整が主体で、外面に手持ちヘラケズリが施され段を持たないものである。またロクロ調整の土師器坏の底部調整は手持ちヘラケズリ調整がみられる。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整が多い。

【ＳＥ950井戸跡】（第107図）

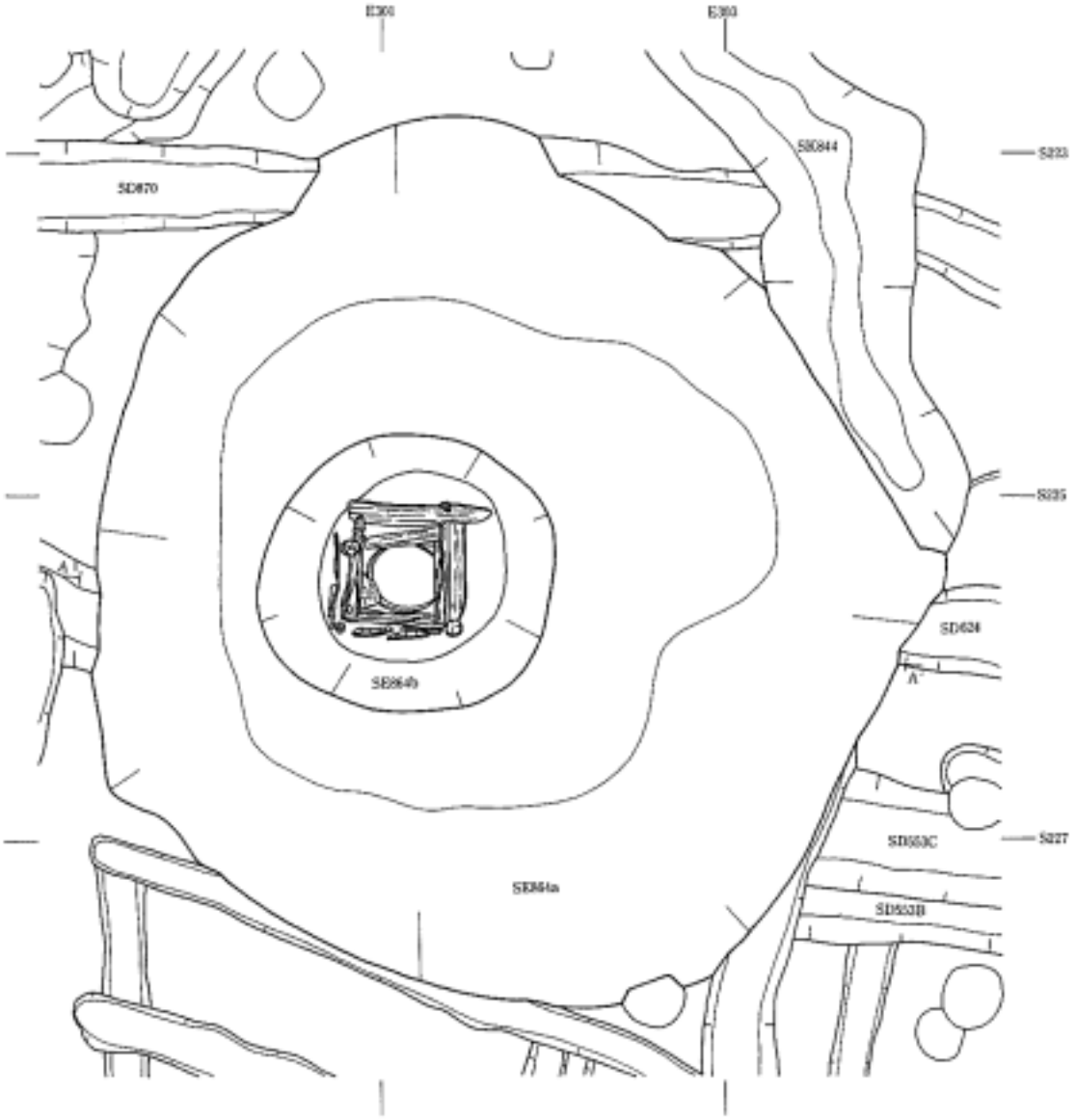
調査区中央北寄りに位置し、基本層位Ⅲａ層上面で検出した。ＳＢ949建物跡、ＳＫ518土壙、ＳＤ501溝跡、ＳＦ566小溝状遺構群と重複し、ＳＫ518、ＳＤ501、ＳＦ566より古いが、ＳＢ949との新旧関係は不明である。

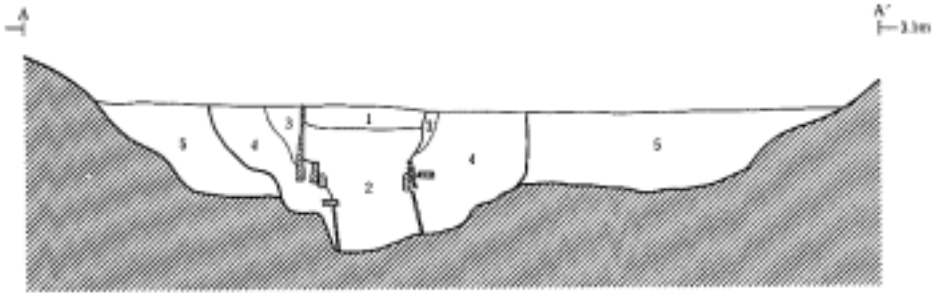
ＳＥ950は掘り方が長軸3.5ｍ、短軸3.2ｍの隅丸方形である。精査を行っていないため井戸の構造・規模などは不明であるが、一辺1.2ｍ程の方形の井戸枠を持つと考えられる。

【ＳＥ864井戸跡】（第88･108図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＥ864は一度作り変えられている（ＳＥ864Ａ→Ｂ）。ＳＫ844土壙、ＳＤ553Ｂ・624・845・870溝跡、ＳＦ897・898小溝状遺構群と重複し、これらより古い。

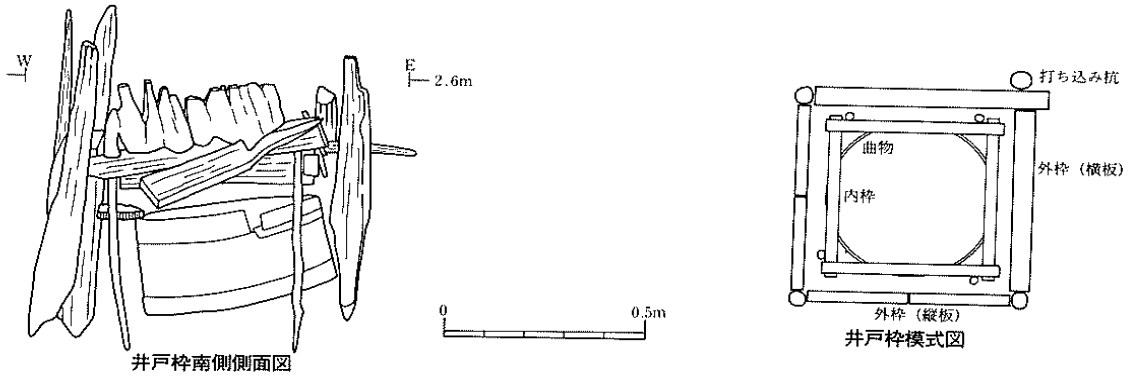
ＳＥ864Ａは後続するＳＥ864Ｂに壊されているため、井戸枠をもつものかどうか不明である。掘り方は





No	土色	土質	備考	
1	褐灰 10YR4/1	粘質シルト	SE864B	[抜き方埋土]グライ化、酸化物・灰白色多。
2	オリーブ黒 5Y3/1	シルト質粘土		[井戸内埋土] グライ化顕著。
3	褐灰 10YR4/1	砂質シルト		[抜き方埋土]
4	褐灰 10YR4/1	砂質シルト		[抜き方埋土] 酸化物・地山土多。
5	褐灰 10YR4/1	粘質シルト	SE864A	[抜き方埋土] 地山土多。

第88図　SE864井戸跡



第89図　SE864井戸跡井戸枠側面および組み方模式図

長軸 2.4m、短軸 2.3mのややゆがんだ隅丸方形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。掘り方埋土は地山ブロックを含む褐灰色土である。

遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器が少量出土している。土師器坏は非ロクロ調整のものが主体で、有段のものや段を持たない平底のものが見られる。

ＳＥ864Ｂは掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡である。掘り方は径 1.6～1.7mのほぼ円形で、検出面からの深さは約 2.0mである。井戸枠は下部は横板組み、上部は北･東側で横板組み、南･西側で縦板組みで、掘り方のほぼ中央に据えられている。井戸枠の下部（内枠）は掘り方底面に径約 45cm の曲げ物を据え、横板を曲げ物の上に重ねるように目違いほぞで井篭組みに据えて、これを外側から打ち込み杭で保持している。一方、上部（外枠）は外側に長方形の板材を北･東側では横板組みに、南・西側では各辺 2 枚を縦板組みに据えて、径 5～10cm の隅柱で保持している。規模は、下部が内法で約 40cm 四方、上部が約 65cm 四方である。掘り方埋土は地山ブロック、炭化物を含む褐灰色土である。井戸枠内堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器、瓦が少量出土しており、土師器坏は非ロクロ調整のものが多く、有段のものや段を持たないものがみられる。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整が多い。また井戸枠内堆積土から土師器、須恵器、瓦が出土しており、土師器甕の出土量が多く、非ロクロ調整のものが主体となる。

【ＳＥ502井戸跡】（第90･109図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面及び基本層位Ⅲａ層上面で検出した。ＳＤ501・553Ｉ溝跡と重複し、ＳＤ553Ｉより新しく、ＳＤ501より古い。

ＳＥ502は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡と考えられるが、井戸枠はすべて抜かれている。掘り方は北側から抜き取る際に壊されているが、おおよそ長軸 3.0m前後、短軸 2.3m前後の隅丸方形もしくは楕円形と考えられ、検出面からの深さは約 1.3mである。（井戸枠の構造及び曲げ物が据えられていたかどうかは不明である。）

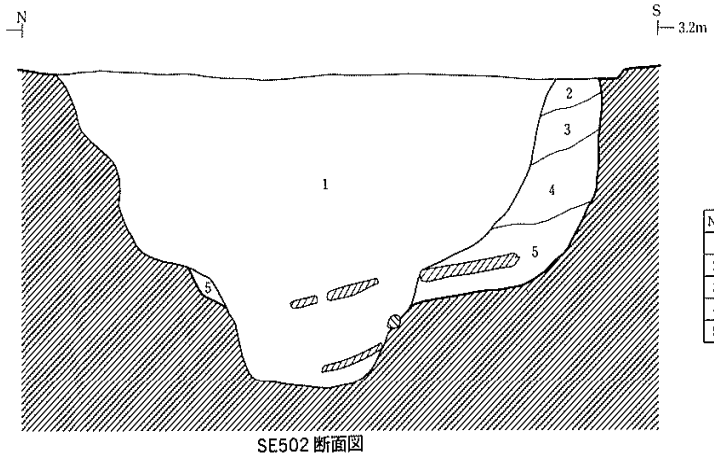
抜き取り穴が掘り方底面より 40cm 前後深く、掘り方埋土は地山砂ブロックを含む黒色土、黒褐色土である。抜き取り後は人為的に埋め戻されている。

遺物は掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、製塩土器の小破片がわずかに出土している。一方、抜き取り穴埋土から土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器、瓦など多量の遺物が出土している。坏類では土師器坏が主体を占め、土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整が多い。須恵器坏の底部調整は回転糸切り無調整が多い。また製塩土器の破片が大量に出土している。

【ＳＥ659井戸跡】（第90･112図）

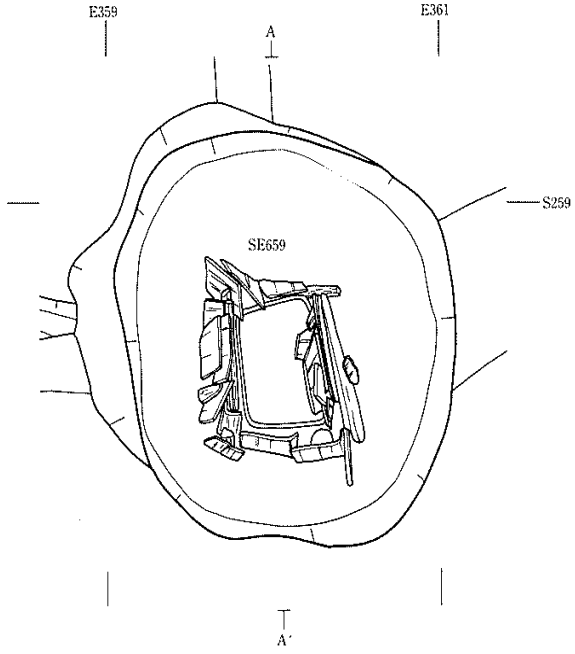
調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ495掘立柱建物跡、ＳＤ671溝跡と重複し、ＳＤ671より古いが、ＳＢ495との新旧関係は不明である。

ＳＥ659は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡で、井戸枠上部は抜かれている。掘り方は長径2.3m、短径2.0mのやや南北に長い楕円形で、検出面からの深さは1.1mである。井戸枠底面は粗

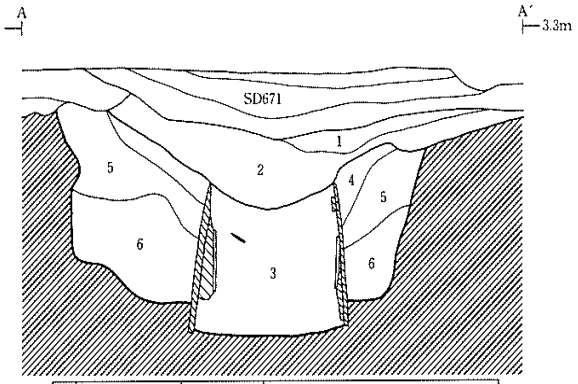


No	土色	土性	備　考
1	黒 10YR1.7/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 人為堆積土。炭化物・遺物多。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土]
3	黒 10YR2/1	シルト	[掘り方埋土]
4	黒 7.5Y2/1	砂質シルト	[掘り方埋土]
5	黒 10YR2/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック含。

SE502断面図



SE659平面図



No	土色	土性	備　考
1	黒 2.5Y2/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 人為堆積土。炭化物含。
2	黒褐 2.5Y3/2	シルト	[抜取り穴堆積土] 人為堆積土。地山砂ブロック多。
3	黒褐色 10YR2/2	粘質シルト	[枠内堆積土]
4	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	砂質シルト	[掘り方埋土]
5	黄灰 2.5Y4/1	粘質シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。
6	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。

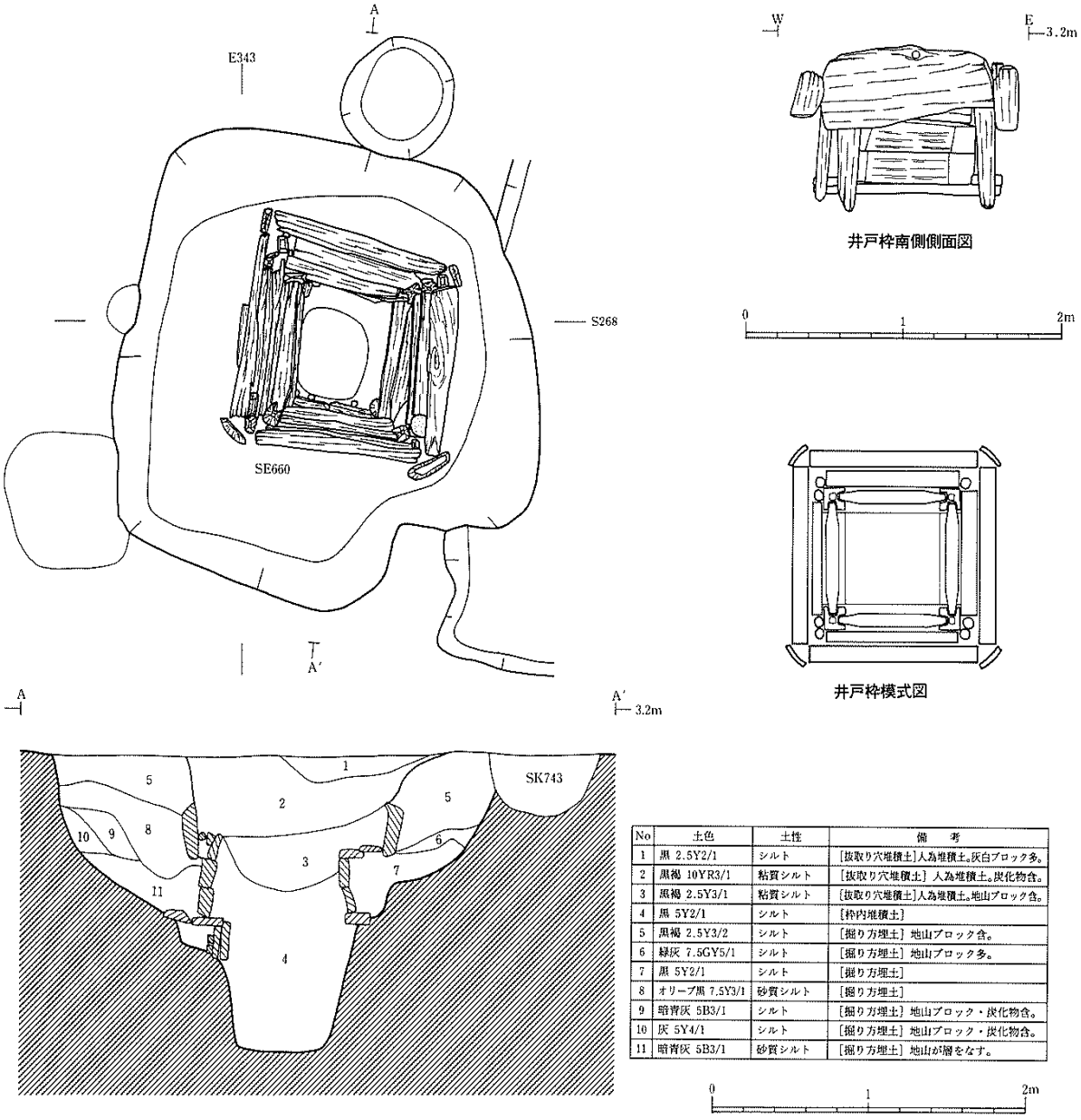
SE659断面図

0　1　2m

第90図　SE502・659井戸跡

砂層まで達している。井戸枠は縦板組みで、掘り方中央やや南よりに据えられている。掘り方底面に隅丸長方形の曲げ物を据え、板材を縦板組みにし、これを内側の隅柱で保持している。東南隅および西南隅は径10cm程の柱材であるが、北側の隅には3cm前後の細い丸材が使われている。規模は内法で南北80cm前後、東西60cm前後である。縦板の外側には曲げ物の蓋板や底板を投げ入れて隙間を埋めている。掘り方埋土は地山ブロックを含む黄灰色土や黒褐色土である。井戸枠内堆積土は自然堆積土である。抜き取り後は炭化物を含む黒色土、黒褐色土で人為的に埋め戻されている。

遺物は掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦が少量出土している。井戸枠内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土し、また木簡（題餞軸）が出土している。抜き取り穴埋土から土師器、須恵器が出土しており、坏類では須恵器坏が主体となる。底部調整は須恵器坏ではヘラ切り無調整が多く、土師器坏では手持ちヘラケズリ調整が多い。



No	土色	土性	備　考
1	黒 2.5Y2/1	シルト	［抜取り穴堆積土］人為堆積土。灰白ブロック多。
2	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］人為堆積土。炭化物含。
3	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］人為堆積土。地山ブロック含。
4	黒 5Y2/1	シルト	［枠内堆積土］
5	黒褐 2.5Y3/2	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック含。
6	緑灰 7.5GY5/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。
7	黒 5Y2/1	シルト	［掘り方埋土］
8	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質シルト	［掘り方埋土］
9	暗青灰 5B3/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック・炭化物含。
10	灰 5Y4/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック・炭化物含。
11	暗青灰 5B3/1	砂質シルト	［掘り方埋土］地山が層をなす。

第91図　SE660井戸跡面図

【ＳＥ660井戸跡】（第78･111図）

調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ595･816 掘立柱建物跡、ＳＫ743 土壙、ＳＤ570 溝跡と重複し、これらより古い。

ＳＥ660 は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡で、井戸枠上部は抜かれている。掘り方は長軸 2.9m、短軸 2.7mの南側中央から西がやや膨らむ隅丸方形で、段掘りしている。検出面からの深さは 1.0mである。井戸枠は横板組みで、掘り方中央に据えられている。井戸枠の下部は長方形の板材を井桁に組み、組み合わせた部分にはほぞ穴をあけ隅柱を立てている。隅柱に溝状の掘り込みを作り、両端を削りこんで薄くした長方形の板材を横方向に 2～3 段まではめ込んでいる。はめ込まない板材は隅柱を 1～2 本据え保持している。上部は外側に板状の材を横板組みに据え、四隅の縦板で保持している。井戸枠の規模は、下部が内法で南北 0.75m、東西 0.55m、上部が南北約 1.1m、東西約 1.1mである。曲げ物は携えられておらず、掘り方底面から 80cm 程掘り下げて水溜としている。掘り方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色土、暗青灰色土などである。井戸枠内堆積土は 1 層で、自然堆積土である。抜き取り後は人為的に埋め戻されている。

掘り方南側が不整に膨らんで広くなっているのは、井戸枠を構築する際の作業スペースと考えられる。また水溜の南壁上部に板材を杭で押さえている部分があり、構築時に壁が崩れたための補修と考えられる。

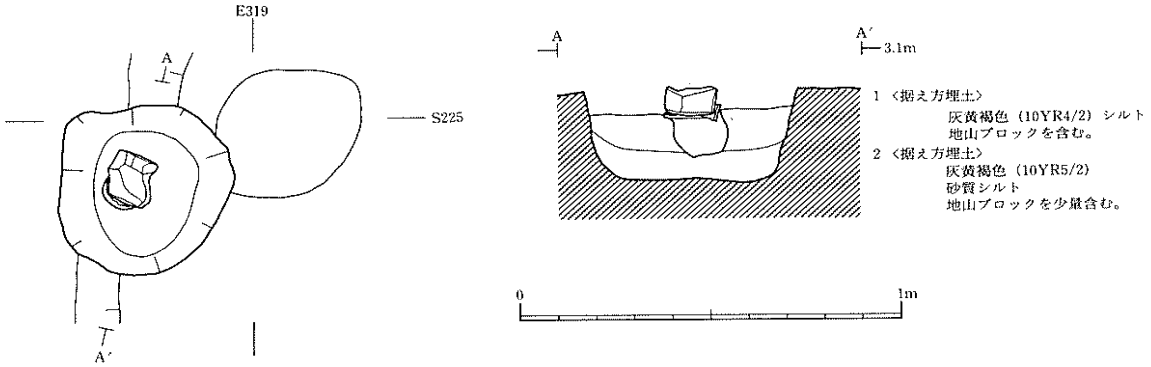
遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器、瓦が出土しており、坏類では須恵器坏が多く、底部調整は須恵器坏ではヘラ切り無調整、手持ちヘラケズリ調整が多い。井戸枠内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦が少量出土している。また抜き取り穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦が出土しており、坏類の底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整が多い。

(4) 土器埋設遺構

調査区内で土器埋設遺構を 1 基検出した。

【ＳＸ990土器埋設遺構】（第109図）

調査区の中央北寄りに位置し、基本層位Ⅲａ層上面で検出した。ＳＤ802溝跡と重複し、これより新しい。



第92図　SX990土器埋設遺構

据え方は径45～50cm、深さ27cmの断面形が逆台形状をなすほぼ円形の小土壙である。凝灰岩で蓋をしたロクロ調整の土師器甕を正位に据えている。埋土は地山土のブロックが混入する灰黄褐色土からなる。

(5)竪穴遺構

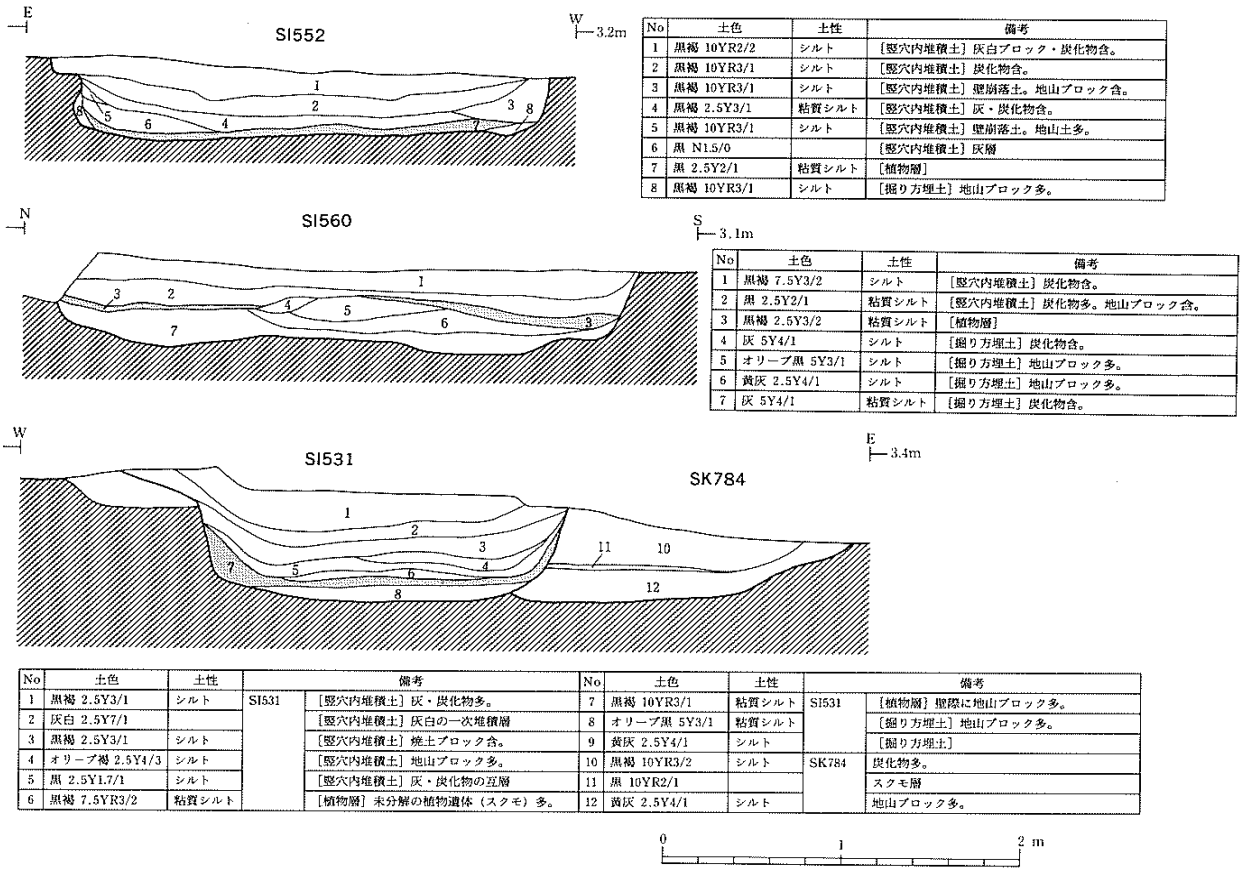
竪穴遺構は調査区の中央北寄りで2基、中央付近で1基、南東部で1基の計4基を検出した。

【ＳＩ552竪穴遺構】(第109図)

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。

平面形は長軸2.9m、短軸2.6mの不整な隅丸長方形を呈する。床は地山および地山ブロックを含む黒褐色土を用いた掘り方埋土の上面を床面としており、その直上には植物遺体(7層)が6cm程の厚さで認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、約41cm残存している。東辺中央に床面から約30cm程の部分にテラス状の段がみられる。方向は東で約10度南に偏している。遺構内堆積上はいずれも自然堆積土(1～6層)で、1層には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

遺物は遺構内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。坏類では土師器坏が主体となり、須恵器坏、赤焼土器坏は少ない。底部調整は土師器坏では手持ちヘラケズリ調整が多い。また掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土している。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	[竪穴内堆積土] 灰白ブロック・炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[竪穴内堆積土] 炭化物含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	[竪穴内堆積土] 壁崩落土。地山ブロック含。
4	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	[竪穴内堆積土] 灰・炭化物含。
5	黒褐 10YR3/1	シルト	[竪穴内堆積土] 壁崩落土。地山土多。
6	黒 N1.5/0		[竪穴内堆積土] 灰層
7	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	[植物層]
8	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック多。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 7.5Y3/2	シルト	[竪穴内堆積土] 炭化物含。
2	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	[竪穴内堆積土] 炭化物多。地山ブロック含。
3	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト	[植物層]
4	灰 5Y4/1	シルト	[掘り方埋土] 炭化物含。
5	オリーブ黒 5Y3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック多。
6	黄灰 2.5Y4/1	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック多。
7	灰 5Y4/1	粘質シルト	[掘り方埋土] 炭化物含。

No	土色	土性		備考	No	土色	土性		備考
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SI531	[竪穴内堆積土] 灰・炭化物多。	7	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	SI531	[植物層] 壁際に地山ブロック多。
2	灰白 2.5Y7/1			[竪穴内堆積土] 灰白の一次堆積層	8	オリーブ黒 5Y3/1	粘質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
3	黒褐 2.5Y3/1	シルト		[竪穴内堆積土] 焼土ブロック含。	9	黄灰 2.5Y4/1	シルト		[掘り方埋土]
4	オリーブ褐 2.5Y4/3	シルト		[竪穴内堆積土] 地山ブロック多。	10	黒褐 10YR3/2	シルト	SK784	炭化物多。
5	黒 2.5Y1.7/1	シルト		[竪穴内堆積土] 灰・炭化物の互層	11	黒 10YR2/1			スクモ層
6	黒褐 7.5YR3/2	粘質シルト		[植物層] 未分解の植物遺体(スクモ)多。	12	黄灰 2.5Y4/1	シルト		地山ブロック多。

第93図　SI552・560・531竪穴遺構

【ＳＩ560竪穴遺構】（第110図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。土壙北側の一部は調査区外になる。ＳＢ490･795掘立柱建物跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長軸3.5m、短軸2.9mの隅丸長方形を呈する。床は地山ブロックを含む灰色土・黄灰色土を用いた掘り方埋土の上面を床面としており、その直上には中央の一部を除いて植物遺体が4cm程の厚さで認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、約25cm残存している。方向は北で約15度東に偏している。遺構内堆積土はいずれも自然堆積土（1・2層）からなる。

遺物は遺構内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器が出土している。坏類では土師器坏が主体となり、底部調整は、土師器坏では回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整が多く、須恵器坏では回転糸切り無調整が多い。また掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土している。

【ＳＩ531竪穴遺構】（第69･109図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＫ530･784土壙、ＳＤ553Ｃ溝跡と重複し、ＳＫ786、ＳＤ553Ｃより新しく、ＳＫ530より古い。

平面形は長径2.1m、短径1.7m以上で円形または楕円形と考えられる。床は地山ブロックを含むオリーブ黒色土を用いた掘り方埋土の上面を床面としており、その直上には植物遺体(7層)が5cm程の厚さで認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、約50cm残存している。西辺中央に床面から約40cmの部分にテラス状の段がみられる。方向は不明である。遺構内堆積土はいずれも自然堆積土(1～6層)で、2層は灰白色火山灰の1次堆積層からなる。

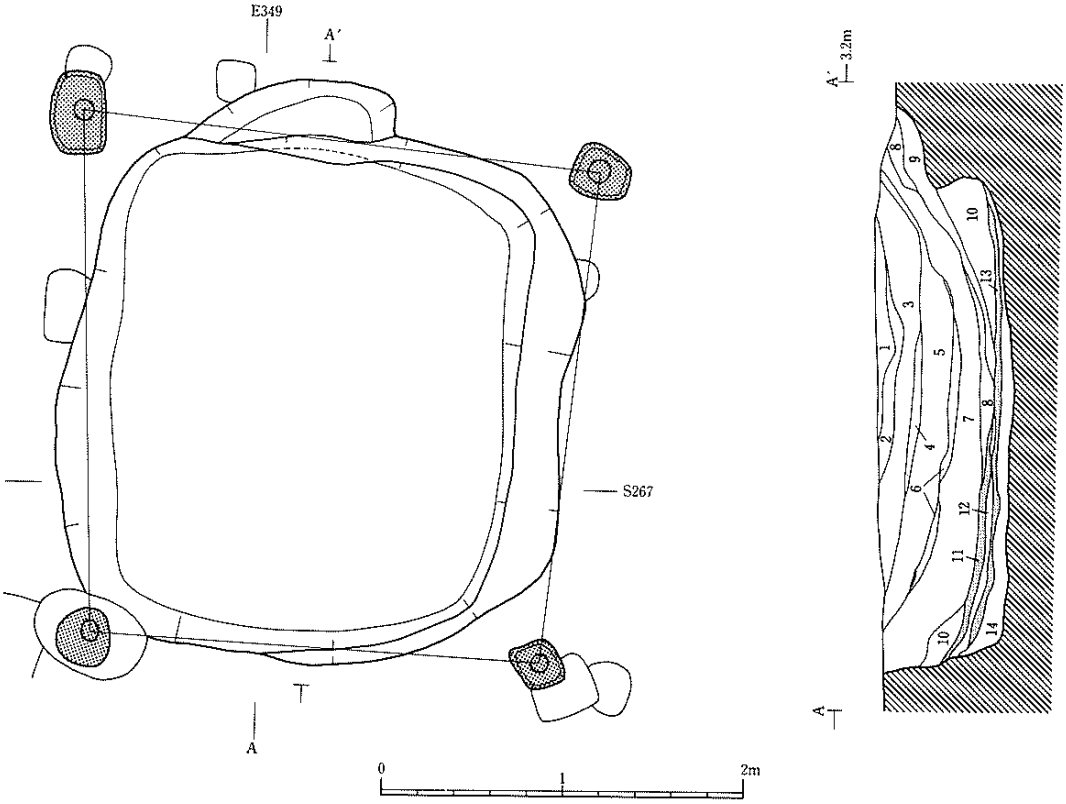
遺物は遺構内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器が出土しており、特に3～6層中から多く出土している。坏類では土師器坏が主体となり、底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整がほとんどを占める。また掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土している。

【ＳＩ579竪穴遺構】（第112図）

調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＫ656・729土壙と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長軸2.9m、短軸2.7mの隅丸長方形を呈する。床は地山ブロックを含む黄灰色土を用いた掘り方埋土の上面を床面としている。その直上には床全体を覆って植物遺体(13層)が4cm程の厚さで認められ、さらに南半部では同様の植物遺体(11層)が間層を挟んで5cm程の厚さで検出されている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北側では部分的に内傾し、約50cm程残存している。北辺中央に床面から約35cmの部分に張り出したテラス状の段がみられる。方向はほぼ真北方向である。遺構内堆積土はいずれも自然堆積土（1～10・12層）である。1層には灰白色火山灰ブロックが含まれ、2・4・6・8・12層は炭化物が層をなしている。なお、本竪穴遺構の四隅で柱穴を確認している。重複関係や位置、方向などからみて、これらは屋根を支えた柱の可能性が高い。柱間寸法は北側で2.87m、東側で2.90mである。柱穴は一辺30～45cmの隅丸方形で、深さは19～41cm残存している。柱痕跡は径8～13cmの円形である。

遺物は遺構内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。赤焼土器は1・2層から出土している。坏類では土師器坏が主体となり、底部調整は土師器坏では回転糸切り無



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	［竪穴内堆積土］灰白ブロック・炭化物・焼土含。	8	黒 N1.5/0	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物層。焼土含。
2	黒 7.5YR1.7/1	シルト	［竪穴内堆積土］灰白の一次堆積層	9	黒褐 2.5Y3/1	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物・地山粒含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	［竪穴内堆積土］灰白ブロック・炭化物含。	10	黄褐 2.5Y5/3	シルト	［竪穴内堆積土］壁崩落土
4	黒 10YR2/1	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物層。焼土含。	11	黒褐 10YR2/3	粘質シルト	［植物層］
5	黒褐 10YR2/2	シルト	［竪穴内堆積土］灰・炭化物・焼土多。	12	黒 N1.5/0	シルト	［炭化物層］
6	黒 2.5Y2/1	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物・灰の互層	13	黒褐 10YR2/3	粘質シルト	［植物層］
7	黒褐 2.5Y3/1	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物・地山土含。	14	黄灰 2.5Y4/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック含。

第94図　SI579竪穴遺構

調整が主体となる。須恵器坏は回転糸切り無調整のものが多い。また墨書された土器が多く出土している。掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

(6) 土壙

調査区内で土壙を135基以上検出した。これらは区画全体に分布しているが、とくに調査区中央付近に集中して見られる。これらの中には完形に近い多量の土器がまとまって出土した、いわゆる土器溜（ＳＫ503・507・521・551・820）もみられる。ここでは、出土遺物の多いものや、他の遺構との重複関係においてある程度年代が把握できるものを中心に説明し、その他の土壙については平面形や規模等を一括して一覧表に掲載した。

【ＳＫ820土壙】（第95･105図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した、いわゆる土器溜である。ＳＢ859掘立柱建物跡と重複しているが、直接の切り合いがないため新旧関係は不明である。

平面形は長軸1.7m、短軸1.3mの東西に長い隅丸長方形で、深さは30cmである。断面形は浅い皿状

を呈する。堆積土は2層に分けられ、いずれも自然堆積土からなる。

遺物は1層から坏を中心に重なりあった状態で検出され、土師器坏が20個体出土した。これらの底部調整は回転糸切り無調整のものが多く、一部に手持ちヘラケズリ調整のものもみられる。このほか土師器高台皿・高台坏、緑釉陶器椀がある。

【ＳＫ521土壙】（第95･109図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した、いわゆる土器溜である。

平面形は径0.7～0.9ｍの円形であるが、精査を行っていないため、深さ・断面形は不明である。

遺物は検出面からロクロ調整の土師器、須恵器などが坏を中心に重なりあった状態で出土した。坏類の底部調整は須恵器坏ではヘラ切り無調整や回転糸切り無調整がみられ、土師器坏では回転糸切り無調整、手持ちヘラケズリ、回転ヘラケズリが混在してみられる。

【ＳＫ551土壙】（第95･109図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した、いわゆる土器溜である。ＳＫ794と重複し、これよりも新しい。

平面形は長径1.3ｍ、短径0.9ｍのややゆがんだ南北に長い楕円形で、深さは32cmである。断面形はすりばち状を呈する。堆積土はいずれも自然堆積土（1～3層）からなり、1・2層には灰白色火山灰粒が含まれる。

遺物は1・2層から坏を中心に重なりあった状態で検出され、土師器坏が14個体、赤焼土器が13個体、須恵器もしくは赤焼土器坏が3個体出土した。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものがほとんどである。このほか須恵器甕、羽口などがある。

【ＳＫ503土壙】（第95･109図）

調査区中央付近に位置し、基本層位Ⅲａ層上面で検出した、いわゆる土器溜である。ＳＤ553Ⅰ・580・802溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長軸1.2ｍ、短軸1.0ｍのやや南北に長い隅丸長方形で、深さは50cmである。断面形はすりばち状を呈する。堆積土はいずれも自然堆積土（1～4層）からなり、1～3層には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

遺物は1～3層から坏を中心に重なりあった状態で検出され、赤焼土器坏が38個体、土師器坏が10個体、須恵器もしくは赤焼土器坏が5個体が出土した。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。このほか土師器高台坏、赤焼土器三足皿、須恵器長頸壺などがある。

【ＳＫ507土壙】（第95･109図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した、いわゆる土器溜である。ＳＤ628・629溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は径0.9ｍ前後の円形で、深さは21cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土はいずれも自然堆積土（1・2層）からなり、1層には灰白色火山灰粒が含まれる。

遺物は1層から坏を中心に重なりあった状態で検出され、土師器坏が16個体、赤焼土器坏が7個体、須恵器もしくは赤焼土器坏が3個体が出土した。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものが多

い。このほか土師器耳皿や、土師器甕、須恵器甕・壷などの破片も少量出土している。

【ＳＫ952 土壙】（第95･106図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した。ＳＡ831 塀跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、ＳＡ831 より新しく、ＳＦ824 より古い。

平面形は長軸 2.3m、短軸 2.1mの不整形で、深さは 62cm である。断面形は逆台形状を呈し、底面に凹凸がある。堆積土は 6 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土から土師器、須恵器などが少量出土している。土師器坏・甕ともロクロ調整のものと非ロクロ調整のものがあり、非ロクロ調整が多い。また 3 層上面から漆紙文書が出土している。

【ＳＫ828 土壙】（第106図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した。

平面形は長径1.4m、短径1.2mのややゆがんだ南北に長い楕円形で、深さは14cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土しており、特にロクロ調整の土師器甕の破片が多い。坏類の底部調整は土師器では手持ちヘラケズリ調整のものが多く、また須恵器ではヘラ切り無調整のものが多い。

【ＳＫ836 土壙】（第95･106図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ909 掘立柱建物跡と重複し、これよりも新しい。

平面形は長軸1.4m、短軸1.0mの南北に長い隅丸長方形で、深さは46cmである。断面形はすりばち状を呈する。堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、非ロクロ調整の土師器甕、須恵器などが出土している。坏類の底部調整は須恵器坏では回転糸切り無調整とヘラ切り無調整がみられる。

【ＳＫ872 土壙】（第95･106図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ879･986 掘立柱建物跡、ＳＩ987 竪穴住居跡と重複し、ＳＩ987 より新しく、ＳＢ879・986 より古い。

平面形は長径3.5m、短径2.9mの南北に長い楕円形で、深さは33cmである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積土である。

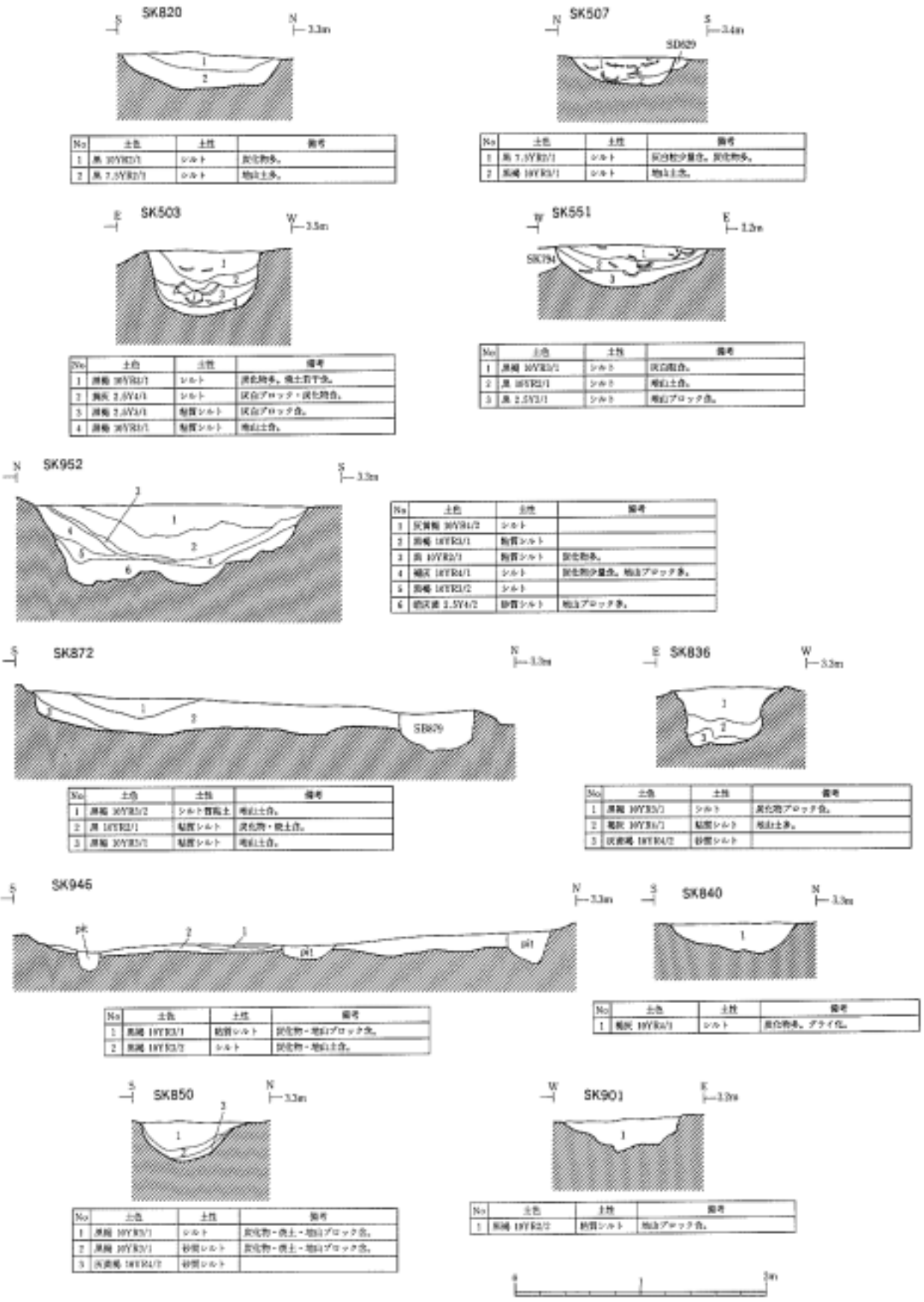
遺物は堆積土から土師器、須恵器などが出土している。土師器坏にはロクロ調整と、非ロクロ調整のものが混在する。

【ＳＫ946 土壙】（第95･106図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ943 掘立柱建物跡、ＳＤ832 溝跡と重複し、これらより古い。

平面形は長軸4.3m、短軸3.4mの南北に長い不整形で、深さは23cmである。断面形は浅い皿状を呈し、西側で長軸 1.0m、短軸 0.5mの範囲で浅いくぼみがみられる。堆積土は 1 層で、自然堆積土である。

遺物は非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕などが少量出土している。



No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	炭化物多。
2	黒 7.5YR2/1	シルト	地山土多。

No	土色	土性	備考
1	黒 7.5YR2/1	シルト	灰白粒少量含。炭化物多。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	地山土含。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物多。焼土粒干含。
2	黒灰 2.5Y4/1	シルト	灰白ブロック・炭化物含。
3	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	灰白ブロック含。
4	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	地山土含。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白粒含。
2	黒 10YR2/1	シルト	地山土含。
3	黒 2.5Y2/1	シルト	地山ブロック含。

No	土色	土性	備考
1	灰黄褐 10YR4/2	シルト	
2	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	
3	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物多。
4	暗灰 10YR4/1	シルト	炭化物少量含。地山ブロック多。
5	黒褐 10YR3/2	シルト	
6	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	地山ブロック多。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/2	シルト質粘土	地山土含。
2	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物・焼土含。
3	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	地山土含。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物ブロック含。
2	褐灰 10YR4/1	粘質シルト	地山土多。
3	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト	

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物・地山ブロック含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	炭化物・地山土含。

No	土色	土性	備考
1	褐灰 10YR4/1	シルト	炭化物多。グライ化。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物・焼土・地山ブロック含。
2	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	炭化物・焼土・地山ブロック含。
3	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト	

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	地山ブロック含。

第96図　北１西３区土壙断面図(1)

【ＳＫ840 土壙】（第95･106図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ948 掘立柱建物跡、ＳＫ901 土壙、ＳＦ838 小溝状遺構群と重複し、ＳＫ901 より新しく、ＳＢ948、ＳＦ838 より古い。

平面形は長軸 7.9m、短軸 1.1m前後の東西に長い楕円形である。中央付近で底面が浅く、東側と西側が深くなり、長軸でみると東側 3.3m、西側 4.1mである。深さは 23cm で、断面形は皿状を呈する。堆積土は１層で、自然堆積土である。

遺物は堆積土から土師器、須恵器などが出土している。土師器は坏・甕とも非ロクロ調整がほとんどである。坏類では須恵器坏が主体をなし、底部調整はヘラ切り無調整のものが多い。土師器坏ではロクロ調整の坏は手持ちヘラケズリ調整がみられ、非ロクロ調整の坏は段を持たず、外面に手持ちヘラケズリが施される。また土師器蓋は両面ミガキ調整で黒色処理されたものである。

【ＳＫ850 土壙】（第95・106図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＦ838 小溝状遺構群と重複し、これよりも古い。

平面形は長軸 2.5m、短軸 0.9mの東西に長い不整形で、深さは 31cm である。断面形は皿状を呈する。堆積土は３層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。坏類では須恵器坏が多く、底部調整は須恵器坏ではヘラ切り無調整が多く、土師器坏では手持ちヘラケズリ調整、回転ヘラケズリ調整がみられる。

【ＳＫ901 土壙】（第95･106図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＫ840 土壙、ＳＦ838 小溝状遺構群と重複し、これらよりも古い。

平面形はＳＫ840 に壊されているが、長径 1.3m、短径 0.9mの南北に長い楕円形と考えられ、深さは 27cm である。断面形は皿状を呈し、底面に凹凸がある。堆積土は１層で、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器甕、須恵器坏・蓋・甕などが少量出土している。

【ＳＫ796 土壙】（第110図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ765 掘立柱建物跡、ＳＤ605 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は北側が調査区外になるが、長径 1.3m以上、短径 0.7mの楕円形と考えられ、深さは 27cm である。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は１層で、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが少量出土している。坏類では土師器坏が多い。

【ＳＫ844 土壙】（第96･108図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＥ864 井戸跡、ＳＤ845・870・910 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長軸 4.6m、短軸 0.6～0.9mの南北に長い不整形で、深さは 32cm である。断面形は短軸方向でＵ字状を呈する。堆積土は２層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。坏類では須恵器坏が多く、底部調整はヘラ切り無調整のものが主体をなしている。土師器坏では回転ヘラケズリ調整のものが多い。また「生」と墨書された坏が6点みられる。

【ＳＫ568土壙】（第96･108･109図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＤ845・870溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長径2.5m、短径1.5mの不整形で、深さは48cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は4層に分けられ、自然堆積土である。堆積土には灰白色火山灰ブロックが含まれ、また4層はスクモ層である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。坏類では須恵器坏が多く、赤焼土器坏は少ない。底部調整は須恵器坏では回転糸切り無調整とヘラ切り無調整のものが多く、土師器坏では回転糸切り無調整のものが主体となる。

【ＳＫ530土壙】（第96･109図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＩ531竪穴遺構、ＳＤ553Ｉ溝跡、ＳＫ784土壙と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長辺4.3m、短辺2.3mの不整な長方形で、深さは111cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は4層に分けられ、1・2層は人為的に埋め戻され、3・4層は自然堆積土である。なお、4層に灰白色火山灰ブロックが含まれるが、これはＳＩ531起源のものと考えられる。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕・壺、赤焼土器坏・高台坏、製塩土器、瓦などが出土している。

【ＳＫ784土壙】（第93･109図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した。ＳＩ531竪穴遺構、ＳＤ553Ｅ溝跡、ＳＫ530土壙と重複し、これらよりも古い。

平面形はＳＩ531、ＳＫ530に大きく壊されているため不明であるが、円形もしくは楕円形と考えられる。規模は長径1.9m以上、短径1.5m以上確認しており、深さは39cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土は3層に分けられ、自然堆積土である。2層はスクモ層である。

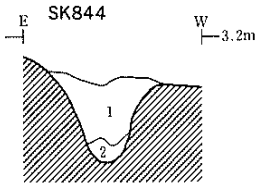
遺物は1・2層堆積土から非ロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。坏類の底部調整は須恵器坏ではヘラ切り無調整のものがみられる。土師器坏は段を持たず、内面が黒色処理され外面に手持ちヘラケズリが施される。

【ＳＫ506土壙】（第96･109図）

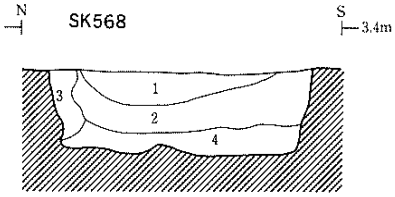
調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ510掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

平面形は長径1.6m、短径1.1mの南北に長い楕円形で、深さは17cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に分けられ、自然堆積土である。

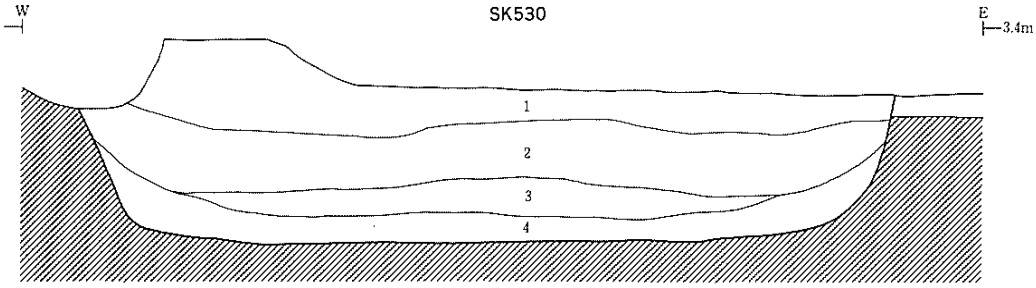
遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕・壺、製塩土器などが出土している。



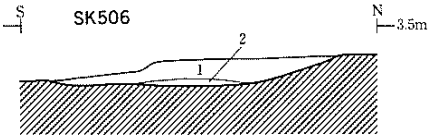
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	炭化物多。焼土ブロック含。
2	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	



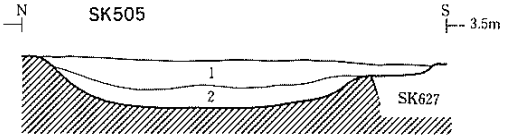
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白粒・炭化物・焼土含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	灰白ブロック・炭化物・焼土含。
3	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	地山土多。
4	黒 10YR2/1	シルト質粘土	スクモ層。灰白ブロック・炭化物含。



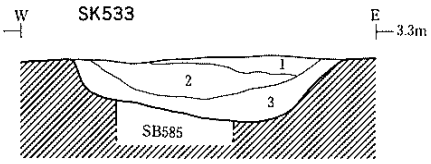
No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	人為堆積土。地山砂ブロック多。	3	灰 7.5Y4/1	砂	ややグライ化。
2	黒 10YR2/1	粘質シルト	人為堆積土。地山ブロック多。	4	黒 5Y2/1	粘土	灰白ブロック多。



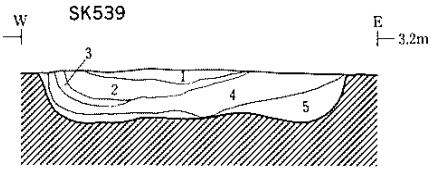
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/2	シルト	炭化物多。焼土含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	地山ブロック多。



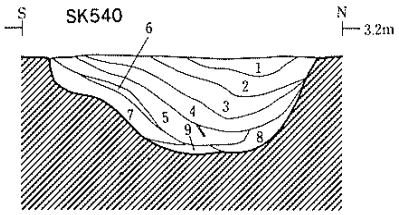
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白ブロック含。炭化物・焼土多。
2	黒 10YR2/1	シルト	地山ブロック多。



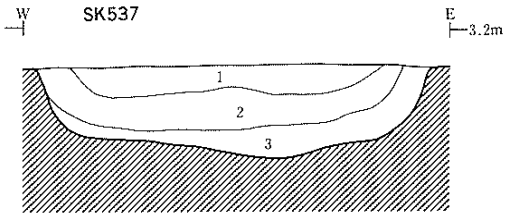
No	土色	土性	備考
1	黄灰 2.5Y4/1	シルト	灰白ブロック含。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト	灰・炭化物の互層。
3	黒褐 2.5Y3/2	シルト	灰白ブロック含。



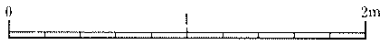
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物含。
2	黒 10YR2/1	シルト	
3	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	炭化物が層をなす。
4	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	灰白ブロック・炭化物含。
5	黒 10YR2/1	粘質シルト	灰白ブロック含。



No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	灰が薄く層をなす。炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	灰白ブロック含。灰・炭化物多。
3	黒 2.5Y2/1	シルト	灰・炭化物多。
4	黄灰 2.5Y5/1	シルト	灰・焼土の互層。
5	黄灰 2.5Y4/1	シルト	焼土ブロック含。
6	黒 5Y2/1	シルト	灰・炭化物の互層。
7	黒褐 2.5Y3/1	粘土	地山ブロック多。
8	黒褐 2.5Y3/1	粘土	炭化物含。
9	黒 N2/0	シルト	炭化物・灰含。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	灰白ブロック多。
2	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	灰・炭化物の互層。
3	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物・地山ブロック含。



第96図　北１西３区土壙断面図(2)

【ＳＫ505 土壙】（第96･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ510･584 掘立柱建物跡、ＳＫ627 土壙と重複し、ＳＢ584、ＳＫ627 より新しいが、ＳＢ510 との新旧関係は不明である。

平面形は長径 2.3m、短径 2.0mの楕円形で、深さは 28cm である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積土である。1 層には灰白色火山灰ブロック、炭化物、焼土が含まれる。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器、瓦などが出土している。坏類では土師器坏と赤焼土器坏が多く、底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ533 土壙】（第96･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ585 掘立柱建物跡と重複し、これよりも新しい。

平面形は長径 1.6m、短径 1.3mの不整形で、深さは 37cm である。断面形は皿状を呈し、底面は東側が深くなる。堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積土である。堆積土に灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器などが出土している。坏類では土師器坏が主体となり、底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ537 土壙】（第96･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ585 掘立柱建物跡、ＳＤ763 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長軸2.3m、短軸1.8mの東西に長い隅丸長方形で、深さは51cmである。断面形は逆台形状を呈し、底面に凹凸がある。堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積土である。1・2 層に灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器などが出土している。坏類では土師器坏、赤焼土器坏が多く、須恵器坏は少ない。底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ540 土壙】（第96･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＤ553Ｃ･763 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長径1.7m、短径1.4mのややゆがんだ楕円形で、深さは52cmである。断面形はすりばち状を呈する。堆積土は 9 層に分けられ、自然堆積土である。2 層に灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。坏類では赤焼土器坏が主体となる。底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ539 土壙】（第96･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＤ553Ｃ溝跡と重複し、これよりも新しい。

平面形は長径2.0m、短径1.7mの南北に長い楕円形で、深さは29cmである。断面形は逆台形状を呈し、底面に凹凸がある。堆積土は 5 層に分けられ、自然堆積土である。4・5 層に灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。坏類では赤焼土器坏が主体となり、須恵器坏は少ない。底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ541 土壙】（第97･109図）

調査区中央南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ756･757 掘立柱建物跡、ＳＫ524 土壙と重複し、ＳＢ756・757 より新しく、ＳＫ524 より古い。

平面形は長軸4.7m、短軸2.0mの西側がややゆがんだ東西に長い隅丸長方形で、深さは69cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は7層に分けられ、自然堆積土である。1～4層は炭化物を多く含み、遺物が多量に出土している。5層はスクモ層で東半にみられる。

遺物は堆積土から土師器、須恵器、製塩土器などが出土している。土師器は坏はすべてロクロ調整で、甕はロクロ調整と非ロクロ調整がある。坏類では土師器坏が主体となり、底部調整は回転糸切り無調整のものが大半を占めるが、手持ちヘラケズリ調整のものも多くみられる。須恵器坏では回転糸切り無調整のものが主体をなすが、ヘラ切り無調整のものも比較的多くみられる。

【ＳＫ775 土壙】（第97･110図）

調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ798･809 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ798 より新しく、ＳＢ809 より古い。

平面形は長径1.7m、短径1.2mの南北に長い楕円形で、深さは42cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は5層に分けられ、自然堆積土である。3層はスクモ層で、2層に灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物はロクロ調整の土師器坏、須恵器坏・甕の小破片のみである。

【ＳＫ558 土壙】（第111図）

調査区南東部に位置し、地山面及び基本層位Ⅲａ層上面で検出した。ＳＢ777・779 掘立柱建物跡、ＳＤ641 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は径1.6mの円形で、深さは16cmである。断面形は皿状を呈する。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。坏類では土師器坏が多く、底部調整は手持ちヘラケズリ調整や回転ヘラケズリ調整のものがみられる。須恵器坏では回転糸切り無調整のものが大半を占める。

【ＳＫ581 土壙】（第97･112図）

調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ814 掘立柱建物跡、ＳＤ682 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

平面形は長径4.6m、短径1.7mの南北に長い楕円形で、深さは38cmである。断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器などが出土している。坏類では土師器が主体をなし、赤焼土器が少量含まれる。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ714 土壙】（第97･111図）

調査区南東部に位置し、地山面で検出した。直接の切り合いはないが、ＳＢ816 掘立柱建物跡より新しい。

平面形は長径1.1m、短径0.8mの東西に長い楕円形で、深さは62cmである。断面形はすりばち状を呈する。堆積土は6層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。坏類では土師器坏が大半を占め、底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＫ718土壙】（第112図）

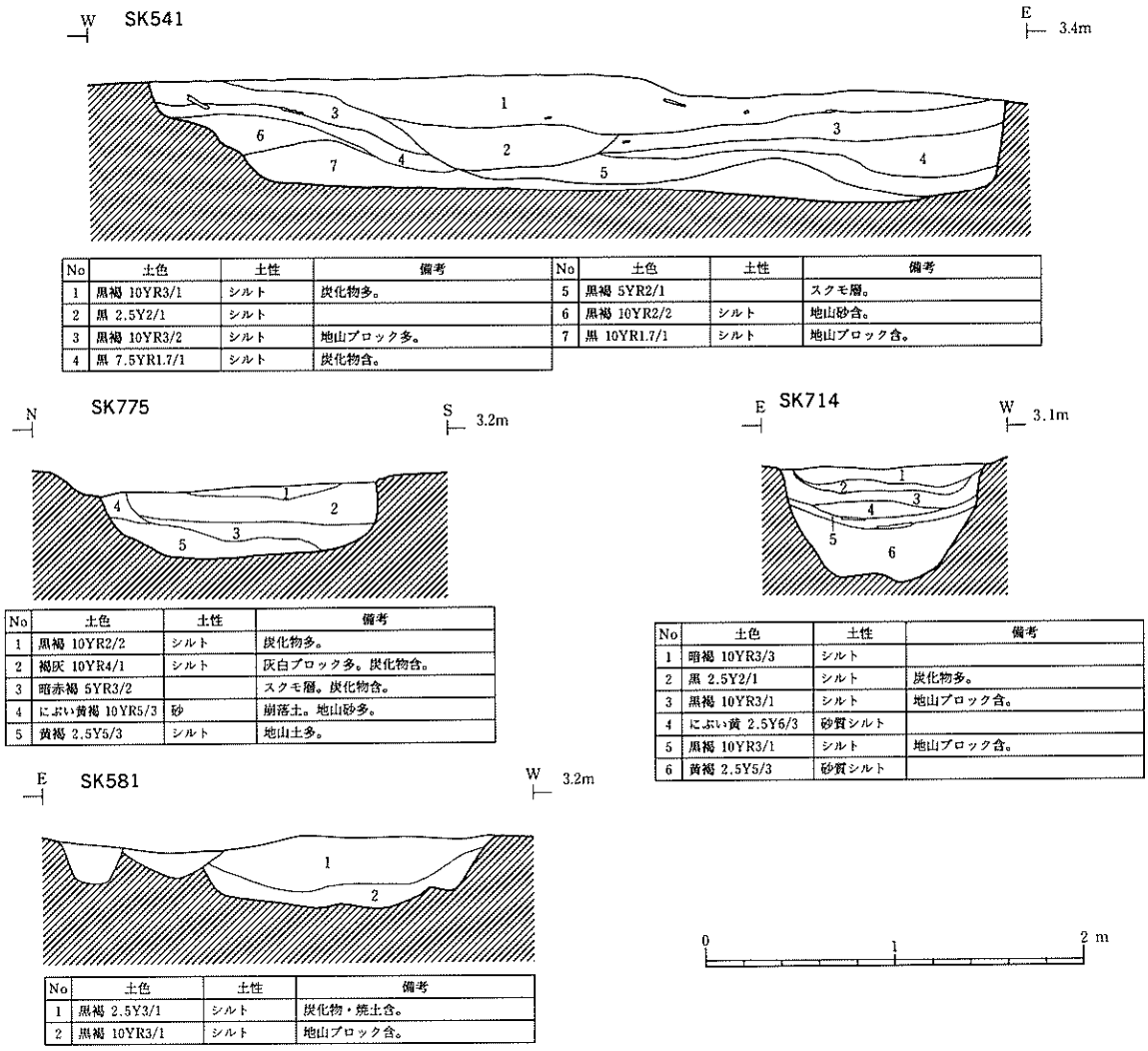
調査区南東部に位置し、地山面で検出した。ＳＢ745掘立柱建物跡、ＳＡ735材木塀跡、ＳＸ10東西大路Ｂ北側溝と重複し、これらよりも新しい。ＳＤ575溝跡と接続し、同時に埋没している。

平面形は径 6.4～6.6mの円形であるが、その他の詳細は不明である。堆積土は自然堆積土である。上部に基本層位Ⅱ層が堆積している。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。坏類では土師器と赤焼土器が多くみられ、須恵器は少ない。

【ＳＫ410土壙】（第26図）

ＳＸ20Ｂの路面および東西側溝の下面で検出した土壙である。



SK541

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物多。
2	黒 2.5Y2/1	シルト	
3	黒褐 10YR3/2	シルト	地山ブロック多。
4	黒 7.5YR1.7/1	シルト	炭化物含。
5	黒褐 5YR2/1		スクモ層。
6	黒褐 10YR2/2	シルト	地山砂含。
7	黒 10YR1.7/1	シルト	地山ブロック含。

SK775

No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	炭化物多。
2	褐灰 10YR4/1	シルト	灰白ブロック多。炭化物含。
3	暗赤褐 5YR3/2		スクモ層。炭化物含。
4	にぶい黄褐 10YR5/3	砂	崩落土。地山砂多。
5	黄褐 2.5Y5/3	シルト	地山土多。

SK714

No	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/3	シルト	
2	黒 2.5Y2/1	シルト	炭化物多。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	地山ブロック含。
4	にぶい黄 2.5Y6/3	砂質シルト	
5	黒褐 10YR3/1	シルト	地山ブロック含。
6	黄褐 2.5Y5/3	砂質シルト	

SK581

No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	炭化物・焼土含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	地山ブロック含。

第97図　北１西３区土壙断面図(3)

平面形はＳＸ10の北側溝およびＳＸ20の東西両側溝に大きく壊されているため不明であるが、ＳＸ20に沿って南北に長い、長楕円形を呈するものと考えられる。規模は長径8m以上、短径6m以上で、深さは約50cmである。堆積土は4層に分けられ、1･2層が黒褐色土からなる人為堆積土、3･4層が黒色粘質土からなる自然堆積土である。

遺物は堆積土から土師器、須恵器、瓦、木製品が出土している。このうち土器類はほとんどが小破片で1・2層から多く出土している。坏類の底部調整は土師器では手持ちヘラケズリ調整、須恵器ではヘラ切り無調整のものが多い。また、木製品も多く、挽物盤・椀、曲げ物、桧扇？などが出土している。

(7)区画施設

区画施設としては材木塀跡および溝跡があり、7条検出した。これらのうち調査区北半部の｛ＳＡ823区画施設・ＳＡ831材木塀跡｝と中央南寄りの｛ＳＤ553・624・991溝跡｝は、いずれも本区画を南北に分割する東西方向の塀および溝跡で、ほぼ同位置での数時期にわたる重複がみられた。

【ＳＡ823区画施設】（第98･106･107図）

調査区北半に位置する東西方向の区画施設で、地山面で検出した。ほぼ同位置で6時期（ＳＡ823Ａ→Ｆ）の変遷が認められ、Ｂ～Ｅは材木塀跡、Ｆは溝跡である。これらはいずれも区画のほぼ東西二等分線上で途切れている。方向は、Ｂ～Ｅが概ね東で約7～8度南、Ｆが東で約12度南に偏している。

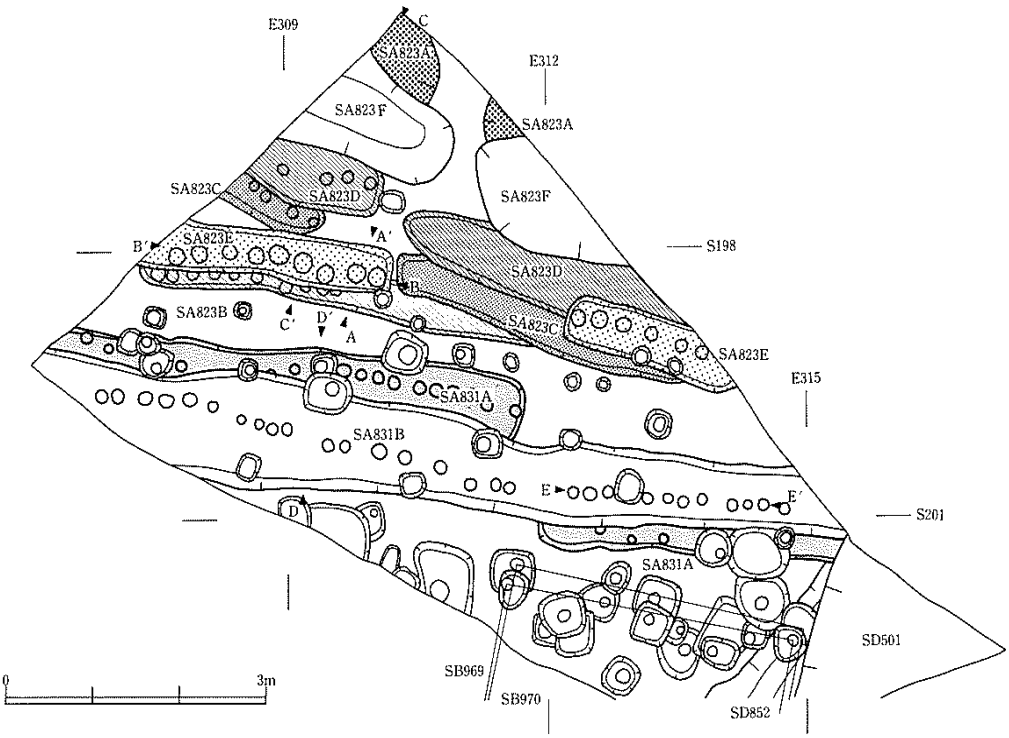
Ａは、検出長が西側約0.8m、東側約0.5mで、両者の間隔は0.7mである。上端幅は推定で約1.5m、底面幅は約0.9mである。深さは40cm前後で、断面形は逆台形状を呈する。方向は不明である。堆積土はすべて人為堆積土（1～4 層）であるが、柱痕跡が認められないことから、検出したＳＡ823Ａは材木塀の抜き取り溝の可能性が高く、抜き取り後人為的に埋め戻されたものと考えられる。

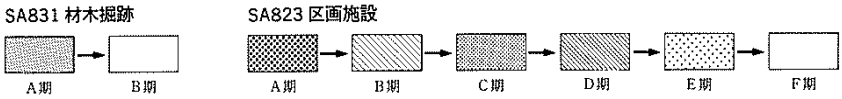
遺物は堆積土から土師器、須恵器、瓦が少量出土している。土師器坏にはロクロ調整と非ロクロ調整のものがみられ、甕は非ロクロ調整のものが多い。須恵器坏の底部調整は確認できたもので手持ちヘラケズリ調整である。

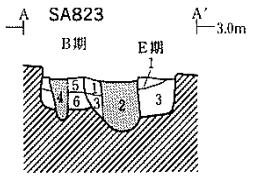
Ｂは、検出長が約4.6mで、調査区西端で途切れる。正確な規模は不明であるが、上端幅0.5m前後の断面「Ｕ」字状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは26cm程残存する。材木痕跡は径15cm前後の円形で、丸太材を15～30cm間隔で立て並べている。掘り方埋土は地山土を含む黒褐色土である。

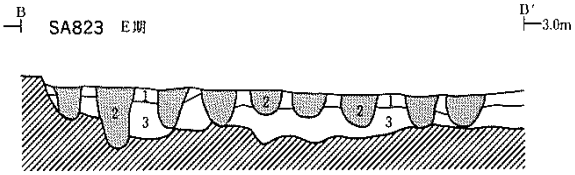
遺物は掘り方埋土から土師器、須恵器が少量出土している。土師器坏にはロクロ調整と非ロクロ調整のものが見られる。

Ｃは、検出長が西側約1.0m、東側約3.5mで、両者の間隔は約1.0mである。上端幅0.5m前後、底面幅0.3m前後の断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは10cm前後残存する。材木の抜き取りがみられ、材木痕跡は西側の底面付近で部分的に確認している。材木痕跡は径10cm前後の円形で、丸太材を20～30cm間隔で立て並べている。抜き取り後は人為的に埋め戻している。

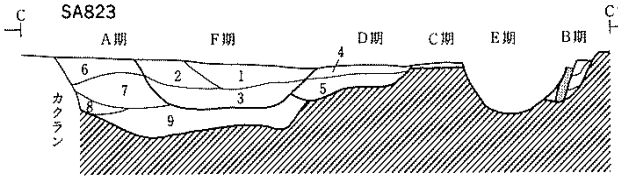




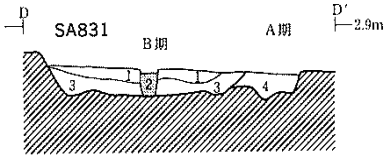


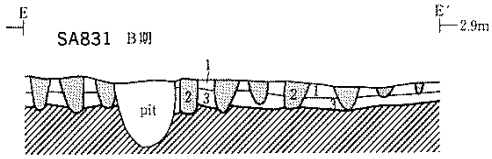


No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	シルト	SA823E	[切取り溝堆積土] 炭化物含。	4	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	SA823B	[痕跡跡]
2	黒褐 10YR3/1	シルト		[柱痕跡] 炭化物含。	5	黒褐 2.5Y3/2	シルト		[掘り方埋土] 地山土含。
3	黄灰 2.5Y4/1	シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。	6	黄灰 2.5Y4/1	粘質シルト		地山土多。

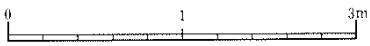


No	土色	土性	備考	
1	褐灰 10YR4/1	シルト	SA823F	上面に灰白の一次堆積層。
2	黒褐 10YR3/2	シルト		
3	黒褐 2.5Y3/1	シルト		
4	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SA823D	[抜取り溝堆積土]人為堆積土。
5	黒褐 2.5Y3/2	シルト		[抜取り溝堆積土]人為堆積土。
6	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SA823A	[抜取り溝堆積土]人為堆積土。炭化物含。
7	黒褐 2.5Y3/2	シルト		[抜取り溝堆積土]人為堆積土。地山ブロック(小)含。
8	灰黄褐 10YR4/2	シルト		[抜取り溝堆積土]人為堆積土。地山ブロック含。
9	褐灰 10YR4/1	シルト		[抜取り溝堆積土]人為堆積土。地山ブロック(大)多。





No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	シルト	SA831B	[切取り溝堆積土] 炭化物含。
2	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト		[柱痕跡]
3	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
4	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト	SA831A	[切取り溝堆積土]人為堆積土。地山ブロック多。



第98図　SA823区画施設・SA831材木塀跡

遺物は抜き取り溝堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕が小破片が数片出土している。土師器坏で調整のわかるものはすべてロクロ調整である。

Ｄは、検出長が西側 1.5m、東側約 3.5mで、両者の間隔は約 0.4mである。上端幅 0.6～0.7m、底面幅 0.4m前後の断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは 35cm 前後残存する。材木の抜き取りがみられ、材木痕跡は底面付近で部分的に確認している。材木痕跡は径 15cm 前後の円形で、丸太材を約 25cm 間隔で立て並べている。抜き取り後は人為的に埋め戻されている。

遺物は抜き取り溝堆積土から土師器、須恵器、瓦が数片出土している。土師器坏にはロクロ調整と非ロクロ調整のものが見られる。

Ｅは、ＳＤ827 溝跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、これらより新しい。検出長は東側が未調査区を挟んで約 19.3m、西側が 2.1mで、両者の間隔は 2.3mである。上端幅 0.5～0.6m、底面幅 0.3～0.4mの断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは 17～32cm 残存する。材木の切り取りがみられ、材木痕跡は東側で確認している。材木痕跡は径 15～20cm の円形で、丸太材を 30cm 程の間隔で立て並べている。残存する切り取り溝の堆積土は 1 層で、自然堆積とみられる。

遺物は掘り方埋土からロクロ調整の土師器、須恵器の小破片が数片出土している。また切り取り溝堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦などが出土している。土師器坏にはロクロ調整と非ロクロ調整のものがみられる。坏類の底部調整はロクロ調整の土師器では手持ちヘラケズリ調整のものが多く、須恵器ではヘラ切り無調整ものが大半を占める。

Ｆは、ＳＡ823Ａ～Ｅを覆う堆積層の上面で検出した溝跡である。ＳＢ933･934 掘立柱建物跡、ＳＤ907 溝跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、これらより新しい。検出長は西側で未調査区を挟んで約 52.5m、東側で約 2.0mで、両者の間隔は約 0.3mである。上端幅は 0.7～1.3m、底面幅は 0.4～0.9mである。深さは 13～50cm で、東へ向かって低くなり、断面形は逆台形状を呈する。堆積土はいずれも自然堆積土（1～3 層）からなり、1 層上面には灰白色火山灰の一次堆積が認められる。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、瓦が少量出土している。坏類の底部調整は土師器では回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整のものがみられ、須恵器では回転糸切り無調整、ヘラ切り無調整、回転ヘラケズリ調整のものがみられる。

【ＳＡ831 材木塀跡】（第106図）

調査区北半に位置する東西方向の材木塀跡で、地山面で検出した。ほぼ同位置で 2 時期（Ａ→Ｂ）の変遷が認められ、Ａは区画のほぼ東西二等分線上で途切れている。方向は東で約 7 度南に偏している。

Ａは、ＳＡ823Ｅ材木塀跡、ＳＤ501・827・852・882 溝跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、ＳＤ827･852 より新しく、ＳＡ823Ｅ、ＳＤ501･882、ＳＦ824 より古い。検出長は西側で未調査区を挟んで約 23.7m、東側で 3.5mで、両者の間隔は約 0.5mで、東側は約 1m程南へずれる。上端幅約 0.7m前後、底面幅約 0.4m前後の断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは

10～30cm 残存する。材木の切り取りがみられ、東側の底面付近で材木痕跡を確認している。材木痕跡は径 10～15cm の円形で、丸太材を 20～30cm 間隔で立て並べている。掘り方埋土は地山ブロックを含む暗オリーブ褐色土で、切り取り後は人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。

Ｂは、ＳＢ879・925 掘立柱建物跡、ＳＫ952 土壙、ＳＤ501・827・882 溝跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、ＳＤ827 より新しく、ＳＢ879･925、ＳＫ952、ＳＤ501･882、ＳＦ824 より古い。検出長は未調査区を挟んで約 30.4ｍで、西側は底面が浅くなるため延びは不明である。上端福 0.6～1.2ｍ、底面幅 0.3～0.9ｍの断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に材木を据えて埋め戻したもので、深さは 13～22cm 残存する。掘り方底面のレベルは東に向かって低くなる。材木の切り取りがみられ、材木痕跡は東側の底面付近で確認した。材木痕跡は径 10～15cm の円形で、丸太材を 20～30cm の間隔で立て並べている。残存する切り取り溝の堆積土は１層で、自然堆積とみられる。

遺物は掘り方埋土から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器、須恵器が出土している。切り取り溝堆積土からは土師器、須恵器、瓦が出土し、中でも須恵器が主体を占める。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整のものが多い。

【ＳＤ553 溝跡】（第99･100･108･109･110 図）

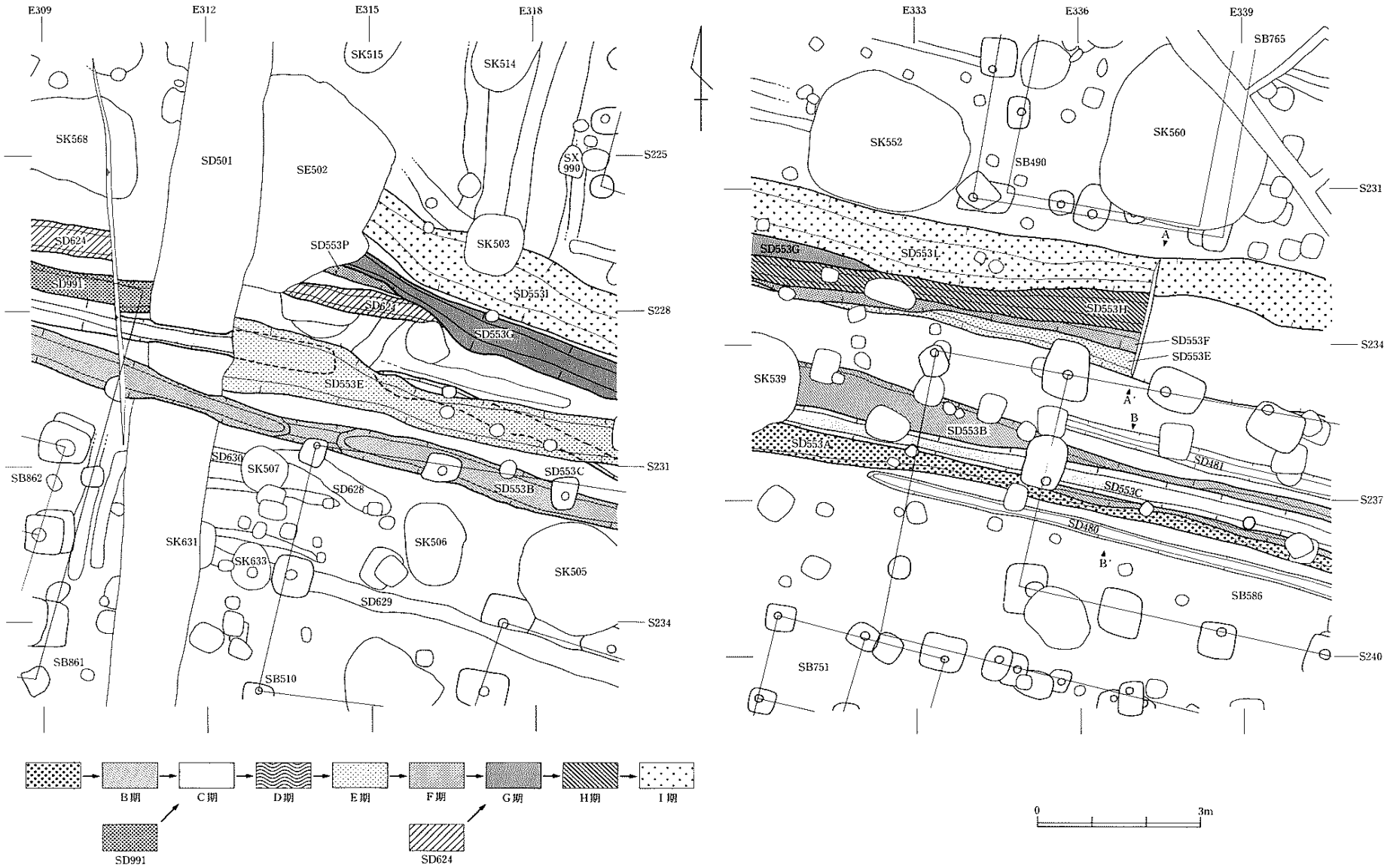
調査区中央南寄りに位置する東西方向の区画溝跡で、基本層位Ⅲａ層上面および地山面で検出した。ほぼ同位置で９時期（ＳＤ553Ａ→Ｉ）の変遷が認められ、新しくなるにつれて少しずつ北にずれている。Ｂ・Ｃは区画のほぼ東西二等分線上で途切れている。方向は概ね東で約13度南に偏している。なお、ＳＤ624・991 溝跡はＳＤ553 溝跡と同位置で重複しており、一連の区画溝の可能性が高い。

Ａは、ＳＢ586 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。調査区の東側でのみ、約 17ｍにわたって検出した。後続するＳＤ553Ｂ･Ｃに壊されているため、規模などの詳細は不明である。堆積土は１層で、人為的に埋め戻されている。遺物は出土していない。

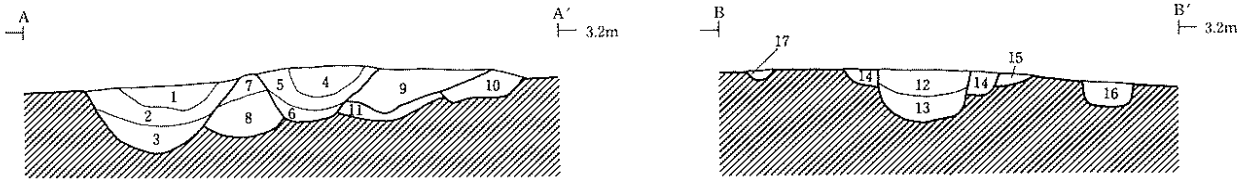
Ｂは、ＳＢ510・586・861 掘立柱建物跡、ＳＥ864 井戸跡、ＳＫ539 土壙、ＳＤ501・783 溝跡と重複し、ＳＥ864 より新しく、ＳＢ510・586、ＳＫ539、ＳＤ501・783 より古いが、ＳＢ861 については不明である。検出長は西側が約 10ｍ、東側が約 34ｍで、両者の間隔は約 1ｍである。上端幅は東側で 0.9～1.2ｍ、西側で 0.5～0.6ｍ、底面幅は東側で 0.7～0.9ｍ、西側で 0.3～0.4ｍである。深さは 10～18cm で、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は人為堆積土１層で、埋め戻されている。なお、東西の溝跡が途切れ、土橋状に浅くなる部分にも人為堆積土が認められた。これらについては時期の異なる遺構の可能性もあるが、検出状況からみて本来ＳＤ553Ｂは材木塀で、東西の溝はその抜き取り溝であった可能性が高い。

遺物は土師器、須恵器、瓦が少量出土している。土師器坏・甕はほとんどのものがロクロ調整で、坏の底部調整は回転糸切り無調整や手持ちヘラケズリ調整である。

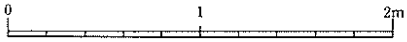
Ｃは、ＳＢ510・586・861 掘立柱建物跡、ＳＥ864 井戸跡、ＳＤ501・763・783・870・991 溝跡、ＳＫ531・539・540・865 土壙、ＳＦ898 小溝状遺構群と重複し、ＳＥ864、ＳＤ763・870・991 より新しく、ＳＢ510・586、ＳＤ501・783、ＳＫ531・539・540・865、ＳＦ898 より古いが、ＳＢ861 との新旧関係は不明である。



第99図　SD553溝跡平面図



No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/1	シルト	SD553I		10	黄灰 2.5Y4/1	シルト	SD553E	地山土多。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト		灰白粒含。	11	黄灰 2.5Y4/1	シルト	SD553D	地山土多。
3	黒褐 2.5Y3/1	シルト		炭化物・地山ブロック多。	12	黒褐 10YR3/2	シルト	SD553C	人為堆積土。炭化物含。
4	灰白 10YR8/2		SD553H	灰白の一次堆積層。	13	褐灰 10YR4/1	シルト		人為堆積土。地山ブロック多。
5	黒褐 10YR3/2	シルト		炭化物含。	14	黒褐 10YR3/1	シルト	SD553B	人為堆積土。地山土含。
6	黄灰 2.5Y4/1	シルト			15	褐灰 10YR4/1	シルト	SD553A	人為堆積土。地山ブロック多。
7	褐灰 10YR4/1	シルト	SD553G	炭化物・地山土多。	16	黒褐 10YR3/1	シルト	SD480	地山土多。
8	黄灰 2.5Y4/1	シルト		地山土含。	17	黒褐 10YR3/1	シルト	SD481	地山土多。
9	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SD553F	炭化物含。					



第100図　SD553溝跡断面図

検出長は西側が約24.5m、東側が32.3mで、両者の間隔は約0.8mである。上端幅は0.3～0.7m、底面幅は0.2～0.3mである。深さは12～32cmで、東に向かって低くなり、断面形は底面がやや平坦な「U」字状を呈する。方向は概ね東で約13度南に偏しているが、溝が途切れる中央東側で部分的に振れが大きくなっている。堆積土はいずれも人為堆積土（1・2層）で、材木塀の抜き取り溝と考えられる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦などが出土している。土師器坏・甕はほとんどのものがロクロ調整である。坏類では須恵器が多く、底部調整はヘラ切り無調整のものが多い。土師器坏では回転糸切り無調整や手持ちヘラケズリ調整のものがみられる。灰釉陶器は猿投窯黒笹90号窯式の椀である。

Dは、後続する溝跡に壊されており、規模や方向などの詳細は不明である。堆積土は1層で、自然堆積土である。遺物は出土していない。

Eは、SB586掘立柱建物跡、SK530･784土壙、SD501･763溝跡と重複し、SK784、SD763より新しく、SB586、SK530、SD501より古い。検出長は約25mで、上端幅0.9～1.2m、底面幅0.8m前後である。深さは30cm程で、断面形は「U」字状を呈する。堆積土は1層で、自然堆積土である。遺物は出土していない。

Fは、SE502井戸跡、SK530土壙と重複し、これらより古い。後続する溝に壊されているため規模や方向などの詳細は不明であるが、上端幅0.6m以上とみられる。深さは30cm程で、断面形は「U」字状を呈し、底面に凹凸がある。堆積土は1層で、自然堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、瓦が少量出土している。

GはSE502井戸跡、SK530土壙、SD624溝跡と重複し、SD624より新しく、SE502、SK530より古い。

検出長は23mで、上端幅0.7m、底面幅0.4mである。深さは13～22cmで、東に向かって低くなり、断面形は「U」字状を呈する。方向は東で13度南に偏している。堆積土は2層に分けられ、自然堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが少量出土している。坏類では土師器が多い。

Hは、検出長が約10mで、上端幅0.6m前後、底面幅0.3～0.4mである。深さは10～30cmで東に向かって低くなり、断面形は「U」字状を呈する。堆積土は自然堆積土（1～3層）からなり、1層には灰白色火山灰の一次堆積が認められる。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器などが少量出土している。坏類は土師器が多く、底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。

Ｉは、ＳＥ502井戸跡、ＳＫ503･530･549･790土壙、ＳＤ802溝跡、ＳＦ580小溝状遺構群と重複し、ＳＤ802、ＳＦ580より新しく、ＳＥ502、ＳＫ503･530･549･790より古い。検出長は約28ｍで、上端幅1.0～1.4ｍ、底面幅0.4～0.7ｍである。深さは31～42cmで東に向かって低くなり、断面形は「Ｕ」字状を呈する。堆積土は自然堆積土（1・2層）からなり、1層には灰白色火山灰粒が含まれる。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、瓦などが出土している。坏類は土師器が多く、底部調整は回転糸切り無調整ものが多い。

【ＳＤ991溝跡】（第108図）

ＳＤ553溝跡と一連の区画溝で、ＳＤ553Ｃより古い。ＳＢ861掘立柱建物跡、ＳＤ501溝跡と重複し、これより古い。

検出長は約7.5ｍで、上端幅0.6ｍ前後、底面幅0.3ｍ前後である。深さは8cm前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で約10度南に偏している。

遺物は土師器坏、非ロクロ調整の土師器甕、須恵器が数片出土している。

【ＳＤ624溝跡】（第108･109図）

ＳＤ553溝跡と一連の区画溝で、ＳＤ553Ｇより古い。ＳＢ861掘立柱建物跡、ＳＥ502･864井戸跡、ＳＤ501･845 溝跡、ＳＫ509 土壙と重複し、ＳＥ864、ＳＤ845 より新しく、ＳＢ861、ＳＥ502、ＳＤ501、ＳＫ509 より古い。

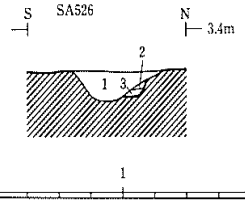
検出長は約12.5ｍで、上端幅0.5～0.6ｍ、底面幅0.3～0.4ｍである。深さは17～19cmで、断面形は逆台形状を呈する。方向は東で約10度南に偏している。

遺物は須恵器の稜碗の破片が1点出土している。

【ＳＡ526材木塀跡】（第69･109図）

調査区中央南寄りに位置する東西方向の材木塀跡で、基本層位Ⅲａ層上面および地山面で検出した。ＳＢ757 掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。

掘り方の規模は不明であるが、断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に丸太材を立て並べて塀としたもので、深さは約15cm残存する。抜き取り溝の規模は総長6.2ｍで、上端幅0.4～0.6ｍ、底面幅0.2ｍである。材木痕跡は径15～20cmの円形である。方向は東で約15度南に偏している。掘り方埋土は地山ブロックを含む黒褐色土、灰黄褐色土で、抜き取り溝堆積土は1層で、自然堆積土である。

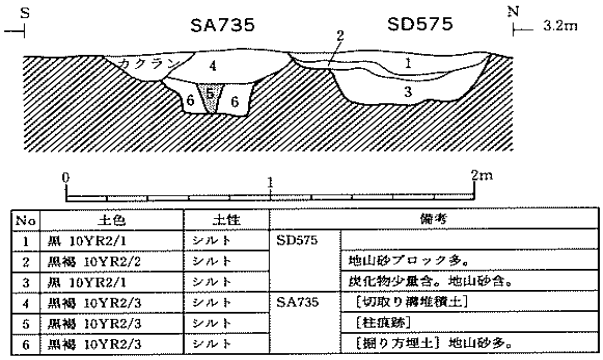


No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	シルト	SA526	[抜取り溝堆積土]
2	黒褐 10YR3/1	シルト		[掘り方埋土]
3	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト		[掘り方埋土]

第101図　SA526材木塀跡断面図

遺物は抜き取り溝堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、瓦が少量出土している。坏類の底部調整は土師器では回転糸切り無調整のものが多く、須恵器ではヘラ切り無調整と回転糸切り無調整のものがみられる。

【ＳＡ735材木塀跡】（第111図）



第102図　SA735材木塀跡断面図

調査区南端に位置する東西方向の材木塀跡で、地山面で検出した。ＳＢ595･685･744･745･816 掘立柱建物跡、ＳＫ718 土壙、ＳＤ575 溝跡と重複し、これらより古い。検出長は約 26ｍで、西側はさらに調査区外に延びる。

上端幅 0.4～0.6ｍ、底面幅 0.3～0.5ｍの断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に丸太材を 40～50cm 間隔で立て並べて塀としたもので、深さは約 45cm 残存する。材木痕跡は径 8～15cm の円形で、大部分のものが切り取られており、切り取り後は人為的に埋め戻されている。方向は東で約 8 度南に偏している。

遺物は切り取り溝堆積土から土師器坏の小破片が数片出土している。

【ＳＡ717 塀跡】（第111･112図）

調査区南端に位置する東西方向の材木塀跡で、路面 1 層上面で検出した。検出長は約 22ｍで、西側は調査区外に延びる。

上端幅 0.5～0.8ｍ、底面幅 0.3～0.4ｍの断面逆台形状を呈する溝状の掘り方（布掘り）に丸太材を約 30cm 間隔で立て並べて塀としたもので、深さは約 15cm 残存する。材木痕跡は径 10～15cm の円形で、大部分のものが抜き取られている。抜き取り溝堆積土は 1 層で、自然堆積土である。方向は東で約 7 度南に偏している。なお、ＳＡ717 は重複関係からみてＳＸ10Ｈもしくは I に伴うものと考えられるが、これらの北側溝との間隔は心々で 1.8～2.0ｍである。

遺物は抜き取り溝堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器が出土している。坏類では土師器が多く、次いで赤焼土器がみられる。底部調整は土師器坏では回転糸切り無調整のものが多い。

(8)溝跡

溝跡は調査区内で 47 条以上検出した。ここでは、出土遺物の多いものや、他の遺構との重複関係においてある程度年代が把握できるものを中心に説明し、その他の溝跡については規模や方向等を一覧表に一括して掲載した。

【ＳＤ907 溝跡】（第105･106図）

調査区北西部に位置する溝跡で、2 時期（ＳＤ907Ａ→Ｂ）認められる。地山面で検出し、東側、西側とも調査区外に延びる。ＳＢ859･934 掘立柱建物跡、ＳＩ822 竪穴住居跡、ＳＫ894 土壙、ＳＤ823Ｆ溝跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、ＳＢ859･934、ＳＩ822 より新しく、ＳＫ894、ＳＤ823Ｆ、ＳＦ824 より古い。

ＳＤ907Ａは検出長約 16ｍで、上端幅 0.4～0.6ｍ、底面幅 0.3～0.4ｍである。深さは 4～14cm で、東南に向かって低くなり、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で約33 度北に偏している。堆積土は 2 層で、自然堆積土である。

ＳＤ907Ｂは検出長約 16ｍで、上端幅 0.3～0.4ｍ、底面幅 0.2～0.3ｍである。深さは 4～18cm で、東南に向かって低くなり、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で約33 度北に偏している。堆積土は

2 層で、自然堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器甕、須恵器坏・甕が数片出土している。

【ＳＤ827 溝跡】（第103･106･108 図）

調査区北西部に位置する南北方向の溝跡で、地山面で検出しており、北側、南側とも調査区外に延びる。ＳＫ903 土壙、ＳＡ823 区画施設、ＳＡ831 材木塀跡、ＳＦ824 小溝状遺構群と重複し、ＳＫ903 より新しく、ＳＡ823Ｅ、ＳＡ831Ａ、ＳＦ824 より古い。

検出長は約 26.5ｍで、上端幅 1.2～1.5ｍ、底面幅 0.7～0.9ｍである。深さは 15～27㎝で、南に向かって低くなり、断面形は逆台形状を呈する。方向は北で約 5 度東に偏している。堆積土は 4 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は土師器、須恵器、瓦などが少量出土している。土師器坏・甕はすべて非ロクロ調整で、坏は有段のものと段を持たないものが見られる。

【ＳＤ852 溝跡】（第103･106･107･108 図）

調査区中央北寄りに位置する溝跡で、地山面で検出しており、北側は調査区外に延びる。ＳＢ880・896・930・944・969・970 掘立柱建物跡、ＳＫ848・849・851・853 土壙、ＳＡ831Ａ材木塀跡、ＳＤ501・842・553Ｃ・870・910・913・985 溝跡と重複し、これらより古い。

検出長は約 29ｍで、上端幅 0.8ｍ前後、底面幅 0.3～0.4ｍ、深さ 10～36㎝であるが、溝の南端では上端幅 2.9ｍで、浅く幅広くなっている。断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約37 度南に偏している。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は調整不明の土師器、須恵器、瓦が数片出土している。

【ＳＤ845 溝跡】（第103･107･108 図）

調査区中央北寄りに位置する東西方向の溝跡で、地山面で検出した。ＳＥ864 井戸跡より西側、ＳＫ568 土壙より東側では検出していない。ＳＥ864 井戸跡、ＳＫ568･844 土壙、ＳＤ624･870 溝跡と重複し、ＳＥ864、ＳＤ870 より新しく、ＳＫ568・844、ＳＤ624 より古い。

検出長は約 4.5ｍで、上端幅 0.7～0.8ｍ、底面幅 0.4ｍ前後である。深さは 18㎝前後で、断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は検出長が短いが、東で約 5 度南に偏している。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物は土師器、須恵器、瓦が少量出土している。土師器坏はすべて非ロクロ調整で、有段のものと段を持たないものが見られる。土師器甕は非ロクロ調整のものが主体となる。須恵器坏の底部調整は確認できたものでヘラ切り無調整である。

【ＳＤ870 溝跡】（第103･108 図）

調査区中央北寄りに位置する東西方向の溝跡で、地山面で検出しており、西側は調査区外に延びる。ＳＢ896 掘立柱建物跡、ＳＥ864 井戸跡、ＳＫ568・844・847・873 土壙、ＳＤ845・553Ｃ・852 溝跡、ＳＦ838 小溝状遺構群と重複し、ＳＥ864、ＳＤ852 より新しく、ＳＢ896、ＳＫ568・844・847・873、ＳＤ845・553Ｃ、ＳＦ838 より古い。

検出長は約 17.6ｍで、上端幅 0.4～0.5ｍ、底面幅 0.3ｍ前後である。深さは 10～12㎝で、東に向か

って低くなり、断面形は浅い「U」字状を呈する。方向はやや蛇行しているが、東で約3度南に偏している。堆積土は1層で、自然堆積土である。

遺物は土師器、須恵器、瓦が若干出土している。土師器の坏は摩滅が激しく調整は不明であるが、甕は非ロクロ調整のものが見られる。須恵器坏の底部調整は確認できたものでヘラ切り無調整である。

【ＳＤ763溝跡】（第103･109図）

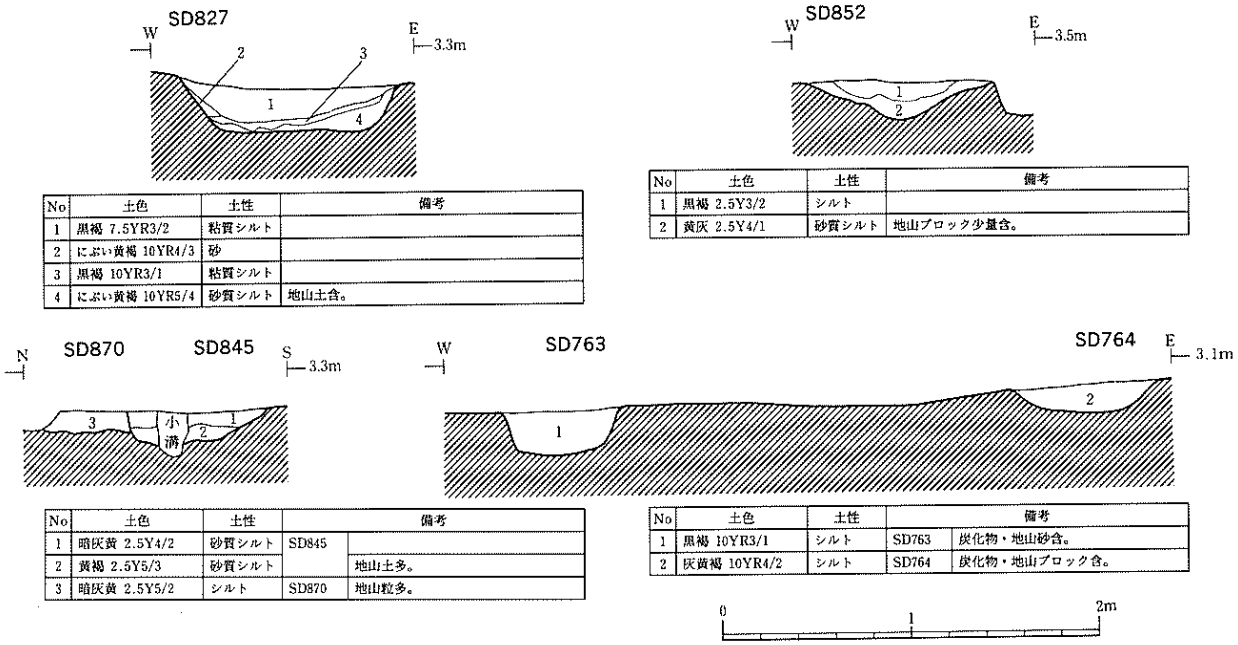
調査区中央南寄りに位置する南北方向の溝跡で、基本層位Ⅲａ層上面および地山面で検出した。南側は調査区外にまで延びているが、北側についてはＳＤ553溝跡以北への延びは確認できなかった。ＳＢ585・588・589・750掘立柱建物跡、ＳＫ537・540・766土壙、ＳＤ553Ｃ・641溝跡と重複し、ＳＫ766より新しく、ＳＢ585・588・589・750、ＳＫ537・540、ＳＤ553Ｃ・641より古い。

検出長は約23ｍで、上端幅0.5～1.5ｍ、底面幅0.2～1.1ｍである。深さは12～20cmで、南に向かって低くなり、断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約12度東に偏している。堆積土は自然堆積土である。なお、ＳＤ763は、ＳＤ764溝跡と2～3ｍ程の間隔で南北に平行して延びている。これらについては他の遺構との重複関係や堆積土の特徴などからみて、同時に機能していた可能性が考えられ、道路状の遺構も想定される。

遺物は非ロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

【ＳＤ764溝跡】（第103･109図）

調査区中央南寄りに位置する南北方向の溝跡で、地山面で検出した。ＳＤ763溝跡と同様に南側は調査区外に延びているが、北側についてはＳＤ553溝跡以北への延びは確認できなかった。ＳＢ588･589･750・789掘立柱建物跡、ＳＤ641溝跡と重複し、これらより古い。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 7.5YR3/2	粘質シルト	
2	にぶい黄褐 10YR4/3	砂	
3	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	
4	にぶい黄褐 10YR5/4	砂質シルト	地山土含。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/2	シルト	
2	黄灰 2.5Y4/1	砂質シルト	地山ブロック少量含。

No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	SD845	
2	黄褐 2.5Y5/3	砂質シルト		地山土多。
3	暗灰黄 2.5Y5/2	シルト	SD870	地山粒多。

No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/1	シルト	SD763	炭化物・地山砂含。
2	灰黄褐 10YR4/2	シルト	SD764	炭化物・地山ブロック含。

第103図　北1西3区溝跡断面図

検出長は約 18.5ｍで、上端幅 0.4～0.7ｍ、底面 0.2～0.4ｍである。深さは 20～31cm で、南に向かって低くなり、断面形は浅い「U」字状を呈する。方向は北で約 12～15 度東に偏している。堆積土は自然堆積土である。なお、ＳD764 とＳD763 は、一連の溝の可能性が考えられる。

遺物は非ロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

【ＳD641 溝跡】（第109･111図）

調査区南東部に位置する溝跡で、地山面で検出しており、北西側は調査区外に延びる。ＳＢ777･778･779・806・816 掘立柱建物跡、ＳＥ660 井戸跡、ＳK558・648 土壙、ＳD570・687・763・764 溝跡と重複し、これらより古い。

部分的に途切れるが、検出長は約 27.5ｍで、上端幅 0.4～0.6ｍ、底面幅 0.3～0.4ｍである。深さは 8～11cm で、断面形は逆台形状を呈する。方向は東で約38 度南に偏している。堆積土は自然堆積土である。

遺物は非ロクロ調整の土師器甕、須恵器坏・甕、瓦が数片出土している。

【ＳD575 溝跡】（第111･112図）

調査区南東部に位置する東西方向の溝跡で、地山面で検出しており、西側は調査区外に延びる。東側のＳK718 土壙と接続し、同時に堆積していることから一連の遺構とみられる。ＳＢ595・685・744・745・816 掘立柱建物跡、ＳＡ735 材木塀跡、ＳD687 溝跡と重複し、これらよりも新しい。

検出長は約 19ｍで、上端幅 0.7～1.3ｍ、底面幅 0.3～0.8ｍである。深さは 14～30cm で、東のＳK718 に向かって低くなり、断面形は逆台形状を呈する。方向は東で約17 度南に偏している。堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、瓦などが出土している。坏類では土師器坏、赤焼土器坏が多く、須恵器坏は少ない。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。

(9) 小溝状遺構群

小溝状遺構群は調査区の北西部で 2 面、中央北寄りで 2 面、中央付近で 3 面検出した。

【ＳＦ4032 小溝状遺構群】（第104図）

調査区北西端に位置し、地山面で検出した南北に平行して延びる小溝跡群で、南側は調査区外に延びる。ＳＢ4084・4085 掘立柱建物跡と重複し、これらより新しい。

溝は 0.3～1.0ｍ間隔で 4 条（ａ～ｄ）確認しており、検出長は 4ｍ程で、上端幅は 0.6ｍ前後、底面幅 0.4ｍ前後である。深さは 5cm 前後で、断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約 2 度東に偏している。堆積土は 1 層で、自然堆積土である。

遺物は出土していない。

【ＳＦ824 小溝状遺構群】（第106図）

調査区北西部に位置し、地山面で検出した南北にほぼ平行して延びる小溝跡群である。ＳＢ895･925･927・934・935 掘立柱建物跡、ＳK893・894・952 土壙、ＳＡ831 材木塀跡、ＳD823・827・907 溝跡と重複し、ＳＢ895･925･934、ＳＡ831Ａ、ＳD827･907 より新しく、ＳＢ927･935、ＳK893･894･952、ＳD823Ｅ

より古い。

溝は0.7～2.0m間隔で9条（ａ～ｉ）確認しており、検出長は最長約10.8mで、上端幅0.3～1.0m、底面幅0.2～0.7mである。深さは5～21cmで、断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約6～14度東に偏している。堆積土は1層で、自然堆積土である。

遺物は堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、瓦が少量出土している。土師器坏・甕はロクロ調整と非ロクロ調整が混在してみられる。

【ＳＦ566小溝状遺構群】（第56･107図）

調査区中央北寄りに位置し、基本層位Ⅲａ層上面で検出した東西に平行して延びる小溝跡群である。ＳＢ880掘立柱建物跡、ＳＥ950井戸跡、ＳＤ501溝跡と重複し、ＳＢ880、ＳＥ950より新しく、ＳＤ501より古い。

溝は0.1～0.4m間隔で6条（ａ～ｆ）確認しており、検出長は4m程で、上端幅は0.2～0.6mとばらつきが見られる。方向は東で約13度南に偏している。堆積土は1層で、自然堆積土である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、赤焼土器坏、瓦の小破片が数片出土している。

【ＳＦ838小溝状遺構群】（第106･108図）

調査区中央北寄りに位置し、地山面で検出した南北に平行して延びる小溝跡群である。ＳＢ896掘立柱建物跡、ＳＫ840･850土壙、ＳＤ870･910溝跡と重複し、ＳＫ840･850、ＳＤ870･910より古いが、ＳＢ896については不明である。

溝は約1.7m間隔で3条（ａ～ｃ）確認しており、検出長は最長約4.1mで、上端幅0.2～0.3m、底面幅0.1～0.2mである。深さは9～16cmで、断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約22度東に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＦ580小溝状遺構群】（第109図）

調査区中央付近に位置し、基本層位Ⅲａ層上面で検出した南北に平行して延びる小溝跡群である。ＳＢ922・924掘立柱建物跡、ＳＫ793土壙、ＳＤ598溝跡と重複し、これらより新しい。

溝は0.2～0.7m間隔で8条（ａ～ｈ）確認しており、検出長は最長5.9m程で、上端幅0.2～0.4m、底面幅0.1～0.2mである。深さは2～5cmと残存状況が悪く、また溝底面で半月形を呈する鋤痕を多数確認している。断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約9度東に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＦ897小溝状遺構群】（第108図）

調査区中央付近に位置し、地山面で検出した東西に平行して延びる小溝跡群である。ＳＥ864井戸跡、ＳＦ898小溝状遺構群と重複し、これらより新しい。

溝は0.6m間隔で3条（ａ～ｃ）確認しており、検出長は最長5.2mで、上端幅0.3m前後、底面幅0.1～0.2mである。深さは3cm前後で、断面形は「U」字状を呈する。方向は東で約22度南に偏している。

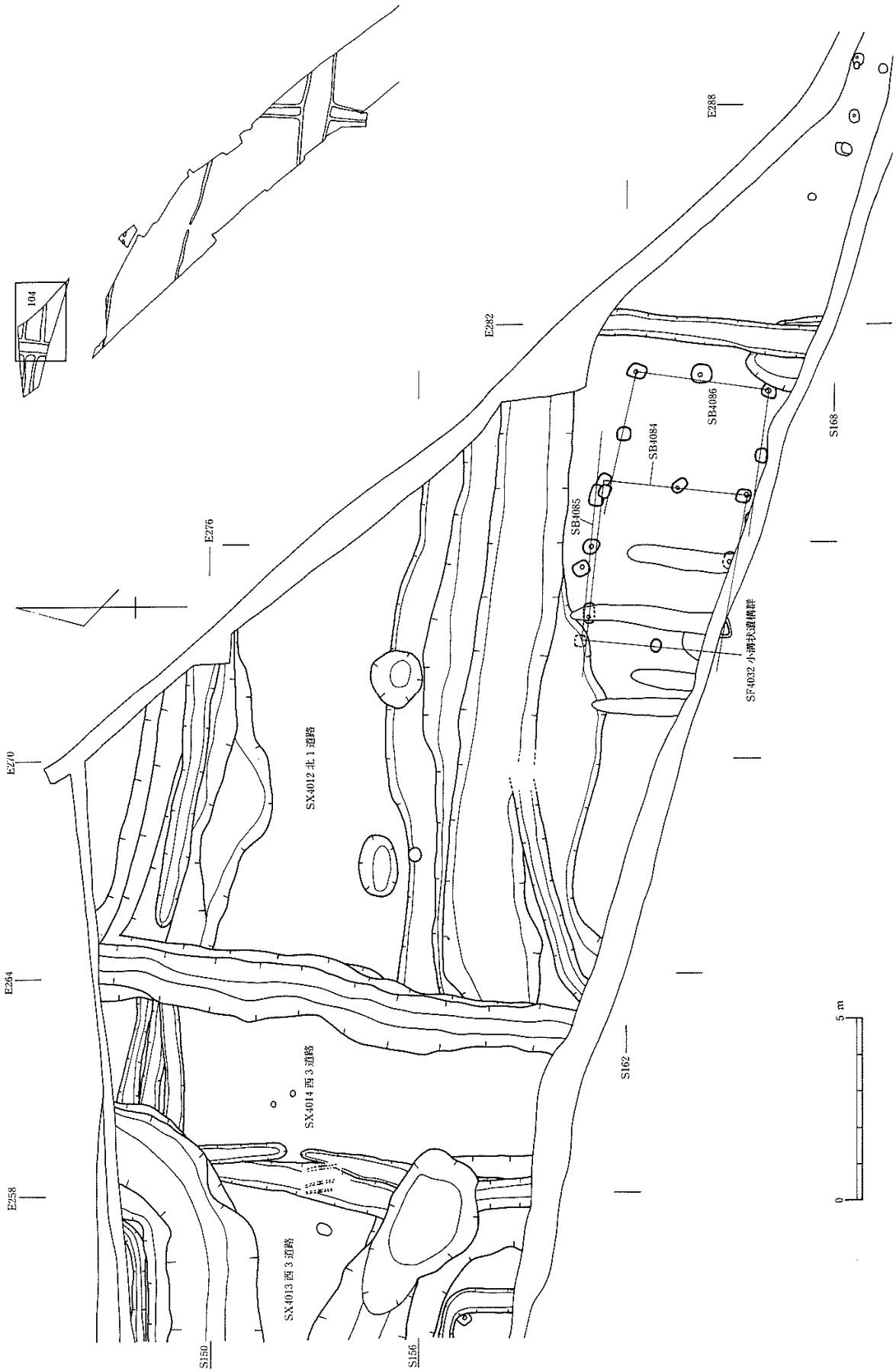
遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏、瓦が数片出土している。

【ＳＦ898 小溝状遺構群】（第108図）

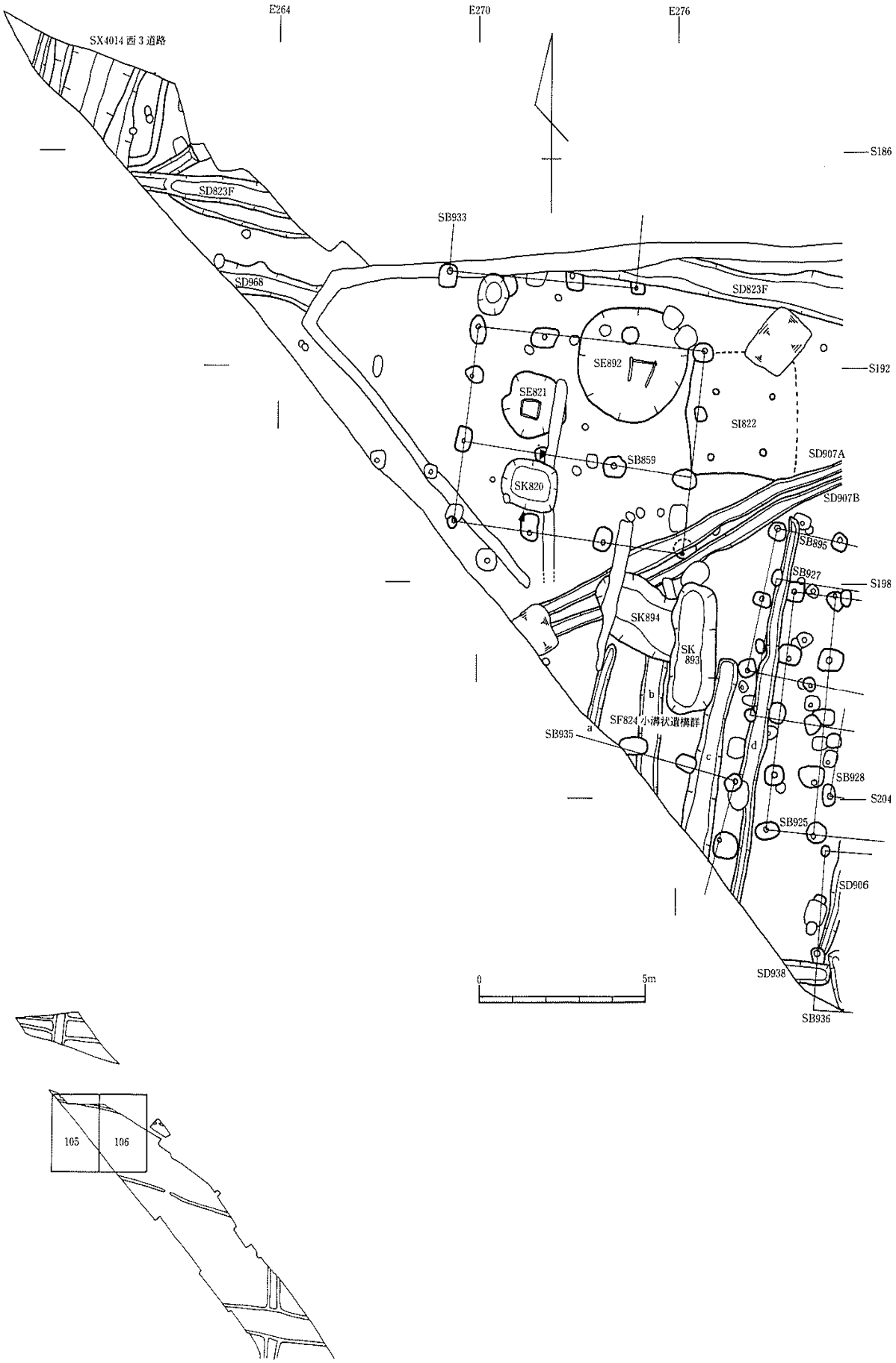
調査区中央付近に位置し、地山面で検出した南北に平行して延びる小溝跡群である。ＳＥ864 井戸跡、ＳＤ553 溝跡、ＳＦ897 小溝状遺構群と重複し、ＳＥ864、ＳＤ553Ｂより新しく、ＳＦ897 より古い。

溝は 0.4m間隔で 3 条（ａ～ｃ）確認しており、検出長は 6.0m程で、上端幅 0.2～0.4m、底面幅 0.1～0.3mである。深さは 3～5cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約10度東に偏している。

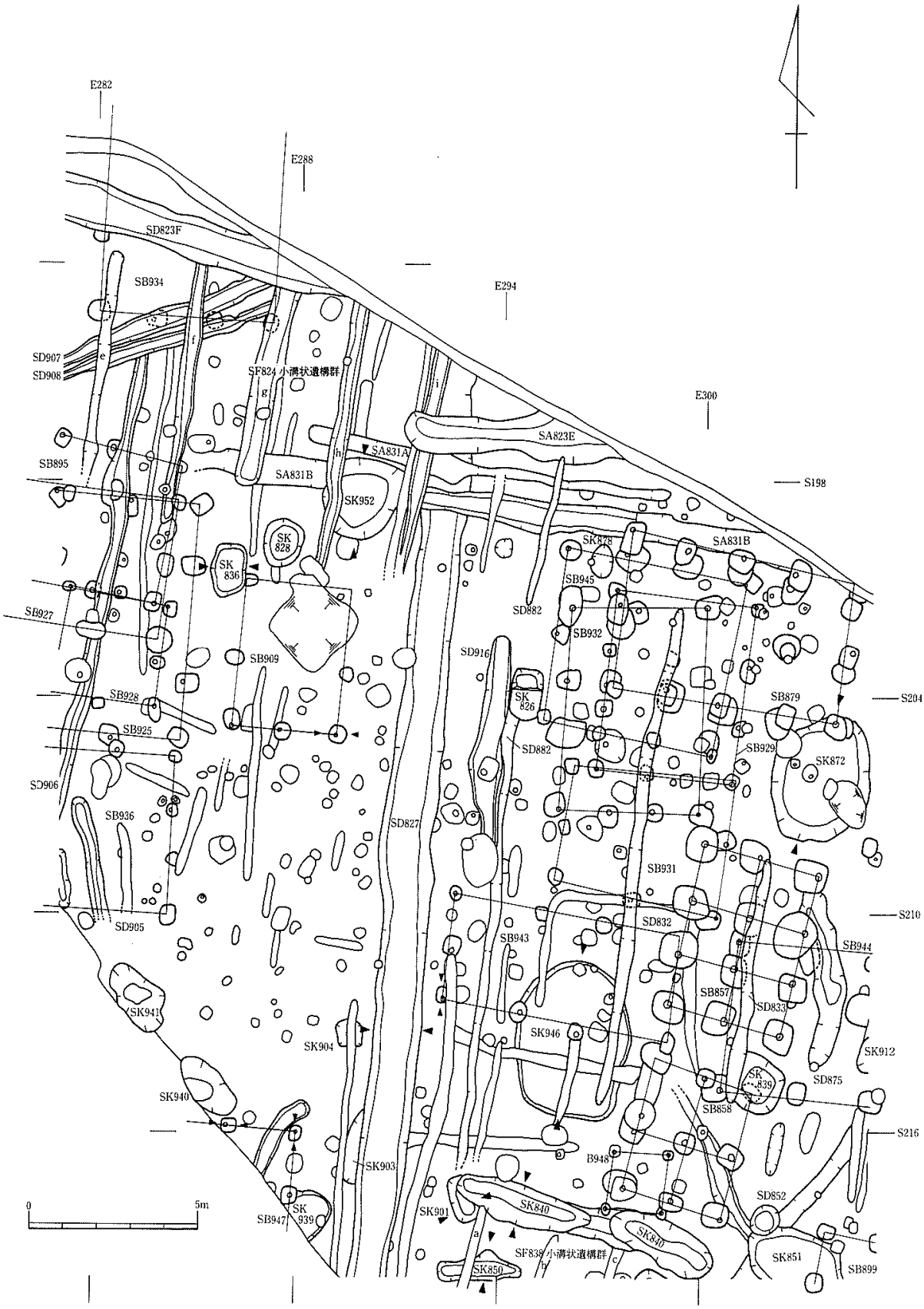
遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が数片出土している。



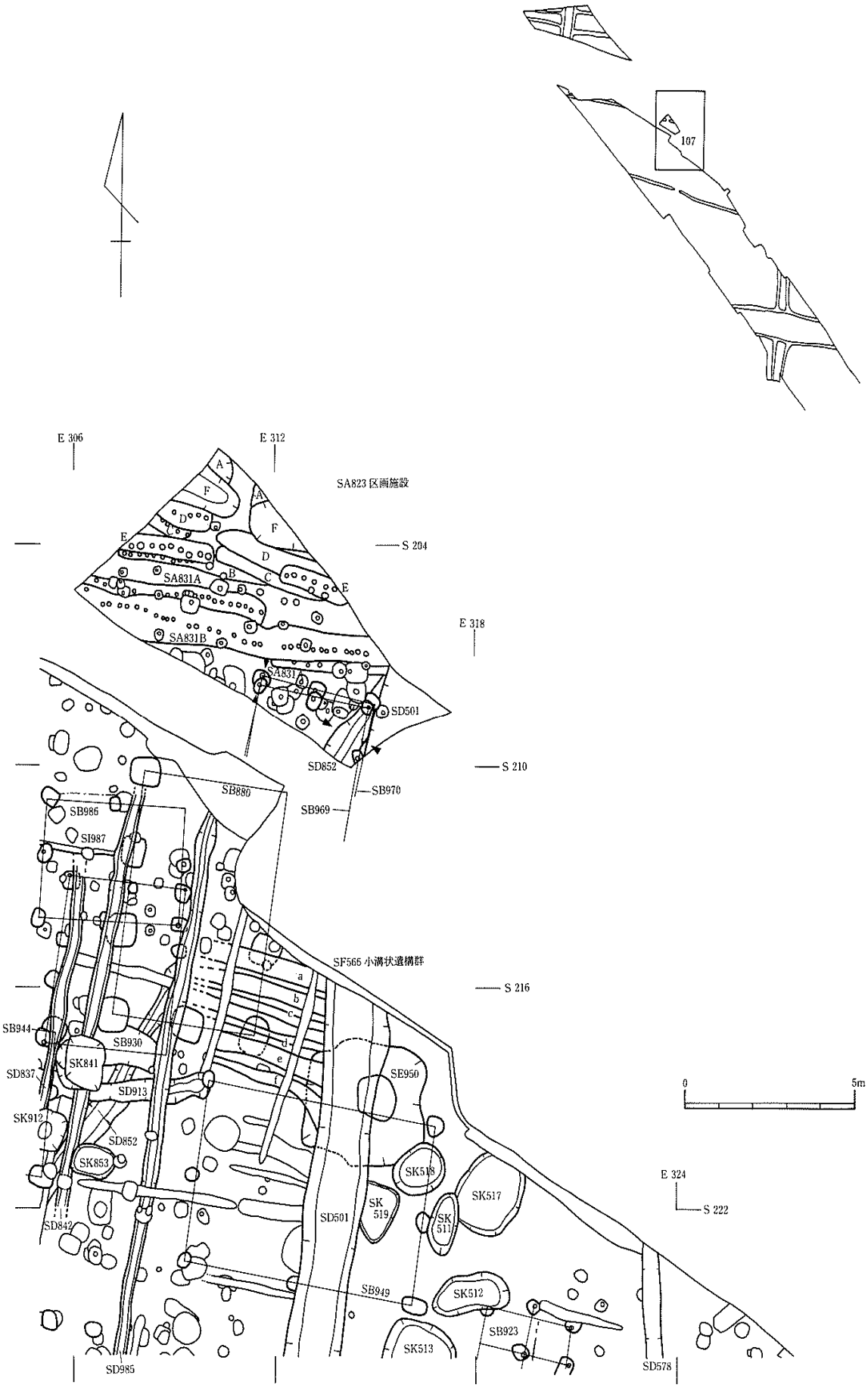
第104図　北1西3区分割図(1)



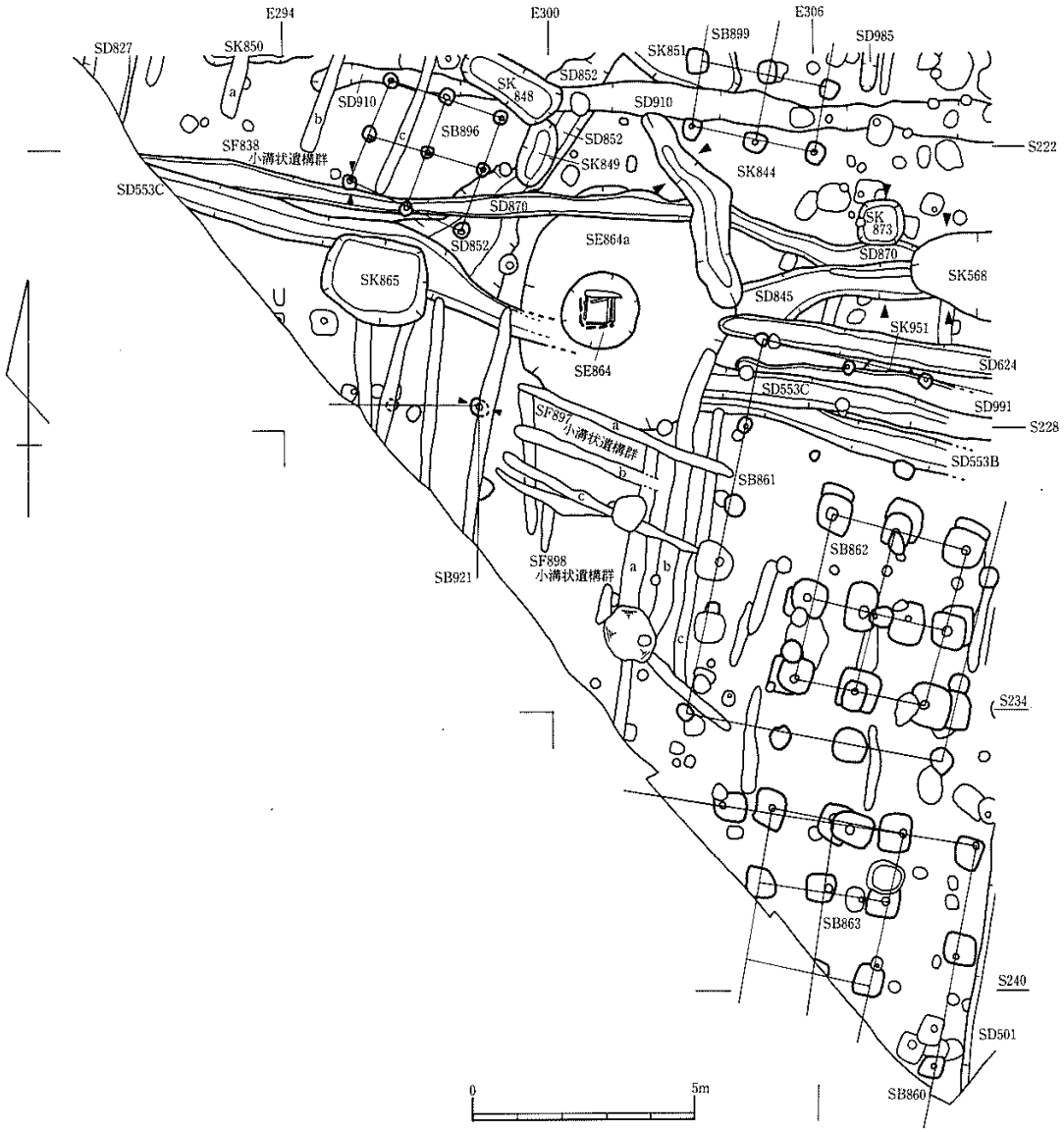
第105図　北1西3区分割図(2)

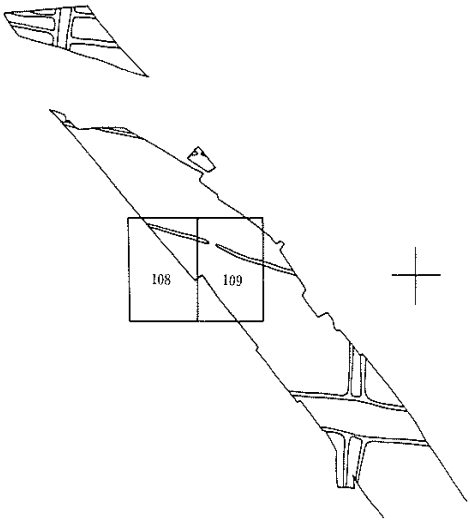


第106図　北１西３区分割図(3)

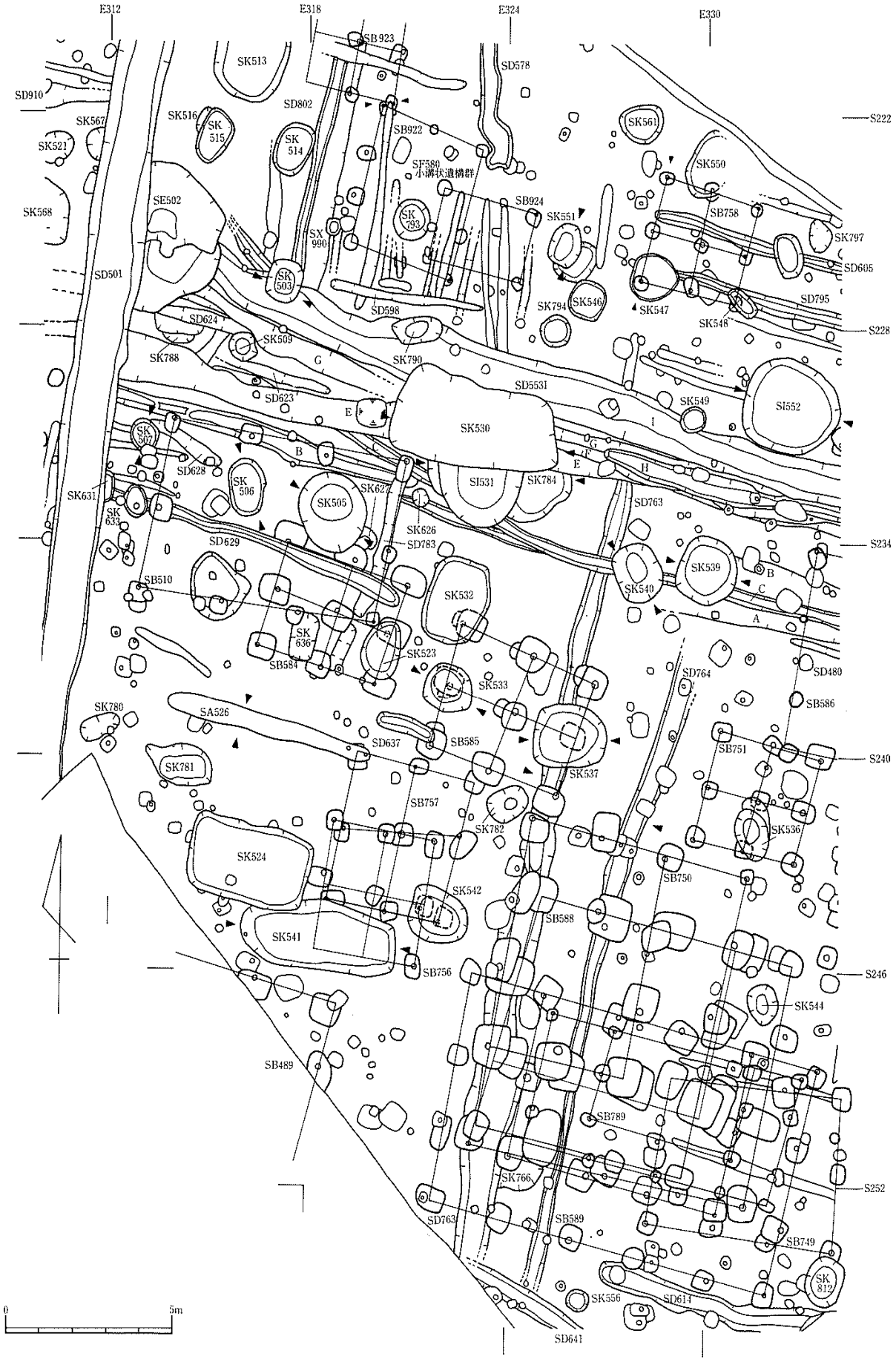


第107図　北１西３区分割図(4)

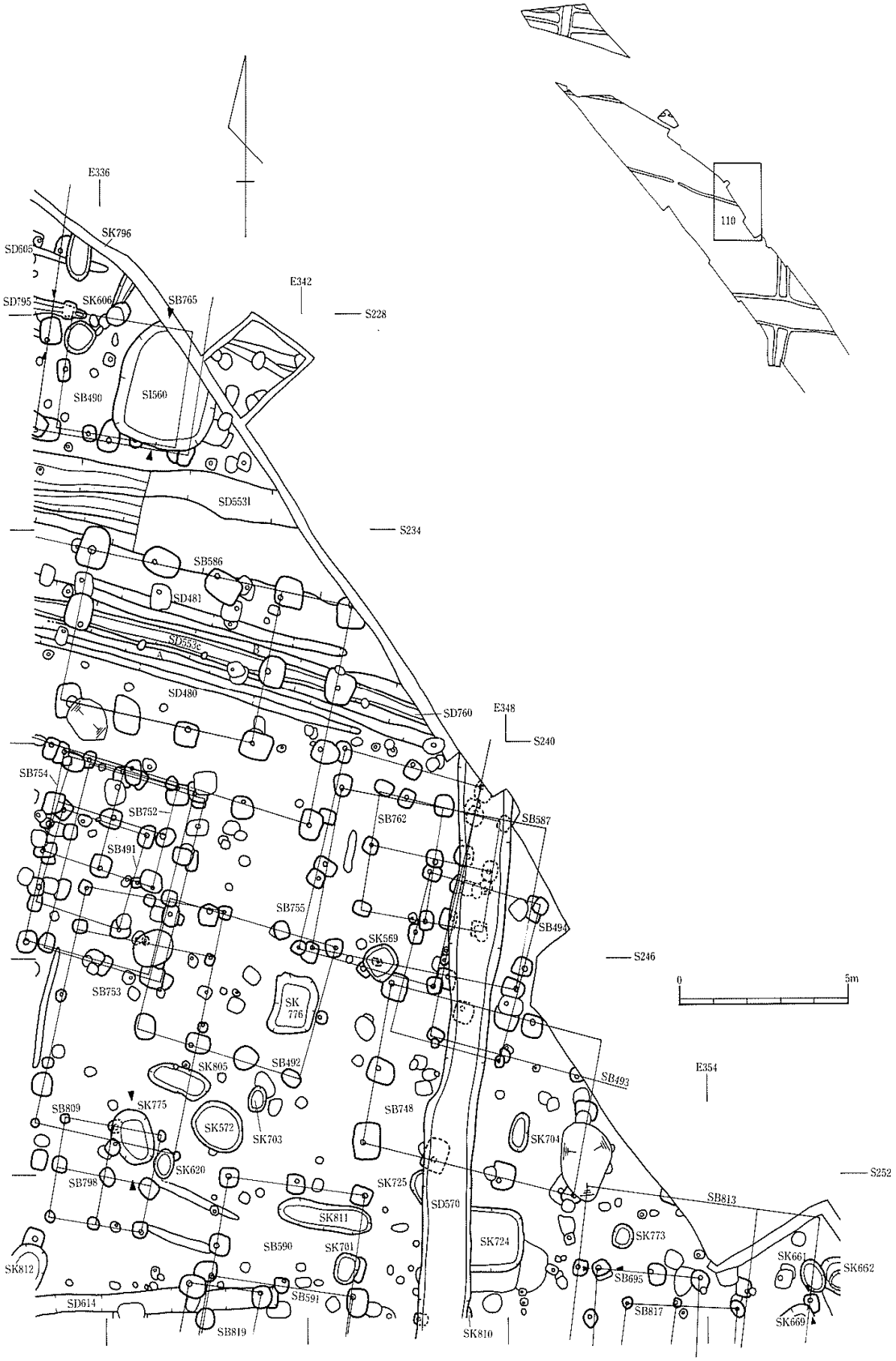




第108図　北1西3区分割図(5)

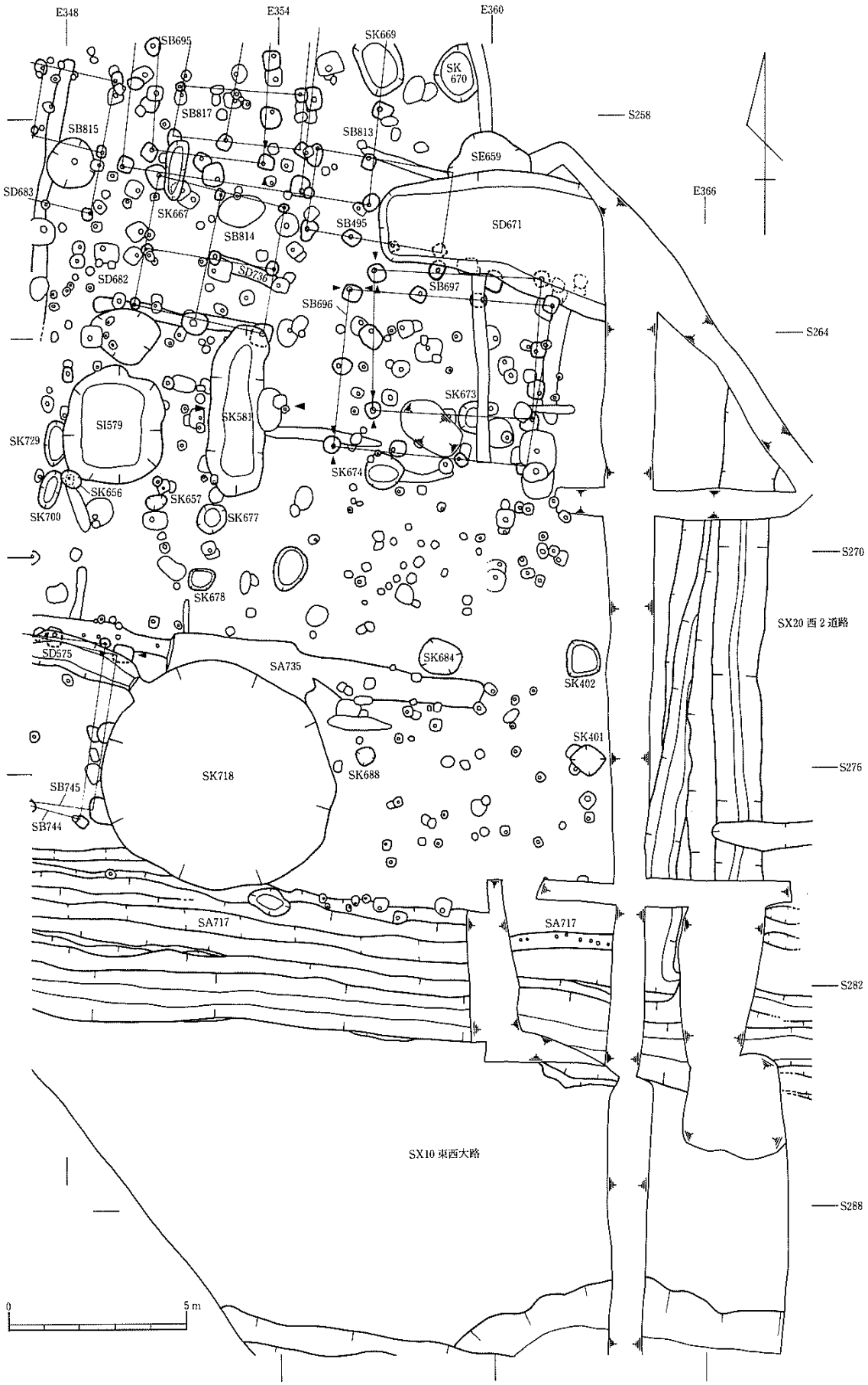


第109図　北１西３区分割図(6)



第110図　北１西３区分割図(7)

第111図　北１西３区分割図(8)



第112図　北1西3区分割図(9)

第7表　北1西3区掘立柱建物跡一覧表（その1）

遺構名	構造	規模（間）（長軸×短軸）	総長（m）	方向（°）	備　　考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SB489	不明	2以上×2以上	不明	(E-16-S)	→抜取り。		109	69
SB490	東西棟	3×2	(3.7)×(3.3)	(E-11-S)		81	110	
SB491	南北棟	2×1	2.78×2.58	N-18-E		90	110	72
SB492	東西棟	3×2	(5.2)×(3.8)	(E-15-S)		90	110	72・75
SB493	南北棟？	4以上×3以上	不明	(N-12-E)		93	110	75
SB494	南北棟	3×2	(4.6)×(3.4)	(N-15-E)		93	110	75
SB495	東西棟	3×2	(3.9)×2.24	(E-7-S)		102	112	
SB498	不明	3以上×2以上	不明	(E-12-S)		99	111	78
SB499	不明	2以上×2以上	不明	不明		99	111	78
SB510	東西棟	3×2	7.04×4.62	E-10-S	→切取り。	84	109	69
SB584	東西棟	2×2	3.79×2.97	E-18-S	総柱。礎板あり。→切取り。	85	109	69
SB585A	東西棟	2×2	不明	E-22-S	礎板あり。	85	109	69
SB585B	東西棟		4.28×3.53					(76)
SB586	東西棟	5×3	7.78×5.61	E-13-S	三面廂（南・東・西廂）。→切取り。	87	109・110	72・75
SB587	東西棟	3×2	6.21×4.51	E-11-S	切取り。	91	110	75
SB588	東西棟	4×3	(8.5)×(4.5)	(E-12-S)	二面廂（南・東廂）。礎板あり。	94	109	76
SB589	東西棟	5×3	(10.7)×6.48	E-15-S	三面廂（南・東・西廂）。礎板あり。→抜取り。	94	109	76
SB590	南北棟	3×2	6.06×4.13	N-10-E		99	110・111	78
SB591	南北棟	3×2	5.97×4.24	(N-16-E)		100	110・111	78
SB595A	東西棟	3×3	(6.0)×5.24	E-7-S	総柱。礎板あり。	103	111	78
SB595B			6.01×5.31					
SB685	東西棟	3×2	5.47×3.07	(E-3-S)		104	111	78
SB695	南北棟	3×2	4.31×3.11	N-3-E		101	110・112	
SB696	東西棟	3×2	5.75×4.30	E-6-S		103	112	
SB697	東西棟	3×2	4.67×3.76	E-3-S		102	112	
SB744A	東西棟	3×2	5.89×4.45	E-7-S	掘り方に灰白ブロック含。	104	111・112	78
SB744B			6.04×4.84	E-8-S	礎板あり。			
SB746	東西棟	3×2	5.95×(4.2)	E-6-S		100	111	78
SB747	東西棟	3×2	4.72×(2.7)	E-2-S		100	111	78
SB748	東西棟	3×2	6.48×4.52	E-14-S	→抜取り。	93	110	75
SB749	東西棟	3×2	5.65×(4.3)	E-8-S	礎板あり。	96	109	76
SB750	南北棟	4×3	(8.8)×4.17	N-11-E	二面廂（南・東廂）。礎板あり。	93	109	76
SB751	－	2×2	3.21×3.06	E-15-S	総柱。礎板あり。	88	109	72・76
SB752	東西棟	2×2	3.50×2.90	E-16-S	総柱。礎板あり。→抜取り。	88	110	72
SB753	南北棟	3×2	(5.4)×(3.5)	(N-15-E)	→抜取り。	88	110	72
SB754	南北棟	3×2	(5.5)×(4.1)	(N-13-E)	→抜取り。	90	110	72
SB755	南北棟	3×2	5.69×4.22	N-15-E	礎板あり。→抜取り。	92	110	75
SB756	南北棟	2×2	3.55×3.07	N-12-E	総柱。礎板あり。	87	109	69
SB757	南北棟	2×2	4.22×3.42	N-13-E	総柱。礎板あり。	85	109	69
SB758	－	2×2	3.12×2.82	N-14-E	総柱。掘り方に灰白ブロック含。礎板あり。	81	109	
SB762	－	2×2	(3.6)×(3.3)	(E-12-S)	総柱。礎板あり。→抜取り。	91	110	75
SB765	南北棟	3以上×2	不明×(4.5)	(N-9-E)		81	110	
SB777	南北棟	3×2	6.03×4.52	N-11-E		97	111	78
SB778	南北棟	3×2	(4.8)×(3.9)	(N-12-E)		97	111	78
SB779	東西棟	3×2	(5.4)×3.05	(E-8-S)		97	111	78
SB789	東西棟	4×3	7.72×3.60	E-15-S	三面廂（南・東・西廂）。	96	109	76
SB798	－	2×2	(2.9)×(2.8)	(E-11-S)	総柱。	96	110	78
SB807	不明	3以上×3以上	不明	(E-11-S)		99	111	78
SB809	南北棟	4×2	(5.7)×(4.2)	(N-13-E)	片廂（北廂）。	90	110	72・75
SB813	南北棟	3×3	(7.3)×7.09	(N-7-E)	片廂（東廂）。	101	110・112	
SB814	－	2×2	3.65×3.55	E-14-S	総柱。	102	112	
SB815	東西棟	2×2	4.13×3.71	E-12-S	総柱。	101	111・112	
SB816	南北棟	3×2	5.10×3.92	N-11-E		104	111	78
SB817	－	2×2	3.30×(3.0)	E-3-S	総柱。	101	110・112	

第8表　北1西3区掘立柱建物跡一覧表（その2）

遺構名	構造	規模（間）（長軸×短軸）	総長（m）	方向（°）	備　考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SB819	南北棟	2×1	2.91×2.14	N-11-E	抜取り。	100	110・111	78
SB857	南北棟	3×2	4.52×3.48	N-14-E	総柱。礎板あり。	77	106	56
SB858	南北棟	2×2	(3.5)×3.00	E-16-S	総柱。礎板あり。→切取り。	78	106	56
SB859	東西棟	3×3	6.83×5.55	E-6-S	片廂（南廂）。→切取り。	71	105	48
SB860	不明	3以上×3以上	不明	(E-9-S)	礎板あり。→切取り。		108	67
SB861	南北棟	4×3	(8.4)×(5.7)	N-10～15-E	束柱。礎板あり。→抜取り（灰白含）。	82	108	67
SB862A	南北棟	2×2	不明	N-16-E	総柱。礎板あり。→切取り。	82	108	67
SB862B	南北棟	2×2	3.45×3.12					
SB863	南北棟	3以上×2	不明×3.01	E-10-S	総柱。礎板あり。→切取り。	84	108	67
SB879A	東西棟	4×2	(7.0)×(3.7)	(E-9-S)	いずれも間仕切りあり。	73	106	56
SB879B	東西棟	4×2	(6.7)×(4.4)					
SB880	南北棟	3×2	(6.7)×(4.2)	(N-7-E)		76	107	56
SB895	東西棟	3×2	5.65×4.03	E-10-S	礎板あり。	71	105・106	48
SB896	—	2×2	2.63×2.63	E-18～24-S	総柱。→抜取り。	80	108	56
SB899	—	2×2	2.81×(2.8)	E-11-S	総柱。	79	106・108	56
SB909	南北棟	2×2	(4.0)×3.13	E-5-S		73	106	
SB921	不明	2以上×2以上	不明	不明			108	
SB922	南北棟	3×2	(4.0)×(3.3)	(N-15-E)		80	109	
SB923	—	2×2	2.53×(2.5)	N-8-E	総柱。	80	107・109	
SB924	東西棟？	3×2	(2.9)×(2)	N-14-E		81	109	
SB925	南北棟	4×3	6.75×(5.7)	N-5-E	片廂（西廂）。間仕切りあり。→抜取り。	72	105・106	48
SB927	東西棟	3×2	(5.6)×(3.9)	(E-8-S)	→抜取り。	72	105・106	48
SB928	—	2×2	2.91×2.81	E-6-S		72	105・106	48
SB929	南北棟	3×1	5.00×4.13	N-7-E		75	106	56
SB930	南北棟	3×2	4.53×3.51	(N-10-E)	→抜取り。	77	107	56
SB931	東西棟	2×2	(4.9)×3.75	(E-7-S)		76	106	56
SB932	南北棟	3×2（3）	5.63×4.02	N-4-E	南妻3間	75	106	56
SB933	不明	3×不明	5.66×不明	E-5-S			105	48
SB934	不明	3×2以上	(5.1)×（ ）	(E-4-S)	71	106	48	
SB935	不明	3以上×2以上	不明	(E-15-S)	→抜取り or 切取り。		105	48
SB936	南北棟	3×2	(4.3)×(3.8)	(N-4-E)		73	105・106	48
SB943	東西棟	3×2	(6.8)×2.96	(E-12-S)	→抜取り。	78	106	56
SB944	—	2×2	(4.5)×(4.2)	(N-8-E)	礎板あり。→抜取り。	79	106・107	56
SB945	東西棟	3×2	(5.0)×(4.8)	(E-8～12-S)		75	106	56
SB947	不明	2以上×2以上	不明	不明			106	
SB948	不明	2以上×2以上	不明	(E-3-S)			106	56
SB949	東西棟	2×2	(6.9)×(4.9)	(E-7-S)	礎石建物？掘り方に灰白ブロック含。	79	107	56
SB969	不明	2×2以上	(3.4)×不明	E-11-S	礎板あり。SB970の建て替え？	76	107	
SB970	不明	2×不明	(3.4)×不明	E-12-S		76	107	
SB986	東西棟	2×2	(4.2)×(3.2)	(E-3-S)		77	107	56
SB4084	不明	3以上×2	不明×(4.2)	N-4-E		69	104	
SB4085	不明	3以上×2以上	不明	(E-5-S)		69	104	
SB4086	不明	3以上×2	不明×3.86	N-8-E		69	104	

第9表　北1西3区土壙一覧表（その1）

遺構名	平面形	断面形	規模		備考	本文	図版番号	
			長軸×短軸（m）	深さ（cm）		（頁）	分割図	断面図
SK 401	隅丸方形	不明	0.7×0.7	不明			112	
SK 402	隅丸方形	皿状	1.0×1.0	43			112	
SK 503	隅丸長方形	摺鉢状	1.2×1.0	50	土器溜。灰白ブロック含。	117	109	95
SK 505	楕円形	皿状	2.3×2.0	28	灰白ブロック含。遺物多。	123	109	96
SK 506	楕円形	皿状	1.6×1.1	17		121	109	96
SK 507	円形	皿状	径0.9	21	土器溜。灰白粒含。	117	109	95
SK 509	円形	皿状	径0.8	24	灰白粒含。		109	
SK 511	楕円形	皿状	1.7×0.8	12			107	
SK 512	楕円形	不明	2.3×1.0	不明			107	
SK 513	隅丸長方形	皿状	2.5×2.2	不明			107・109	
SK 514	楕円形	皿状	1.5×1.1	15	灰白粒含。		109	
SK 515	楕円形	不明	1.4×0.9	不明			109	
SK 516	不明	不明	0.7以上	不明			109	
SK 517	楕円形	不明	2.3以上×1.8	不明			107	
SK 518	楕円形	不明	1.6×1.4	不明			107	
SK 519	不整形	不明	1.6×1.0以上	不明			107	
SK 521	円形？	不明	0.9×0.7以上	不明	土器溜。	117	109	95
SK 523	楕円形	皿状	1.7×1.1	13	灰白粒含。		109	
SK 524	隅丸長方形	皿状	3.7×2.2	26			109	
SK 530	不整長方形	逆台形	4.3×2.3	111	→埋め戻し。	121	109	96
SK 532	隅丸長方形	皿状	2.4×1.9	34	灰白の一次堆積層。		109	
SK 533	不整形	皿状	1.6×1.3	37	灰白ブロック含。	123	109	96
SK 536	楕円形	皿状	1.5×1.0	25			109	
SK 537	隅丸長方形	逆台形	2.3×1.8	51	灰白ブロック含。	123	109	96
SK 539	楕円形	逆台形	2.0×1.7	29	灰白粒含。	123	109	96
SK 540	楕円形	摺鉢状	1.7×1.4	52	灰白ブロック含。	123	109	96
SK 541	隅丸長方形	逆台形	4.7×2.0	69	遺物多。	124	109	97
SK 542	不整形	皿状	1.8×1.5	24			109	
SK 544	楕円形	皿状	1.1×0.9	32	灰白ブロック含。		109	
SK 546	隅丸方形	皿状	1.1×1.1	10			109	
SK 547	不整形	皿状	1.4×1.3	12			109	
SK 548	長楕円形	皿状	1.1×0.6	16			109	
SK 549	楕円形	皿状	0.8×0.7	22			109	
SK 550	楕円形？	皿状	2.1×1.0	21			109	
SK 551	楕円形	摺鉢状	1.3×0.9	32	土器溜。	117	109	95
SK 556	隅丸方形	皿状	0.6×0.6	20			109	
SK 558	円形	皿状	径1.6	16		124	111	
SK 561	不整楕円形	皿状	1.3×1.1	不明			109	
SK 567	不整形	不明	0.9×0.5≦	不明			109	
SK 568	不整形	逆台形	2.5×1.5	48	遺物多。	121	108・109	96
SK 569	不整円形	逆台形	径1.0	36			110	
SK 572	楕円形	不明	1.6×1.5	不明			110	
SK 573	楕円形	不明	0.6×0.5	不明			111	
SK 581	長楕円形	皿状	4.6×1.7	38		124	112	97
SK 606	楕円形	摺鉢状	0.7×0.6	31	灰白ブロック含。		110	
SK 620	楕円形	不明	0.8×0.6	不明			110	
SK 626	不整円形	皿状	径0.5	19			109	
SK 627	楕円形？	不明	0.7×0.5	不明			109	
SK 631	隅丸長方形	不明	0.9×0.4≦	不明			109	
SK 633	楕円形	不明	0.9×0.7	不明			109	
SK 636	隅丸長方形	不明	1.3×0.8	不明			109	
SK 640	楕円形？	不明	1.1×0.8≦	不明			111	
SK 648	不整楕円形	逆台形	2.9×2.3	23			111	
SK 652	円形	不明	径1.1前後	12			111	
SK 655	隅丸方形	摺鉢状	0.7×0.7	36			111	
SK 656	楕円形	皿状	0.6×0.4	15			112	
SK 657	楕円形	皿状	0.6×0.3	23			112	
SK 661	楕円形	皿状	1.0×0.6	13			110	

第10表　北１西３区土壙一覧表（その２）

遺構名	平面形	断面形	規模		備　　考	本文	図版番号	
			長軸×短軸（m）	深さ（cm）		（頁）	分割図	断面図
SK 662	楕円形	皿状	1.7以上×1.1	37			110	
SK 667	長楕円形	皿状	1.7×0.7	17			112	
SK 669	隅丸長方形	皿状	1.7×1.2	19			110・112	
SK 670	不整円形	逆台形	径1.4前後	29			112	
SK 673	円形	摺鉢状	径0.9前後	28			112	
SK 674	不整円形	皿状	1.1×1.0	12			112	
SK 677	隅丸方形	皿状	0.8×0.8	16			112	
SK 678	隅丸長方形	皿状	0.8×0.6	7			112	
SK 684	楕円形	不明	1.2×1.0	不明			112	
SK 686	隅丸方形	摺鉢状	0.9×0.9	28			111	
SK 688	隅丸方形	皿状	0.5×0.5	8			112	
SK 689	不整楕円形	逆台形	1.3×1.1	49			111	
SK 690	円形	皿状	径1.3	13			111	
SK 691	隅丸方形	フラスコ状	0.8×0.8	52	底面最大幅1.1m。			
SK 699	楕円形？	皿状	1.4×0.4	13			111	
SK 700	隅丸長方形	皿状	1.1×0.5	16			112	
SK 701	隅丸方形	逆台形	0.9×0.7	26			110	
SK 703	不整形	皿状	0.7×0.5	11			110	
SK 704	不整楕円形	不明	1.1×0.5	不明			110	
SK 714	楕円形	摺鉢状	1.1×0.8	62		124	111	97
SK 718	ほぼ円形	不明	径6.4～6.6	不明	SD575 と一連の土壙。	125	112	
SK 719	隅丸方形	逆台形	3.4×2.3	44	→埋め戻し。		111	
SK 722	円形	皿状	0.3前後	6			111	
SK 724	隅丸方形	不明	1.8×1.8前後	不明			110	
SK 725	円形？	不明	1.0×0.4以上	不明			110	
SK 729	楕円形？	皿状	1.3×0.5	19			112	
SK 730	楕円形？	皿状	0.9前後×0.8	14			111	
SK 731	楕円形？	不明	0.6以上×0.4	10			111	
SK 743	不整円形	皿状	0.8×0.7	44			111	
SK 766	不整形	不明	1.3以上×1.1	13			109	
SK 769	長楕円形	不明	2.2以上×1.0	18			111	
SK 773	円形	皿状	径0.7前後	11			110	
SK 775	不整楕円形	逆台形	1.7×1.2	42	灰白ブロック含。	124	110	97
SK 776	隅丸方形	皿状	1.7×1.3	25			110	
SK 780	楕円形？	不明	1.0×0.6	23			109	
SK 781	不整形	逆台形	1.8×1.1	30			109	
SK 782	楕円形	皿状	1.3×1.0	16			109	
SK 784	円形？	皿状	1.9以上×1.5	39	遺物多。	121	109	93
SK 788	円形	逆台形	径1.0～1.1	22			109	
SK 790	不整楕円形	摺鉢状	1.5×0.8	48			109	
SK 793	楕円形	不明	1.1×1.0	不明			109	
SK 794	隅丸長方形	皿状	1.2×1.0前後	23			109	
SK 796	楕円形	逆台形	1.3×0.7	27	遺物多。	120	110	
SK 797	不整形	皿状	0.9×0.7	21			109	
SK 805	不整形	皿状	1.9×0.8	33			110	
SK 810	隅丸方形？	不明	0.8×0.7前後	52			110	
SK 811	長楕円形	逆台形	2.7×0.8	15			110	
SK 812	楕円形	皿状	1.5×1.1	30			109・110	
SK 820	隅丸方形	皿状	1.7×1.3	30	土器溜。	116	105	95
SK 826	隅丸長方形	摺鉢状	1.4×0.9	36			106	
SK 828	不整楕円形	皿状	1.4×1.2	14		118	106	
SK 836	隅丸長方形	摺鉢状	1.4×1.0	46		118	106	95
SK 839	隅丸方形	不明	1.6×1.6前後	不明			106	
SK 840	長楕円形	皿状	7.9×1.1前後	23		120	106	95
SK 841	隅丸長方形	不明	1.5×1.1	不明			107	
SK 844	不整形	「U」字形	4.6×0.6～0.9	32		120	108	96
SK 848	楕円形	摺鉢状	2.3×0.9	30			108	
SK 849	楕円形	皿状	1.4×0.7	11			108	

第11表　北１西３区土壙一覧表（その３）

遺構名	平面形	断面形	規模		備　　考	本文	図版番号	
			長軸×短軸（m）	深さ（cm）		（頁）	分割図	断面図
SK 850	不整形	皿状	2.5×0.9	31		120	106	95
SK 851	楕円形	不明	3.3×1.9	不明			106	
SK 853	不整形	不明	1.2×0.9	不明			107	
SK 865	隅丸方形	皿状	2.3×1.8	12			108	
SK 872	楕円形	皿状	3.5×2.9	33		118	106	95
SK 873	隅丸方形	逆台形	1.0×1.0前後	10			108	
SK 878	楕円形	不明	0.9×0.6	不明			106	
SK 893	楕円形	逆台形	3.6×1.3	44			105	
SK 894	楕円形	皿状	2.7以上×1.8	28			105	
SK 901	楕円形	皿状	1.3×0.9	27		120	106	95
SK 903	不明	皿状	2.1×0.3以上	12			106	
SK 904	隅丸方形	皿状	0.7×0.7	24			106	
SK 912	方形	不明	1.0×1.0	不明			106・107	
SK 939	楕円形？	皿状	1.4×1.3以上	24			106	
SK 940	不整形	摺鉢状	2.1×1.1前後	52	→埋め戻し。		106	
SK 941	不整形	摺鉢状	2.2×1.1以上	48			106	
SK 946	不整形	皿状	4.3×3.4	23		118	106	95
SK 951	楕円形	摺鉢状	1.0×0.8	46			108	
SK 952	不整円形	逆台形	2.3×2.1	62		118	106	95

第12表　北１西３区溝跡一覧表

遺構名	規模			方向（°）	断面形	備考	本文	図版番号	
	上端幅（m）	下端幅（m）	深さ（cm）				（頁）	分割図	断面図
SD480	0.3	0.2	10～14	E-15-S	逆台形	SD553a～c に伴う？		109・110	
SD481	0.3	0.2	9～17	E-15-S	「U」字形	SD553a～c に伴う？		110	
SD501	1.0～2.0	0.8～1.1	18～21	N-9-E	逆台形			107～109	
SD570	1.1～1.6	0.9～1.4	11～26	N-5-E	逆台形			110・111	
SD575	0.7～1.3	0.3～0.8	14～30	E-17-S	逆台形	SK718 と一連。	136	111・112	
SD578	0.6前後	0.5前後	8前後	N-1-W	「U」字形			107・109	
SD598	0.2～0.3	0.1前後	3	E-9-S	「U」字形			109	
SD605	0.3～0.4	0.2～0.3	7	E-15-S	「U」字形			109・110	
SD614	0.6～0.8	0.3～0.5	10	E-2-N	不明			109・110	
SD623	0.3前後	0.1前後	不明	E-15-N	不明			109	
SD628	0.3～0.5	0.2	8	E-32-S	「U」字形			109	
SD629	0.3～0.5	0.2	3～9	E-19-S	「U」字形			109	
SD637	0.4～0.5	0.2前後	8～13	E-19-S	「U」字形			109	
SD641	0.4～0.6	0.3～0.4	8～11	E-38-S	逆台形		136	109・111	
SD671	2.5～3.3	1.8前後	10～19	東西方向	「U」字形			112	
SD682	0.3～0.4	0.2～0.3	8～23	E-9-S	逆台形	材木塀の抜取り溝？		112	
SD683	0.3～0.6	0.2前後	13	N-9-E	逆台形	材木塀の抜取り溝？		112	
SD687	0.5～0.6	0.4～0.5	11～17	N-12-S	逆台形	材木塀の抜取り溝？		111	
SD692	0.5	0.4	10前後	N-10-E	逆台形			111	
SD720	0.3～0.4	0.2前後	不明	E-3-S	逆台形			111・112	
SD736	0.4前後	0.2前後	6～9	E-20-S	「U」字形			112	
SD763	0.5～1.5	0.2～1.1	12～20	N-12-E	「U」字形		135	109	103
SD764	0.4～0.7	0.2～0.4	20～31	N-16-E	「U」字形		135	109	103
SD783	0.3～0.5	0.2～0.3	8～21	N-19-E	「U」字形	材木塀の抜取り溝？		109	
SD795	0.3～0.5	0.1～0.2	30～33	E-14-S	逆台形	材木塀の抜取り溝？		109・110	
SD802	0.4～0.5	0.2～0.4	10～14	N-13-E	不明			109	
SD827	1.2～1.5	0.7～0.9	15～27	N-5-E	逆台形		134	106・108	103
SD832	0.3～0.4	0.2前後	2～9	N-9-E	「U」字形			106	
SD833	0.4～0.5	0.1～0.2	4～6	N-9-E	「U」字形			106	
SD837	0.3～0.4	0.1～0.2	4～6	N-10-E	「U」字形			107	
SD842	0.4～0.5	0.2～0.3	4～13	N-14-E	「U」字形			107	
SD845	0.7～0.8	0.4前後	18前後	E-5-N	皿状		134	107・108	103
SD852	0.8前後	0.3～0.4	10～36	N-37-E	「U」字形		134	106～108	103
SD870	0.4～0.5	0.3前後	10～12	E-3-S	皿状		134	108	103
SD875	0.7～0.8	0.2前後	16前後	南北方向	浅い皿状			106	
SD882	0.2～0.3	0.1前後	3～6	N-8-E	「U」字形			106	
SD905	0.4～0.6	0.2～0.3	不明	N-12-E	不明			106	
SD906	0.3～0.5	0.2前後	17～25	N-11-E	「U」字形			105・106	
SD907	0.4～0.6	0.3～0.4	4～14	E-33-N	「U」字形	A・B2 時期あり。	133	105・106	
SD910	0.4～0.8	0.3～0.5	7～12	E-3-S	逆台形	材木塀の抜取り溝？		108	
SD913	0.6～0.8	0.2前後	20前後	E-3-S	「U」字形			107	
SD916	0.4～0.8	0.3～0.5	17前後	N-4-E	逆台形	材木塀の抜取り溝？		106	
SD917	0.5	0.3～0.4	11～21	N-26-E	「U」字形				
SD938	0.6前後	0.4前後	20前後	N-4-E	逆台形			105	
SD968	0.7～0.8	0.4～0.5	21～24	N-13-S	「U」字形			105	
SD985	0.4～0.5	0.2～0.3	2～7	N-11-E	「U」字形			107・108	

4．南１西３区

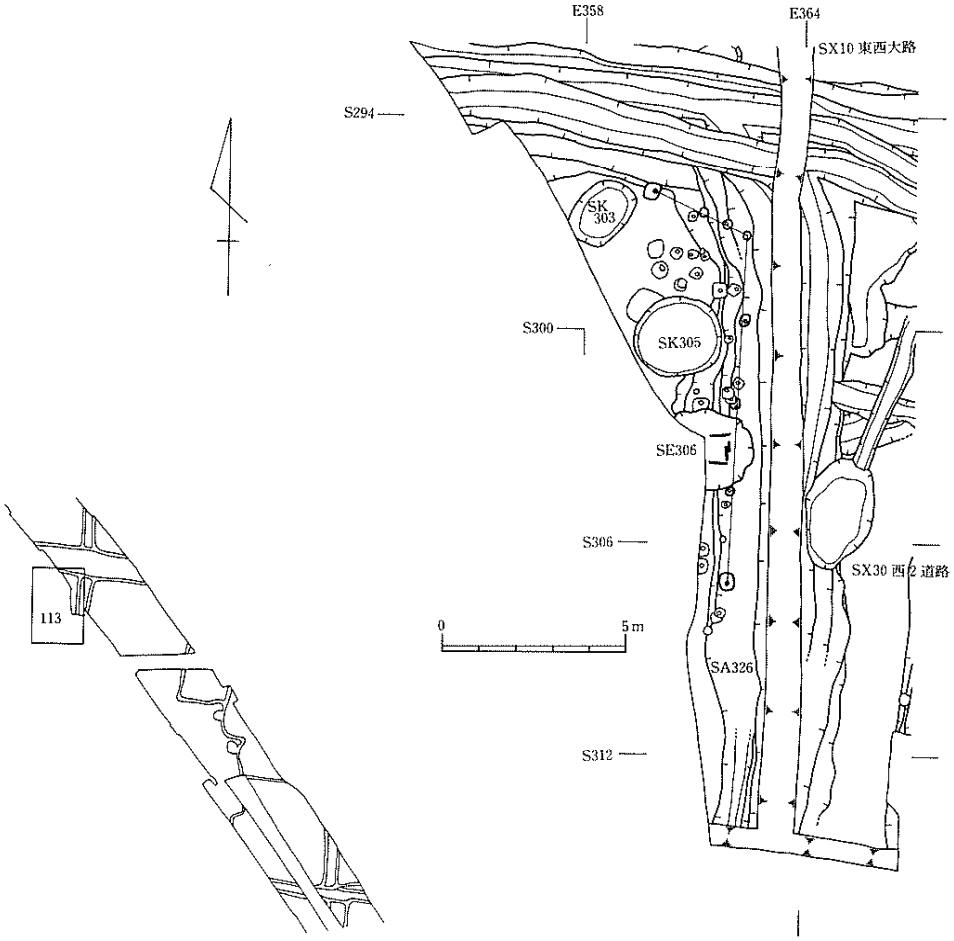
北をＳＸ10東西大路、東をＳＸ30西２道路に面した区画で、今回の調査は北東隅の部分にあたる。井戸跡１基、土壙２基、材木塀跡２条、柱穴列１条、溝１条を検出しているが、調査面積が狭く区画内の具体的な状況については不明である。

(1)井戸跡

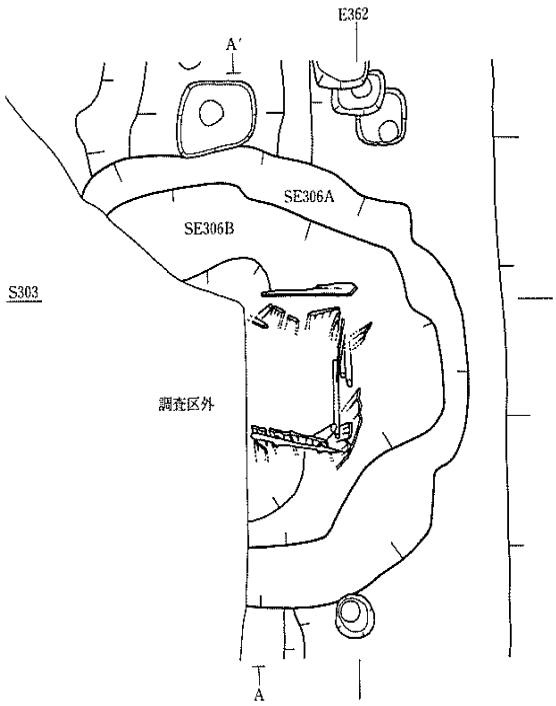
【ＳＥ306井戸跡】（第113･114図）

ＳＸ999整地層上面で検出し、西半部は調査区外になる。ＳＸ30Ｆ西側溝と重複し、これより新しい。井戸枠の確認までで掘り下げは行っていない。

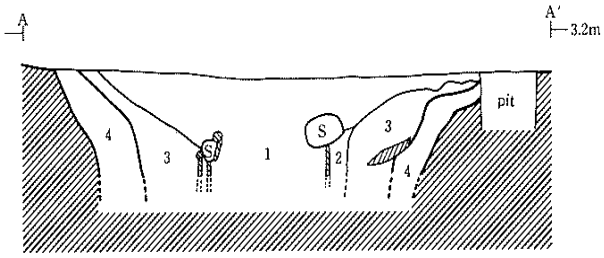
ＳＥ306は掘り方を掘り、木組みの井戸枠を据えた井戸跡で、井戸枠上部は抜かれている。掘り方は径1.8m前後のゆがんだ円形である。井戸枠は縦板組みで、掘り方中央やや東よりに据えられている。各辺３枚前後の長方形の板材を縦方向に並べて据えており、竪板は外側の横桟で保持している。規模は一辺70cm前後の方形である。掘り方埋土は地山ブロック･灰白色火山灰粒を含む黒褐色土からなる。抜き取り後の堆積土は自然堆積土である。なお、詳細は不明であるが、平面的にみて２時期（ＳＥ306



第113図　南１西３区遺構全体図

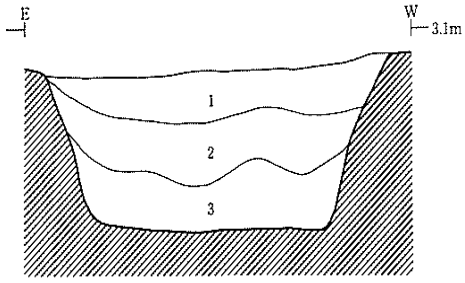


SE306 井戸跡平面図



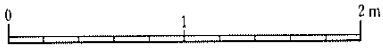
No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR2/2	シルト	SE306B	［抜取り穴堆積土］炭化物多。
2	黒 10YR2/1	粘質シルト		［抜取り穴堆積土］
3	黒褐 10YR3/2	シルト		［掘り方埋土］灰白粒・地山ブロック多。
4	黒褐 10YR3/1	シルト	SE306A	［掘り方埋土］灰白粒・炭化物含。

SE306 井戸跡断面図



No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	炭化物少量含。地山ブロック多。
2	黒褐 10YR2/2	粘土	地山ブロック多。
3	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	砂	黒褐色粘土ブロック含。

SK303 土壙断面図



第114図　SE306井戸跡、SK303土壙断面図

A→B）の可能性が高い。

遺物は抜き取り穴堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器などが出土している。坏類では土師器が主体をなし、底部調整は回転糸切り無調整のものが多い。また須恵器坏では回転糸切り無調整とヘラ切り無調整のものが多くみられる。

(2) 土壙

【ＳK303 土壙】（第113･114図）

ＳX999 整地層上面で検出した。平面形は長軸 1.9m、短軸 1.5mの南北に長い隅丸長方形で、深さは 90cm である。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 3 層に分けられ、1･2 層は人為的に埋め戻され、3 層は自然堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、赤焼土器坏、瓦が少量出土している。

【ＳK305 土壙】（第113図）

ＳX999 整地層上面で検出した。ＳX30D西側溝と重複し、これより新しい。平面形は径 2.3～2.5mの円形である。深さ、断面形などは不明である。

遺物はロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕・壺、赤焼土器坏、製塩土器が出土している。

(3)材木塀跡・柱穴列

ａ.材木塀跡

【ＳＡ300材木塀跡】（第24図）

調査区北東端に位置し、ＳＸ30西側溝に沿って南北に延びる材木塀跡である。ＳＸ10・30Ｃ側溝埋没後に施したＳＸ999整地層の上面で検出した。ＳＸ10とのコーナー付近から構に約10m検出し、南側はさらに調査区外に延びている。ＳＸ30南北道路跡、ＳＥ306井戸跡、ＳＫ305土壙、ＳＡ250材木塀跡と重複し、ＳＸ30Ｃより新しく、ＳＸ30Ｆ、ＳＥ306、ＳＫ305、ＳＡ250よりも古い。

掘り方（布堀り）は、塀廃絶後の抜き取り溝やＳＡ250、ＳＸ30Ｆ以降の造成によって壊されているため部分的に確認できたにすぎないが、上端幅約0.6m、底面幅約0.3mである。断面は「Ｕ」字形をなし、深さは約40cm残存する。材木痕跡は確認できたもので径10～25cm程で、間隔は25cm程と推測される。方向は北で約4度東に偏している。なお、ＳＡ300は重複関係からみてＳＸ30Ｄに伴うものとみられ、西側溝との間隔は心々で約1.8mである。

遺物は抜き取り溝堆積土から土師器坏・甕の小片が少量出土している。

【ＳＡ250材木塀跡】（第25図）

調査区北東端に位置し、ＳＸ30西側溝に沿って南北に延びる材木塀跡である。ＳＸ999整地層の上面で検出した。ＳＸ10とのコーナー付近から南に約10m検出し、南側はさらに調査区外に延びている。ＳＸ30南北道路跡、ＳＥ306井戸跡、ＳＫ305土壙、ＳＡ300材木塀跡と重複し、ＳＡ300より新しく、ＳＸ30Ｆ、ＳＥ306、ＳＫ305よりも古い。

掘り方（布堀り）は、塀廃絶後の抜き取り溝やＳＸ30Ｆ以降の造成によって壊されているため、北端部で確認できたにすぎないが、上端幅約0.4m、底面幅約0.2mである。断面は「Ｕ」字形をなし、深さは約30cm残存する。材木痕跡は確認できたもので径10～15cm程で、間隔は25cm程と推測される。方向は北で約4度東に偏している。なお、ＳＡ250は重複関係からみてＳＸ30Ｅに伴うものとみられる。

遺物は抜き取り溝堆積土から土師器坏・甕の小片が少量出土している。

ｂ.柱列

【ＳＡ326柱列】（第113図）

ＳＸ30西側溝およびＳＸ10南側溝に沿ってＬ字状にめぐる、南北4間以上、東西2間以上の柱列である。ＳＸ999整地層の上面で検出した。ＳＸ10･30Ｃと重複し、これより新しいことから、ＳＸ10･30Ｄ以降の区画施設と考えられる。

柱間寸法は、南北方向の柱列で北より2.40m・2.45m・2.41m・2.64m、東西方向の柱列で西より1.40m・1.40mとなり、東西柱列の柱間が狭くなる。方向は南北方向が北で約3度東に偏している。東西方向はコーナー付近にあたるため振れが大きく、東で約25度南に偏している。柱穴は一辺20～30cmや一辺40～50cmの隅丸方形で、柱痕跡は径10cm前後の円形である。

遺物は出土していない。

(4)溝跡

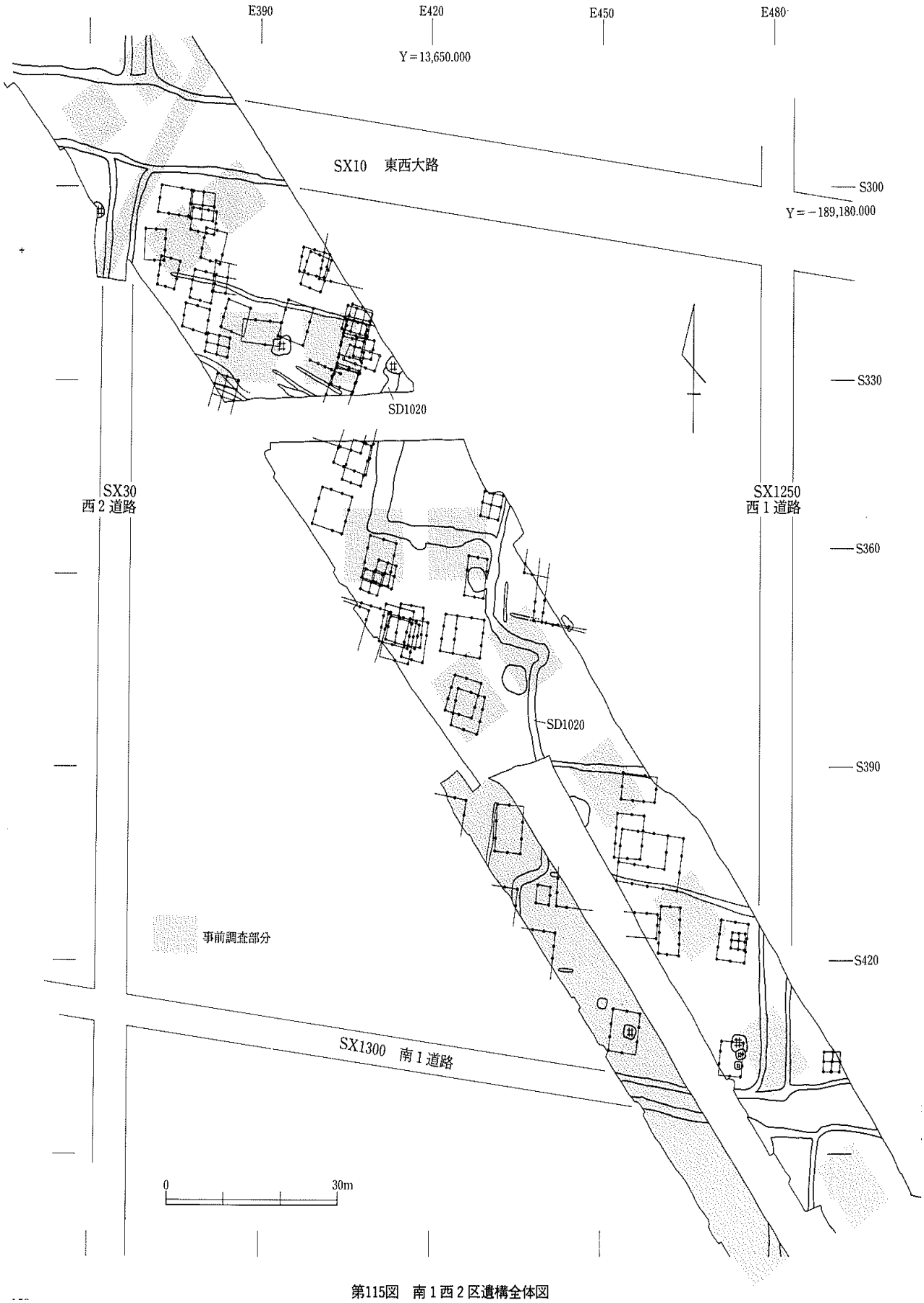
【ＳＤ317 溝跡】（第24図）

ＳＸ10Ａの路面および南側溝の下層で検出した溝跡である。

調査区の西半部でのみ、約 5ｍを検出した。上端幅約 2.4ｍ、底面幅約 1.3ｍ、深さ約 40㎝ である。壁は緩やかに立ち上がり、底面には凸凹がある。方向は東で約 8 度南に偏している。堆積土は灰～暗灰黄色砂と灰色粘質土が互層をなして堆積している。

遺物は溝の底面付近から土師器坏・椀・ミニチュア土器、須恵器坏・高台盤・壷・甕がほぼ完形の状態で出土している。土師器はすべて非ロクロ調整のものからなり、坏の中には内面にヘラミガキおよび黒色処理を施さないものもみられる。

5. 南1西2区



第115図　南1西2区遺構全体図

北をＳＸ10 東西大路、南をＳＸ1300 南 1 道路、東をＳＸ1250 西 1 道路、西をＳＸ30 西 2 道路に面した区画で、南東に偏した平行四辺形を呈する。規模は東西約 118m、南北約 139m程と推定される。区画のほぼ中央部を鈎手状に流れる遣水状の溝跡（ＳＤ1020）とこれに沿って建ち並ぶ掘立柱建物跡群の存在が明らかになるとともに、これ以外に区画全体を細分するような施設が認められないことから、本区画は道路で地割された区画全体が一つの敷地とみられる。

今回の調査は区画の北西隅から南東隅にかけて行ったもので、区画内からは掘立柱建物跡、井戸跡、土器埋設遺構、竪穴遺構、土壙、材木塀跡・柱列、溝跡、小溝状遺構群、河川跡などを多数検出した。これらの遺構は調査区のほぼ全域に分布しており、相互にかなりの重複が認められた。このうち掘立柱建物跡は、柱筋の方向は多少のばらつきがあるものの、いずれも道路やＳＤ1020 の方向とほぼ一致し、これらに沿って配置されている。建物の構成については、区画の北西部では 3×2 間程の小規模な建物跡や総柱建物跡が相互に重複して多数存在しているのに対して、中央部から南東部にかけては全体的に建物の密度が低いものの、廂付建物跡をはじめ平面規模の大きい建物跡が多い傾向にある。また、北西および南西部に限って井戸跡や小溝状遺構がみられることなど、同じ区画内においても場所によって建物の規模や土地利用のあり方に違いが認められる。なお、本区画内で検出された遺構の多くはＳＤ1111 河川跡埋め立て（ＳＸ2121 整地層）後に構築されたもので、それ以前についてはおもに畑地として利用されていたようである。

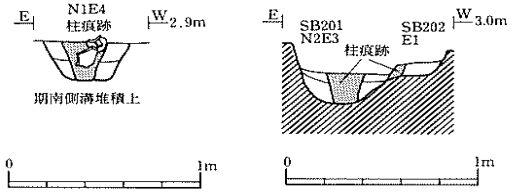
遺物は土師器、須恵器、赤焼土器を中心に数多く出土している。とくに、ＳＤ1020 やその周辺からは輸入陶磁器や多量の緑釉・灰釉陶器、墨書土器などが出土するとともに、漆紙文書（『孝経』）や多量の漆付着土器などもみられる。

(1)掘立柱建物跡

63 棟検出した。このうち規模や構造が明らかなものは 50 棟で、廂付建物跡 2 棟、総柱建物跡 12 棟、桁行 3 間・梁行 2 間程の小規模な掘立柱建物跡 29 棟（東西棟 5、南北棟24）などがある。建物の方向はいずれも北で東に偏している。北西～中央部では10 度以上触れるものが多く、南東部では 3～7 度程の触れのものが多い傾向にある。

【ＳＢ202 掘立柱建物跡】（第116･161 図）

調査区北西隅に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴はＳＸ10･30 道路のＣ側溝を覆う整地層（ＳＸ999）上面および地山面で 8 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ201 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。



第116図　SB201・202柱穴断面図

平面規模は桁行が南側柱列で総長 5.55m、柱間寸法は西より 1.89m・1.82m・1.85m で、梁行は西妻で総長約 4.2m、柱間寸法は北より約 2.0m･2.17m である。方向は南側柱列でみると、東で 8 度南へ偏している。柱穴は一辺が 30～55cm の隅丸方形で、深さは 16～33cm 残存している。柱痕跡は径 12～17cm の円形で、1 ヶ所で柱の抜き取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ201 掘立柱建物跡】（第161図）

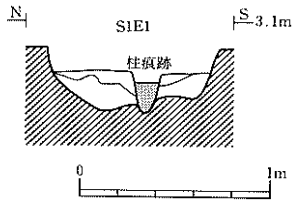
調査区北西隅に位置する東西２間、南北２間の総柱建物跡である。柱穴はＳＸ999整地層上面および地山面で８ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ197・202 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ202 より新しいが、ＳＢ197 との新旧関係は不明である。

平面規模は西側柱列で総長 4.21m、柱間寸法は北より 2.10m・2.13m、南側柱列で総長 4.02m、柱間寸法は西より 1.89m・2.13mである。方向は西側柱列でみると、北で約７度東へ偏している。柱穴は一辺が 45～70cm の隅丸方形で、深さは 22～54cm 残存している。柱痕跡は径 10～17cm の円形である。

遺物は柱穴埋土から須恵器坏が少量出土している。

【ＳＢ197 掘立柱建物跡】（第117･161図）

調査区北西隅に位置する東西３間、南北２間の東西棟である。柱穴はＳＸ999 整地層上面および地山面で 10 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ198･201 掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



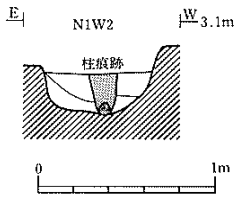
第117図　SB197柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長 4.18m、柱間寸法は西より 1.41m・1.31m・1.47mであり、梁行は西妻で総長 3.42m、柱間寸法は北より 1.80m・1.62mである。方向は北側柱列でみると、東で７度南へ偏している。柱穴は長軸が 45～85cm、短軸が 40～50cm の隅丸方形や楕円形で、深さは８～40cm 残存している。柱痕跡は径 12～15cm の円形である。

遺物は柱穴埋土から調整不明の土師器甕と須恵器坏が少量出土している。

【ＳＢ198 掘立柱建物跡】（第118･161図）

調査区北西隅に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で８ヶ所検出し、この中の７ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ197･215 掘立柱建物跡、ＳＫ78・79 土壙、ＳＤ131 溝跡と重複し、ＳＫ78・79、ＳＤ131 より古いが、ＳＢ197・215 との新旧関係は不明である。



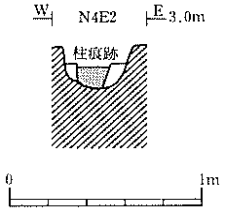
第118図　SB198柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.71m、柱間寸法は北より 1.67m・1.60m・1.45mであり、梁行は南妻で総長 3.67m、柱間寸法は 1.88mである。方向は西側柱列でみると、北で約 14 度東へ偏している。柱穴は一辺が 35～74cm の方形で、深さは 36～41cm 残存しており、５ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 14～20cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器甕が出土している。

【ＳＢ209 掘立柱建物跡】（第119･161図）

調査区北西隅に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴はＳＸ999 整地層上面および地山面で７ヶ所検出し、この中の３ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ136 掘立柱建物跡、ＳＡ200 塀跡と重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。



第119図　SB209柱穴断面図

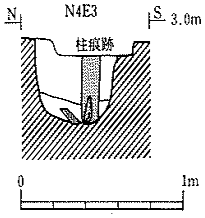
平面規模は桁行が東側柱列で総長 4.75m、柱間寸法は等間と考えると約

1.6m、梁行は北妻で総長約3.4m、柱間寸法は等間とすると約1.7mである。方向は東側柱列でみると北で約4度東へ偏している。柱穴は一辺が23～53cmの方形で、深さは11～30cm残存している。柱痕跡は径10～15cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器の坏が少量出土している。

【ＳＢ136掘立柱建物跡】（第120･161図）

調査区北西隅に位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で10ヶ所検出し、この中の7ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ209掘立柱建物跡、ＳＫ83土壙、ＳＤ140溝跡と重複し、ＳＤ140より新しく、ＳＫ83より古いが、ＳＢ209との新旧関係は不明である。



第120図　SB136柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長4.72m、柱間寸法は北より1.50m･1.68m･1.55m、梁行は南妻で総長3.02m、柱間寸法は等間と考えれば約1.5mである。方向は西側柱列でみると、北で約10度東へ偏している。柱穴は一辺が45～55cmの隅丸方形で、深さは29～44cm残存している。柱痕跡は径12～17cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ215掘立柱建物跡】（第161図）

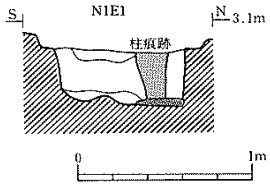
調査区北西部に位置する南北2間、東西2間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、この中の4ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ14･198掘立柱建物跡、ＳＡ19材木塀跡、ＳＤ131溝跡と重複し、ＳＢ14、ＳＡ19より新しく、ＳＤ131より古いが、ＳＢ198との新旧関係は不明である。

平面規模は西側柱列で総長4.96m、柱間寸法は北から2.36m・2.60m、北側柱列で総長約4.7m、柱間寸法は等間とすると約2.4mである。方向は西側柱列でみると、北で約8度東へ偏している。柱穴は一辺が30～45cm隅丸方形で、深さは37～80cm残存している。柱痕跡は径12～18cmの円形で、1ヶ所で柱材が遺存している。また1ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ14掘立柱建物跡】（第121･161図）

調査区北西隅に位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で10ヶ所検出し、この中の9ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ215掘立柱建物跡、ＳＡ19塀跡、ＳＫ77･80土壙と重複し、ＳＡ19より新しく、ＳＢ215、ＳＫ77・80より古い。



第121図　SB14柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長4.67m、柱間寸法は北より1.67m･1.45m･1.55mであり、梁行は南妻で総長3.96m、柱間寸法は西より2.00m･1.96mである。方向は西側柱列でみると、北で約13度東へ偏している。柱穴は一辺62～94cmの方形で、深さは41～94cm残存しており、9ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径13～20cmの円形である。

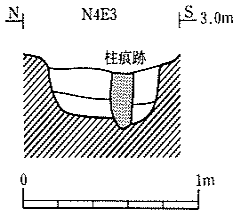
遺物は柱穴埋土から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ111掘立柱建物跡】（第122･161図）

調査区北西部に位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121整地層上面および地山

面で6ヶ所検出し、この中の4ヶ所で柱痕跡を確認している。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.39m、柱間寸法は北より 1.35m・1.41m・1.64m、梁行は北妻で総長約4.0m、柱間寸法は推定2.0mである。方向は西側柱列でみると、北で約19度東へ偏している。柱穴は一辺が60～80cmの隅丸方形や、60×100cmの隅丸長方形で、深さは18～35cm残存している。柱痕跡は径12～16cmの円形である。



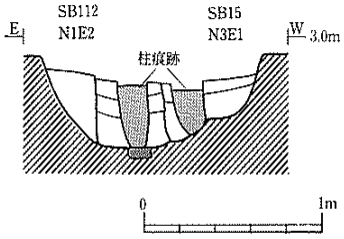
第122図　SB111柱穴断面図

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ15掘立柱建物跡】（第123･161図）

調査区北西隅に位置する東西2間、南北2間の建物跡である。柱穴はＳＸ2121整地層上面および地山面で8ヶ所検出し、この中の7ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ112掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。

平面規模は北側柱列で総長 4.29m、柱間寸法は西より 2.17m・2.12m、西側柱列で総長 3.62m、柱間寸法は 1.97m・1.66mである。方向は北側柱列でみると、東で14 度南へ偏している。柱穴は方形で一辺が32～62cm、深さは24～44cm、柱痕跡は径12～18cmの円形である。



第123図　SB15柱穴断面図

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ112掘立柱建物跡】（第161図）

調査区北西部に位置する東西2間、南北2間の東西棟総柱建物跡で、ＳＸ2121整地層上面で検出した。一度建て替えられている（ＳＢ112A→B）。ＳＢ15掘立柱建物跡、ＳＤ49・88・123溝跡と重複し、ＳＤ49・88・123よりも新しく、ＳＢ15より古い。

ＳＢ112Aは8ヶ所で柱穴を検出した。後続するＳＢ112Bと同位置で重複し、規模も同様である。

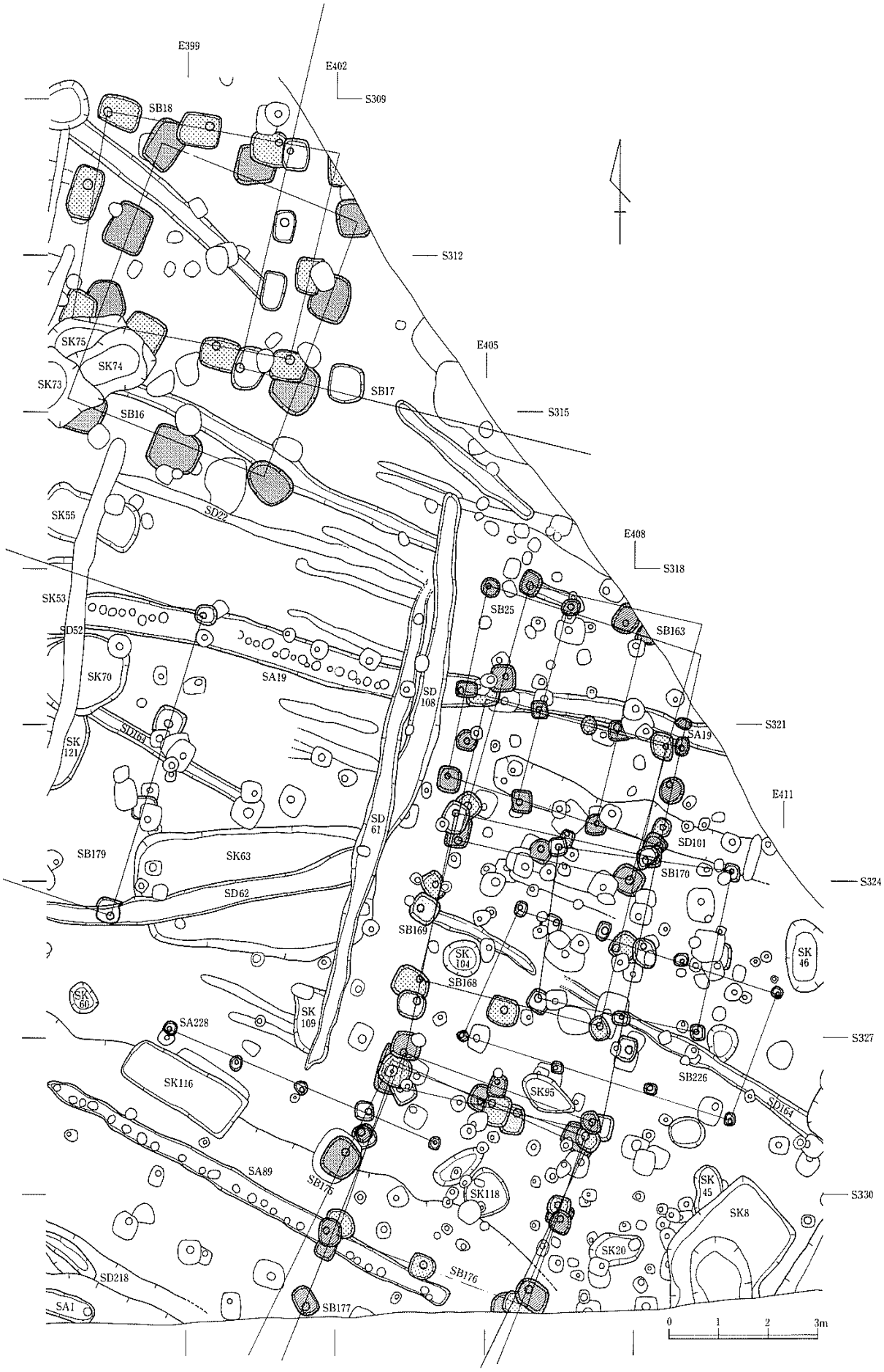
ＳＢ112Bは9ヶ所で柱穴を検出し、すべて柱痕跡を確認している。平面規模は南側柱列で総長3.81m、柱間寸法は西より 1.88m・1.93m、梁行は西妻で総長2.93m、柱間寸法は北より 1.46m・1.47mである。方向は南側柱列でみると、東で11度南へ偏している。柱穴は一辺が 40～70cm の隅丸方形で、深さは22～57cmしており、8ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径10～16cmの円形である。

遺物はＳＢ112Bの柱穴埋土から土師器器台が出土している。

【ＳＢ178掘立柱建物跡】（第161･162図）

調査区北西部に位置する東西3間、南北2間の東西棟である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、この中の1ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ179掘立柱建物跡、ＳＥ50井戸跡、ＳＦ220小溝状遺構群と重複し、ＳＦ220より新しく、ＳＢ179、ＳＥ50より古い。

平面規模は桁行の柱間寸法が約 2.1m、梁行総長は東妻で推定約 3.7m、柱間寸法は約 2.1mである。方向は北側柱列でみると、東で約7度南へ偏している。柱穴は一辺が60～65cmの隅丸方形で、深さは



第124図　南１西２区北西部建物跡平面図

20～46cm 残存している。柱痕跡は径 16cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ91 掘立柱建物跡】（第161図）

調査区北西部に位置する東西 2 間、南北 2 間の東西棟総柱建物跡である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 8 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＡ124 塀跡、ＳＤ88･123 溝跡と重複し、これらより新しい。

平面規模は桁行が北側柱列で総長 3.87ｍ、柱間寸法は西より 1.71ｍ･2.18ｍ、梁行が東妻で総長 3.25ｍ、柱間寸法は 1.41ｍ･1.85ｍである。方向は北側柱列でみると、東で17 度南へ偏している。柱穴は一辺が 40～58cm の隅丸方形で、深さは 30～42cm 残存している。柱痕跡は径 10～20cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ18 掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北西部に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で10 ヶ所検出し、この中の 6 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ16･17 掘立柱建物跡、ＳＫ74･75 土壙、ＳＦ32 小溝状遺構群などと重複し、ＳＢ16、ＳＦ32 より新しく、ＳＢ17、ＳＫ74・75 より古い。

平面規模は桁行が北側柱列で総長 4.7ｍ、柱間寸法は西より 2.06ｍ･1.41ｍ･約 1.2ｍ、梁行は西妻で総長 4.1ｍ、柱間寸法は北より 1.45ｍ･約 2.6ｍである。方向は北側柱列でみると、東で約10 度南へ偏している。柱穴は一辺が 50～100cm の方形で、柱痕跡は径 14～19cm の円形である。

【ＳＢ17 掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北西部に位置する南北 4 間以上、東西 2 間以上の建物跡である。柱穴は地山面で 5 ヶ所検出し、この中の 3 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ16･18 掘立柱建物跡、ＳＤ146 溝跡と重複し、これらより新しい。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.27ｍ以上、柱間寸法は南より 2.93ｍ(2 間分)･1.36ｍ、梁行の柱間寸法は約 2.2ｍである。方向は西側柱列でみると、北で約 13 度東へ偏している。柱穴は一辺が 40～90cm の隅丸方形で、柱痕跡は径 12～15cm の円形である。

【ＳＢ16 掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北西部に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 10 ヶ所検出したが、柱痕跡は確認していない。ＳＢ17・18 掘立柱建物跡、ＳＫ73・75 土壙と重複し、これらより古い。

平面規模は桁行が東側柱列で総長約 5.4ｍ、柱間寸法は等間と考えると約 1.8ｍ、梁行は北妻で総長約 4.0ｍ、柱間寸法は等間とすると約 2.0ｍである。方向は東側柱列でみると、北で約18 度東へ偏している。柱穴は一辺が 74～100cm の方形である。

【ＳＢ179 掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北西部に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 8 ヶ所検出し、この中の 6 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ178 掘立柱建物跡、ＳＡ19 塀跡、ＳＥ50 井戸跡、ＳＫ54・69 土壙、ＳＤ164 溝跡、ＳＦ214･220 小溝状遺構溝と重複し、ＳＢ178、ＳＡ19、ＳＫ54、ＳＤ164、ＳＦ214･220 よりも新しく、ＳＥ50、ＳＫ69 よりも古い。

平面規模は桁行が東側柱列で総長 6.07m、柱間寸法は北より 2.19m・3.88m（2 間分）で、梁行は南妻で総長 4.75m、柱間寸法は西より 2.47m・2.28mである。方向は東側柱列でみると、北で約18度東へ偏している。柱穴は一辺が 40～60cm の隅丸方形で、深さは 32～47cm 残存している。柱痕跡は径 14～16cm の円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＢ163 掘立柱建物跡】（第124･162 図）

調査区北側やや西寄りに位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 8 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ25・168・169・170 掘立柱建物跡、ＳＡ19 塀跡、ＳＦ214 小溝状遺構群と重複し、ＳＢ168、ＳＡ19、ＳＦ214 より新しく、ＳＢ169・170 より古い。ＳＢ25 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.61m、柱間寸法は北より 1.79m・1.48m・1.40mであり、梁行は南妻で総長 3.73m、柱間寸法は 1.85m・1.88mである。方向は西側柱列でみると、北で約19度東へ偏している。柱穴は一辺が 35～65cm の方形で、深さは 21～42cm 残存している。柱痕跡は径 13～16cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ25 掘立柱建物跡】（第124･162 図）

調査区北側やや西寄りに位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟の総柱建物跡である。柱穴は地山面で11 ヶ所検出し、この中の 10 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ163･168･169･170 掘立柱建物跡、ＳＡ19 塀跡、ＳＤ101 溝跡、ＳＦ214 小溝状遺構群と重複し、ＳＢ168、ＳＡ19、ＳＤ101、ＳＦ214 より新しく、ＳＢ169･170 より古い。ＳＢ163 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が南側柱列で総長 4.46m、柱間寸法は西より 1.52m・1.62m・1.32mであり、梁行は西妻で総長 3.73m、柱間寸法は北より 2.05m・1.68mである。方向は南側柱列でみると、東で17 度南へ偏している。柱穴は一辺が 30～48cm の隅丸方形で、深さは 14～31cm 残存している。柱痕跡は径 10～15cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ168 掘立柱建物跡】（第124･162 図）

調査区北側やや西寄りに位置する南北 3 間、東西 2 間の溝北棟である。柱穴は地山面で10 ヶ所検出し、この中の 8 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ25・163・169・170・226 掘立柱建物跡、ＳＡ19 塀跡、ＳＤ101・164 溝跡と重複し、ＳＡ19、ＳＤ101・164 よりも新しく、ＳＢ25・163・169・170・226 より古い。

平面規模は桁行が東側柱列で総長 5.54m、柱間寸法は北より 1.54m・2.49m・1.56m、梁行は南妻で総長 3.71m、柱間寸法は 1.78m・1.93mである。方向は東側柱列でみると、北で約14 度東へ偏している。柱穴は一辺が 35～70cm の隅丸方形で、深さは 23～59cm 残存しており、1 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 10～15cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、赤焼土器が少量出土している。

【ＳＢ169 掘立柱建物跡】（第124･162 図）

調査区北側やや西よりに位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で10ヶ所検出し、この中の９ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ25・163・168・170・175・176・177・226掘立柱建物跡やＳＤ101・164溝跡と重複し、ＳＢ25･163･168･175、ＳＤ101・164より新しく、ＳＢ170・176・177・226より古い。

平面規模は桁行が西側柱列で総長5.39ｍ、柱間寸法は北より1.97ｍ･1.76ｍ･1.71ｍであり、梁行は北妻で総長4.10ｍ、柱間寸法は2.28ｍ･1.83ｍである。方向は西側柱列でみると、北で約12度東へ偏している。柱穴は一辺が30～60㎝の方形で、深さは13～48㎝残存している。柱痕跡は径11～16㎝の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、赤焼土器、瓦などが少量出土している。

【ＳＢ170掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北側やや西寄りに位置する東西２間、南北２間の建物跡である。柱穴は地山面で８ヶ所検出し、この中の７ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ25･163･168･169･226掘立柱建物跡やＳＤ101・164溝跡と重複し、ＳＢ25・163・168・169、ＳＤ101・164より新しく、ＳＢ226より古い。

平面規模は南側柱列で総長3.51ｍ、柱間寸法は西より1.71ｍ･1.54ｍ、西側柱列で総長2.93ｍ、柱間寸法は北より1.44ｍ・1.51ｍである。平面形はやや歪んでおり、方向は北側柱列でみると東で８度、東側柱列でみると約12度南へ偏している。柱穴は一辺が30～45㎝の方形で、深さは30～46㎝残存している。柱痕跡は径10～15㎝の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が出土しており、土師器坏は底部に回転ヘラケズリや手持ちヘラケズリによる再調整を施すものが多い。

【ＳＢ177掘立柱建物跡】（第124･162図）

調査区北側やや西寄りに位置する南北３間以上、東西２間の南北棟である。柱穴は地山やＳＸ2121整地層上面で８ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ169・175・176掘立柱建物跡、ＳＡ89塀跡、ＳＡ228柱列と重複し、ＳＢ169・175・176、ＳＡ89よりも新しく、ＳＡ228より古い。

平面規模は桁行が西側柱列で総長5.23ｍ以上、柱間寸法は北より1.72ｍ･2.02ｍ･1.51ｍ、梁行は北妻で総長4.00ｍ、柱間寸法は1.96ｍ･2.05ｍである。方向は西側柱列でみると、北で約22度東へ偏している。柱穴は一辺が40～65㎝の隅丸方形で、深さは26～59㎝残存しており、2ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径12～15㎝の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整と非ロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土しており、非ロクロ調整の土師器坏は無段丸底のものである。

【ＳＢ175掘立柱建物跡】（第124図）

調査区北側やや西寄りに位置する南北３間以上、東西２間の南北棟と考えられる建物跡である。柱穴は地山やＳＸ2121整地層上面で７ヶ所検出し、この中の２ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ169・175･176･177掘立柱建物跡、ＳＡ89塀跡、ＳＡ228柱列と重複し、ＳＡ89より新しく、ＳＢ169･176･177、ＳＡ228より古い。

平面規模は桁行の柱間寸法が西側柱列で約1.8ｍ、梁行は北妻で総長約4.2ｍ、柱間寸法が西より約

2.0m・2.2mである。方向は柱穴の残りが悪く不正確であるが、北側柱列で推定すると、東で20度前後南へ偏したと考えられる。柱穴は一辺が40～80cmの隅丸方形で、深さは20～53cm残存している。柱痕跡は径14～16cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ176掘立柱建物跡】（第162図）

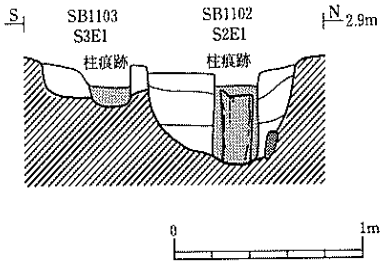
調査区北側やや西寄りに位置する東西2間、南北2間の建物跡である。柱穴は地山面で8ヶ所検出し、この中で4ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ169･175･177掘立柱建物跡、ＳＡ89塀跡、ＳＡ228柱列と重複し、ＳＢ169・175、ＳＡ89よりも新しく、ＳＢ177、ＳＡ228より古い。

平面規模は北側柱列で総長約4.1m、柱間寸法は西より約2.1m・1.98m、東側柱列で総長約3.4m、柱間寸法は北より約1.43m・約2.0mである。方向は北側柱列でみると、東で18度南へ偏している。柱穴は隅丸方形で一辺が40～60cm、深さは32～53cm、そのうち2個の底面に礎板が据えられていた。柱痕跡は径12～15cmの円形で、2ヶ所で柱材が遺存している。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ1102掘立柱建物跡】（第125･163図）

調査区北西の中央寄りに位置する東西3間、南北2間以上の建物跡である。柱穴はＳＸ2121整地層上面で7ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1103 掘立柱建物跡、ＳＤ2036溝跡などと重複し、これらより新しい。



第125図　SB1102柱穴断面図

平面規模は桁行が南側柱列で総長6.10m、柱間寸法は西より3.99m（2間分）･2.12m、梁行は東妻で総長5.20m、柱間寸法は2.59mである。方向は南側柱列でみると、東で約19度南へ偏している。柱穴は一辺が55～100cmの方形で、深さは43～72cm残存しており、1ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径23cm前後の円形で、1ヶ所で柱材が遺存している。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、緑釉陶器、瓦が出土している。須恵器坏の底部調整はヘラ切りや回転糸切り無調整が主体である。

【ＳＢ1103掘立柱建物跡】（第163図）

調査区北西の中央寄りに位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121整地層上面で7ヶ所検出し、この中の5ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1102掘立柱建物跡、ＳＤ2036溝跡などと重複し、ＳＤ2036よりも新しく、ＳＢ1102よりも古い。

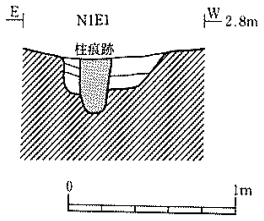
平面規模は桁行が東側柱列で総長5.89m、柱間寸法は北より約2.0m･3.89m（2間分）、梁行は南妻で総長3.46m、柱間寸法は西より1.65m･1.79mである。方向は南側柱列でみると、東で約18度南へ偏している。柱穴は一辺が56～130cmの隅丸方形で、深さは20～40cm残存している。柱痕跡は径22cm前後の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、緑釉・灰釉陶器、平瓦などが出土しており、中でも須恵器が多い。小破片がほとんどであるが、坏類の底部調整をみると、土師器は手持ちヘラケズ

リ調整や回転糸切り無調整が多く、回転ヘラケズリも少量含む。須恵器はヘラ切り無調整が多い。

【ＳＢ2035 掘立柱建物跡】（第126･131･163 図）

調査区北西の中央寄りに位置する南北３間、東西３間の建物跡で、一度建て替えられている。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で検出した。ＳＫ2009･2020 土壙、ＳＤ1124･2036 溝跡などと重複し、ＳＤ1124･2036 より新しく、ＳＫ2009 より古い。



第126図　SB2035柱穴断面図

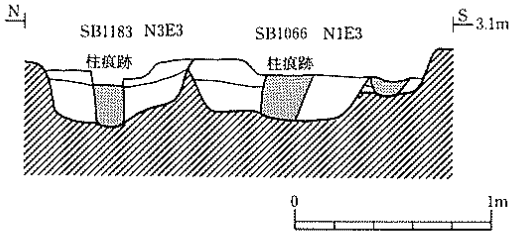
ＳＢ2035Ａは６ヶ所で柱穴を検出し、この中の１ヶ所で柱痕跡を確認している。後続するＳＢ2035Ｂと同位置で重複し規模も同様である。柱穴は一辺40×70cm の隅丸長方形や一辺約 40cm の方形で、深さは 25～55cm 程残存している。

ＳＢ2035Ｂは 11 ヶ所検出し、この中の 10 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は東側柱列で総長 5.85m、柱間寸法は北より 2.18m・1.68m・1.99m・2.40m、北側柱列は総長 5.54m、柱間寸法は西より 1.93m･1.74m･1.85m である。方向は東側柱列でみると、北で約 16 度東へ偏している。柱穴は長軸 50～85cm、短軸 40～46cm の隅丸長方形や一辺 40cm 前後の方形で深さは 25～55cm である。柱痕跡は径 10～20cm の円形で、６ヶ所で柱の抜き取りや切り取りがみられる。なお、本建物跡は、南に平行して検出された柱列と一連で、南北４間、東西３間の南廂付の南北棟建物跡になる可能性も考えられる。

遺物は柱穴埋土や抜取り穴堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが少量出土しており、とくに抜取り穴からは黄釉の水注とみられる破片も出土している。

【ＳＢ1183 掘立柱建物跡】（第127･131･163 図）

調査区ほぼ中央に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 10 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1066・1075 掘立柱建物跡、ＳＢ1020Ｂ・2036 溝跡と重複し、これらより新しい。



第127図　SB1183柱穴断面図

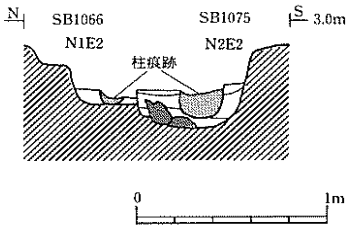
平面規模は桁行が西側柱列で総長 6.78m、柱間寸法は北より 2.18m･2.29m･2.30m であり、梁行は北妻で総長 4.81m、柱間寸法は西より 2.44m･2.37m である。方向は西側柱列でみると、北で約 13 度東へ偏している。柱穴は一辺が 55～96cm の方形で、深さは 36～56cm 残存している。柱痕跡は径 15～21cm の円形で、1 ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、赤焼土器、緑釉・灰釉陶器、製塩土器、瓦、漆器（皿）などが出土している。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整が多く、須恵器はヘラ切りや回転糸切り無調整が主体で前者がとくに多い。赤焼土器坏は相対的に極少量である。

【ＳＢ1075 掘立柱建物跡】（第128･131･163 図）

調査区ほぼ中央に位置する東西２間、南北２間の総柱建物跡である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で９ヶ所検出し、この中の５ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1066・1183 掘立柱建物跡やＳＫ1441 土壙、ＳＤ2036 溝跡と重複し、ＳＢ1066、ＳＤ2036 より新しく、ＳＢ1183 やＳＫ1441 より古い。

平面規模は北側柱列で総長約 3.3m、柱間寸法は等間とすると約1.7m、東側柱列で総長 3.60m、柱間寸法は北より 1.68m・1.91mである。方向は東側柱列でみると、北で 14 度東へ偏している。柱穴は一辺が 44～77cm の方形で、深さは 32～47cm 残存しており、この中の 1 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 23cm 前後の円形で、1 ヶ所で柱材が遺存している。1 ヶ所で柱の抜き取りがみられる。



第128図　SB1075柱穴断面図

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、赤焼土器、灰釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ1066 掘立柱建物跡】（第131・163 図）

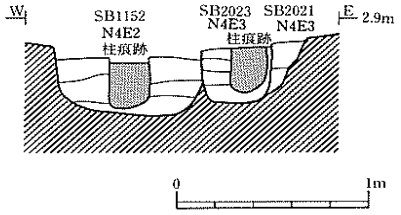
調査区ほぼ中央に位置する東西 2 間、南北 2 間の総柱建物跡である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 8 ヶ所検出し、この中の 4 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1075・1183 掘立柱建物跡と重複し、これらより古い。

平面規模は東側柱列で総長 3.94m、柱間寸法は等間とすると 1.97m、南側柱列で総長 3.21m、柱間寸法は等間とすると 1.61mである。方向は東側柱列でみると、北で約18 度東へ偏している。柱穴は一辺が 45～96cm の方形で、深さは 34～48cm 残存しており、2 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 14～25cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、緑釉陶器などが出土しており、土師器坏は回転ヘラケズリや手持ちヘラケズリによる再調整を施すものが多い。

【ＳＢ2023 掘立柱建物跡】（第129・131・163 図）

調査区ほぼ中央に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 7 ヶ所検出し、この中の 6 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1151・1152・2021・2022 掘立柱建物跡、ＳＫ1094・1170 土壙と重複し、ＳＢ1152・2021、ＳＫ1094 より新しく、ＳＫ1170 より古い。ＳＢ1151・2022 との新旧関係は不明である。



第129図　SB2023柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長約 6.4m、 柱間寸法は北より 1.98m・2.44m・約 2.0m、梁行は北妻で総長 4.15m、柱間寸法は西より 1.94m・2.21mである。方向は東側柱列でみると、北で約 6 度東へ偏している。柱穴は一辺が 35～62cm の隅丸方形で、深さは 18～34cm 残存している。柱痕跡は径 16～18cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ1152 掘立柱建物跡】（第131・163 図）

調査区ほぼ中央に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 9 ヶ所検出し、この中の 8 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1151・1155・2021・2022・2023 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ2021 よりも新しく、ＳＢ1151・2023 より古い。ＳＢ1155・2022 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が東側柱列で総長 6.04m、柱間寸法は北より 2.11m・2.04m・1.90m、梁行は北妻で

総長 5.10m、柱間寸法は等間とすると約 1.9mである。方向は東側柱列でみると、北で約 12 度東へ偏している。柱穴は一辺が 68～89cm の方形で、深さは 37～48cm 残存しており、1 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 16～21mの円形で、柱の抜き取りが 1 ヶ所でみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ2021 掘立柱建物跡】（第131･163 図）

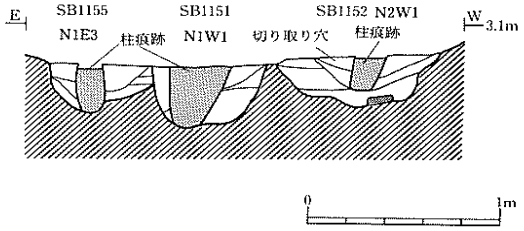
調査区ほぼ中央に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で 10 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1151・1152・1155・2022・2023 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ1151・1152・2023 より古い。ＳＢ1155・2022 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が北側柱列で総長 5.23m、柱間寸法は西より 1.90m･3.33m（2 間分）。梁行は西妻で総長 3.83m、柱間寸法は北より 1.86m･2.00mである。方向は北側柱列でみると、東で約 16 度南へ偏している。柱穴は一辺が 42～68cm の隅丸方形で、深さは 28～36cm 残存している。柱痕跡は径 12～19cm の円形で、1 ヶ所で柱の抜取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

【ＳＢ1155 掘立柱建物跡】（第130･131･163 図）

調査区ほぼ中央に位置する東西 3 間以上、南北 2 間以上の建物跡である。柱穴は地山面で 5 ヶ所検出し、この中の 4 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1151・1152・2012・2021 掘立柱建物跡、ＳＫ1153 土壙と重複し、ＳＫ1153 より新しく、ＳＢ1151・2012 より古い。ＳＢ1151・2012 との新旧関係は不明である。



第130図　SB1155柱穴断面図

柱間寸法は北側柱列で 1.79m～1.88m、東側柱列で 2.48mである。方向は北側柱列でみると、東で約 16 度南へ偏している。柱穴は一辺が 43～73cm の隅丸方形で、深さは 33cm 前後残存している。柱痕跡は径 11～15cm の円形である。

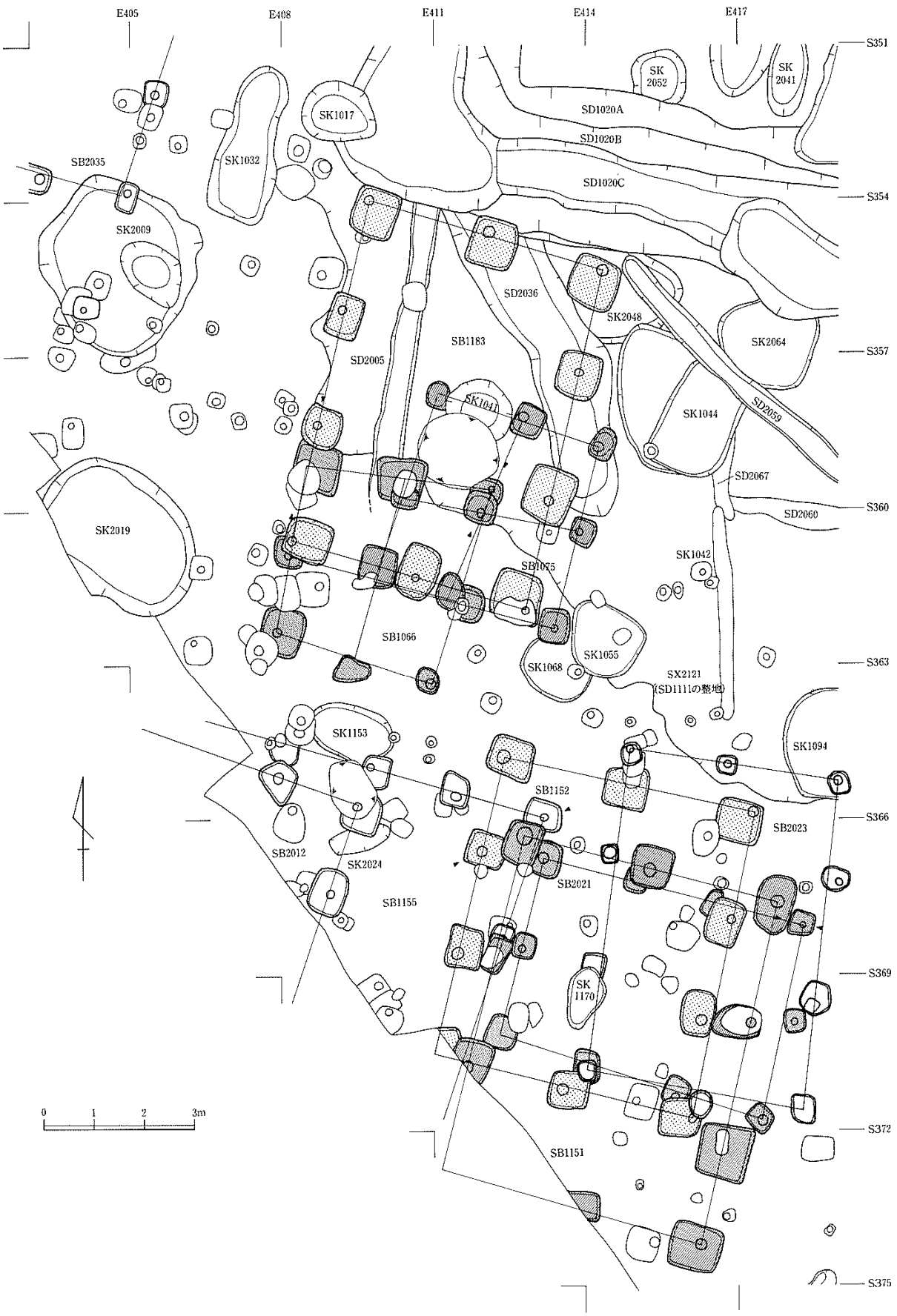
遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ1151 掘立柱建物跡】（第131･163 図）

調査区ほぼ中央に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 9 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1152・1155・2021・2022・2023 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ1152・1155・2021 よりも新しい。ＳＢ2022・2023 との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が東側柱列で総長 6.78m、柱間寸法は北より 2.38m･2.23m･2.16m、梁行は北妻で総長 5.18m、柱間寸法は西より 2.57m･2.60mである。方向は東側柱列でみると、北で約 13 度東へ偏している。柱穴は一辺が65～108cm方形で、深さは26～50cm残存している。柱痕跡は径13～21cmの円形で、1 ヶ所で柱材が遺存している。2 ヶ所で柱の抜き取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器が出土しており、須恵器坏の底部調整はヘラ切りや回転糸切り無調整が主体である。



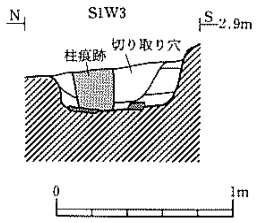
第131図　南１西２区中央部建物跡平面図(1)

【ＳＢ2022 掘立柱建物跡】（第163図）

調査区ほぼ中央に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で 10 ヶ所検出し、この中の 6 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1151･1152･2021･2023 掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が東側柱列で総長 6.31ｍ、柱間寸法は北より 2.07ｍ･4.25ｍ（2 間分）。梁行は南妻で総長 3.85ｍ、柱間寸法は西より 1.82ｍ･2.06ｍである。方向は東側柱列でみると、北で約 10 度東へ偏している。柱穴は一辺が 15～33cm の隅丸方形で、柱痕跡は径 10～14cm の円形である。

【ＳＢ2010 掘立柱建物跡】（第132･164図）



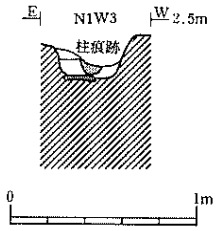
第132図　SB2010柱穴断面図

調査区中央北寄りに位置する南北２間、東西２間の総柱建物跡である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で８ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＫ1024 土壙と重複し、これより古い。

平面規模は東側柱列で総長 3.87ｍ、柱間寸法は北より 2.00ｍ･1.88ｍ、南側柱列で総長 3.23ｍ、柱間寸法は西より 1.48ｍ･1.75ｍである。方向は東側柱列でみると、北で約 13 度東へ偏している。柱穴は一辺が 57～83cm の方形で、深さは 24～38cm 残存しており、4 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 17～25cm の円形で、6 ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は出土していない。

【ＳＢ2069 掘立柱建物跡】（第133･164図）



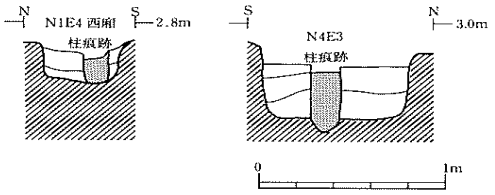
第133図　SB2069柱穴断面図

調査区ほぼ中央に位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面で８ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＫ2051 土壙（ＳＤ1020Ａ）と重複し、これより新しい。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 6.23ｍ、柱間寸法は北より 2.12ｍ･4.11ｍ（2 間分）。梁行は南妻で総長 3.53ｍ、柱間寸法は西より 1.92ｍ・1.61ｍである。方向は西側柱列でみると、北で約７度東へ偏している。柱穴は一辺が 29～62cm の隅丸方形で、深さは約 30cm 残存しており、4 ヶ所の柱穴に礎板が据えられていた。柱痕跡は径 12～18cm の円形である。柱穴埋土には灰白色火山灰粒が混入する。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、平瓦が少量出土している。

【ＳＢ1176 掘立柱建物跡】（第134･164図）



第134図　SB1176柱穴断面図

調査区中央に位置する南北３間、東西３間の西廂付の南北棟である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 10 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＦ2113･2114 小溝状遺構と重複し、これらより新しい。

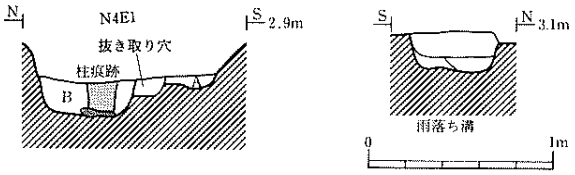
平面規模は桁行が西入側柱列で総長 6.03ｍ、柱間寸法は北より 2.13ｍ･1.63ｍ･2.27ｍ、梁行は北妻で総長 4.89ｍ、柱間寸法は西より 2.51ｍ･2.36ｍ、廂の出は 2.12ｍである。方向は西入側柱列でみる

と、北で約8度東へ偏している。柱穴は身舎が一辺55～87cmの方形で、深さは36～71cm、廂が一辺45～51cmの隅丸方形で、深さは26～40cm残存している。柱痕跡は身舎が径約11～20cm、廂が径約14cmの円形である。1ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、赤焼土器、灰釉陶器、下駄、砥石などが出土している。土器の中で赤焼土器は極少量である。坏類の底部調整は土師器は手持ちヘラケズリ調整、回転糸切り無調整が多く、須恵器はヘラ切りや回転糸切り無調整が主体で前者が特に多い。

【ＳＢ1091掘立柱建物跡】（第135･138･165図）

調査区ほぼ中央に位置する南北3間、東西2間の南北棟で、一度建て替えられている（ＳＢ1091Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、ＳＢ1086掘立柱建物跡と重複し、これより古い。



第135図　SB1091柱穴断面図

ＳＢ1091Ａは柱穴を8ヶ所検出し、この中の1ヶ所で柱痕跡を確認している。柱穴規模は一辺50～100cmの方形で、深さは25cm前後残存している。柱痕跡は16cmの円形で、3カ所で柱の抜取りがみられた。その他の詳細についてはＢに壊されているため不明である。

ＳＢ1091Ｂはすべての柱穴を検出し、この中の9ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が東側柱列で総長5.66m、柱間寸法は北より2.06m・1.89m・1.84m、梁行は前妻で総長4.84m、柱間寸法は西より2.51m・2.34mである。方向は東側柱列でみると、北で約17度東へ偏している。柱穴は一辺50～70cmの隅丸方形や長軸約120cm、短軸約70cmの隅丸長方形で深さは40cm前後残存している。2ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径約18cmの円形である。

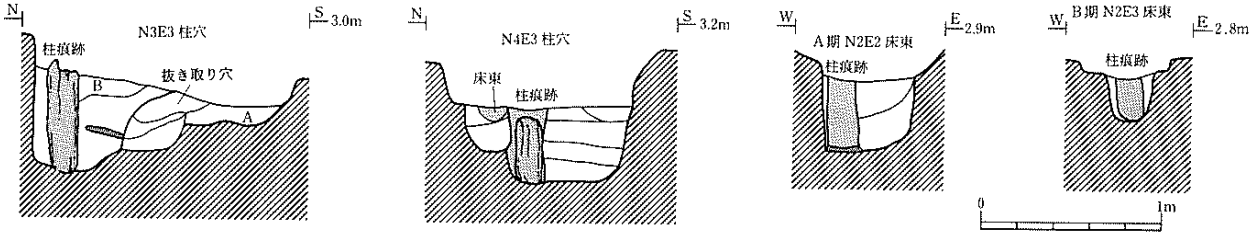
遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

なお、ＳＢ1091Ｂの南･北･東側柱列の外側に雨落ち溝と考えられる溝跡（ＳＤ2093）を検出している。各柱筋と平行し、建物との距離は80～100cmである。上端幅35～50cm、下端幅10～40cmで、断面形は「Ｕ」字状を呈する。深さは22cm残存し、堆積土の上部は人為的に埋め戻されている。遺物は堆積土中から灰釉陶器の破片が出土している。また残存状況は良くないが、北妻から東側柱列にかけて、これより古い同様の溝跡を確認している。やや方向を異にしているが、ＳＢ1091Ａに伴う雨落ち溝の可能性が考えれる。

【ＳＢ1086掘立柱建物跡】（第136･138･165図）

調査区ほぼ中央に位置する南北3間、東西2間の床束をもつ南北棟である。同位置で一度建て替えられており（ＳＢ1086Ａ→Ｂ）、床束の配置に違いがみられる。地山面で検出し、ＳＢ1191掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。

ＳＢ1086Ａは側柱穴を6ヶ所、床束を2ヶ所で検出した。側柱穴は一辺90～100cmの方形で、深さは約50cm残存しており、2カ所で柱の抜取りがみられた。床束は棟通り下に2個の柱穴を配したもので、2ヶ所で柱痕跡を確認している。床束の柱間寸法は北から約2m・1.65m・約2mと推定される。柱穴は一辺40～50cmの方形で、深さは40～55cm、柱痕跡は径約16cmの円形である。



第136図　SB1086柱穴断面図

ＳＢ1086Ｂはすべての側柱穴と 14 ヶ所の床束を検出し、側柱穴と 11 ヶ所の床束で柱痕跡を確認している。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 5.79m、柱間寸法は 1.94m等間で、梁行は南妻で総長 4.78m、柱間寸法は西より 2.34m・2.44mである。方向は西側柱列でみると、北で約 13 度東へ偏している。側柱穴は一辺が 50～110cm の方形で深さは約 75cm 残存する。そのうち 6 個の底面に礎板が携えられていた。柱痕跡は径 18cm 前後の円形で、4 ヶ所で柱材が遺存している。床束は南・北妻の 20～25cm 内側に各 4 個を柱筋を揃えて東西に配し、さらに棟方向に各 2 個の床束を 4 列並べて、本来は計 16 個の床束によって構成されていたものと考えられる。柱間寸法は南北が西から 2 番目の柱列で北より 1.25m・2.94m・1.04m、東西は南妻内側で西より 1.38m・1.70m・1.58mである。柱穴は一辺(径)が 30～45cm の隅丸方形や円形で深さは 35～60cm 残存しており、1 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は 10～15cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ3135 掘立柱建物跡】(第165図)

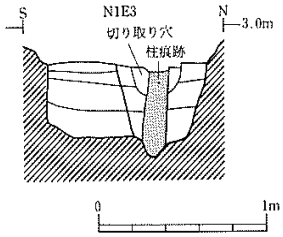
調査区南側のやや中央寄りに位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 7 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。

平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.43m、柱間寸法は北より 1.35m・1.35m・1.73m、梁行は南妻で総長推定約 3.0m、柱間寸法は 1.43mである。方向は西側柱列でみると、北で約 4 度東へ偏している。柱穴は一辺が 22～39cm の方形で、深さは 30～41cm 残存している。柱痕跡は径 10～15cm の円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器が数片出土しているのみである。

【ＳＢ3126 掘立柱建物跡】(第137・165図)

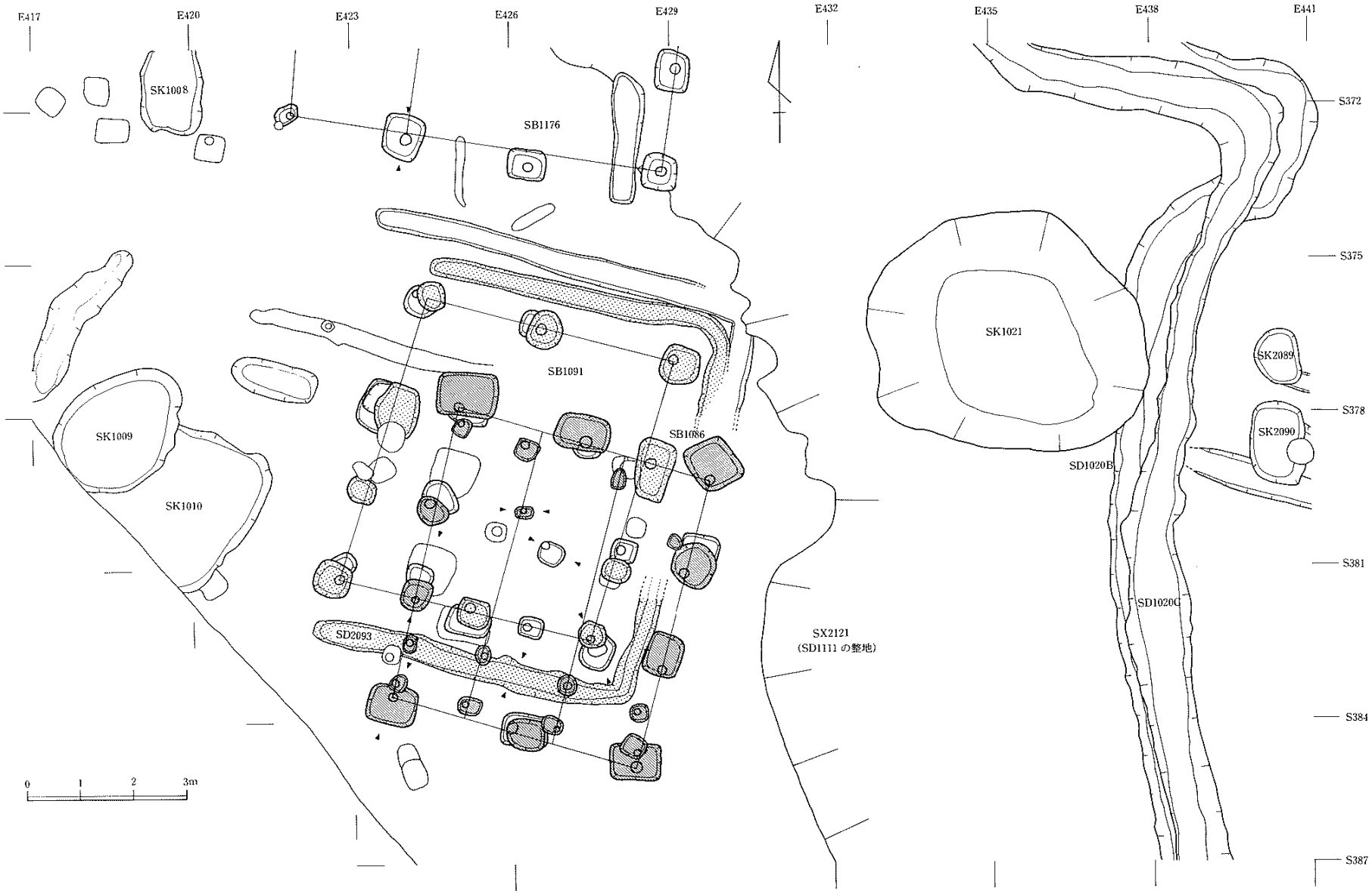
調査区南側のやや中央寄りに位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟で、一度建て替えられている(ＳＢ3126Ａ→Ｂ)。柱穴は地山面で検出し、重複する小溝より新しい。



第137図　SB3126柱穴断面図

ＳＢ3126Ａは柱穴を 3 ヶ所検出し、柱穴は 49～100cm の方形で、深さは 36～69cm 残存している。その他の詳細についてはＳＢ3126Ｂに壊されているため不明である。

ＳＢ3126Ｂは柱穴を 8 ヶ所検出し、この中の 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が西側



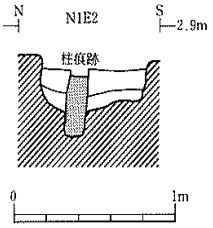
第138図　南１西２区中央部建物跡平面図(2)

柱列で総長 7.08m、柱間寸法は北より 2.55m・2.71m・1.80m、梁行が南妻で総長 4.48m、柱間寸法は等間とすると推定約 2.2mである。方向は西側柱列でみると、北で約 5 度東へ偏している。柱穴は一辺が 34～88cm の隅丸方形で、深さは 40～67cm 残存しており、2 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 12～20cm の円形で、2 ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器が少量出土している。

【ＳＢ3128 掘立柱建物跡】（第 139・165・168 図）

調査区南東に位置する南北 2 間、東西 1 間の南北棟である。柱穴は地山面で 5 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＤ3044 溝跡、ＳＦ2260 小溝状遺構群と重複し、これより新しい。



第139図　SB3128柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長 2.76m、柱間寸法は北より 1.31m・1.43m、梁行は南妻で 2.28mである。方向は東側柱列でみると、北で約 6 度東へ偏している。柱穴は一辺が 46～62cm の方形で、深さは 39～46cm である。柱痕跡は径 14～17cm の円形で、1 ヶ所に柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ1552 掘立柱建物跡】（第141・166 図）

調査区南東に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟で、ほぼ同位置で 1 度建て替えられている（ＳＢ1552Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出した。ＳＤ1020・1214 溝跡、ＳＫ1210 土壙と重複し、ＳＤ1214 より新しく、ＳＤ1020Ｂ、ＳＫ1210 より古い。

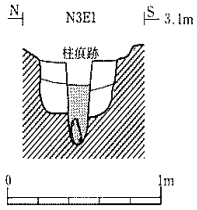
ＳＢ1552Ａは柱穴を 6 ヶ所検出し、この中の 1 ヶ所で柱痕跡を確認している。柱穴は一辺 45～68cm の方形で、深さは 3～15cm 残存している。柱痕跡は径約 13cm の円形で、7 ヶ所で柱材が遺存している。柱間寸法などはＢに壊されているため詳細は不明である。

ＳＢ1552Ｂは柱穴を 9 ヶ所検出し、この中の 8 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が南側柱列で総長 5.92m、柱間寸法は西より 1.99m・1.95m・2.00m、梁行が西妻で総長 4.07m、柱間寸法は北より 1.98m・2.09mである。方向は南側柱列でみると、東で約 5 度南へ偏している。柱穴は一辺が 31～51cm の隅丸方形で、深さは 36～49cm 残存しており、2 ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径 10～15cm の円形である。

遺物はＳＢ1552Ｂの柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

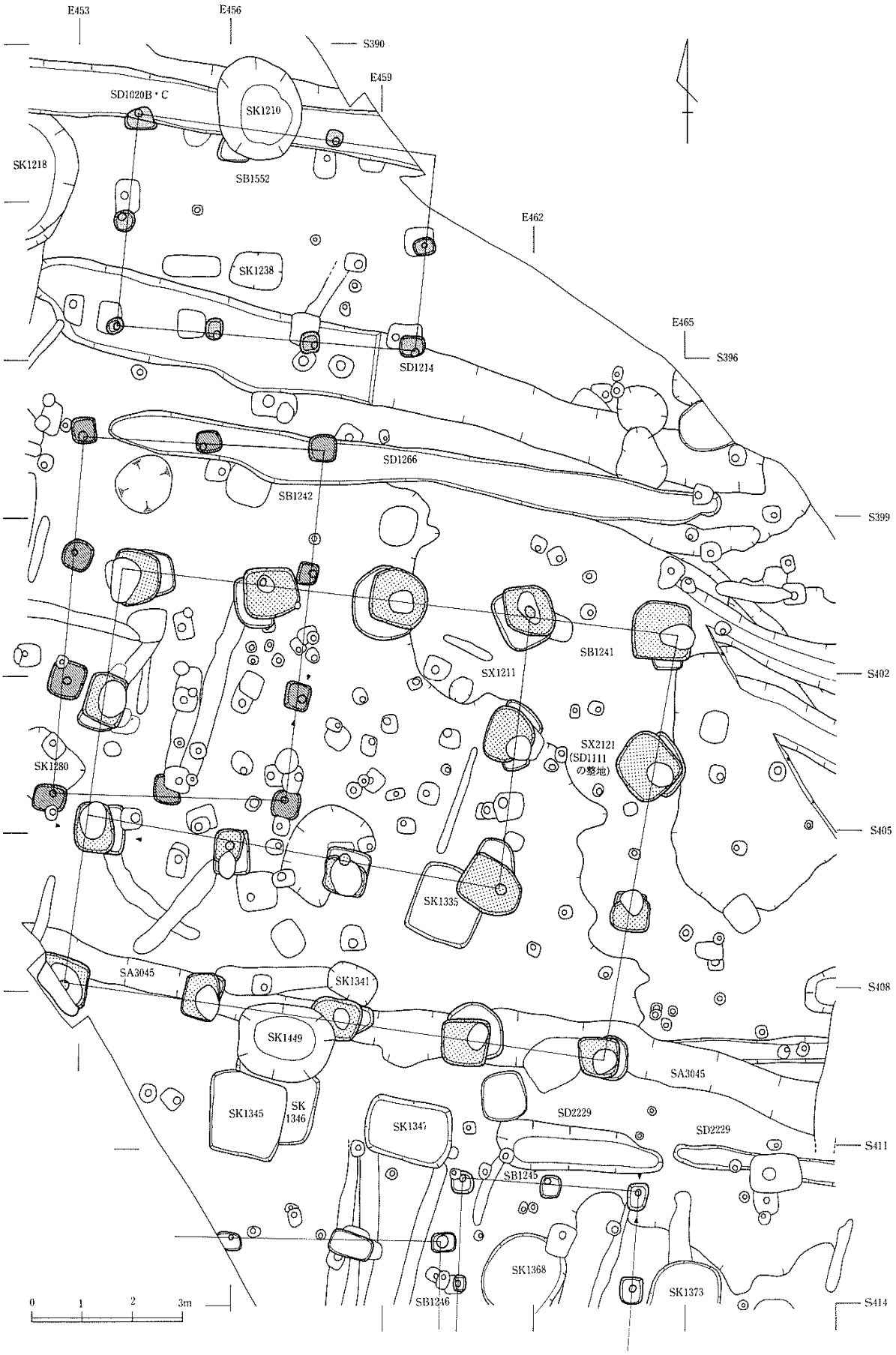
【ＳＢ1242 掘立柱建物跡】（第140・141・166 図）

調査区南東に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で 10 ヶ所検出し、この中の 8 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1241 掘立柱建物跡、ＳＫ1280、ＳＤ1236・1266 溝跡などと重複し、ＳＫ1280、ＳＤ1236・1266 より新しい。ＳＢ1241 との新旧関係は不明である。



第140図　SB1242柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長 6.83m、柱間寸法は北より 2.19m・2.46m・2.16m、梁行は南妻で総長 4.58m、柱間寸法は等間とすると約 2.3mである。方向は西側柱列でみると、北で約 5 度東へ偏している。柱穴は一辺が 42～74cm の方形で、深さは 21～37



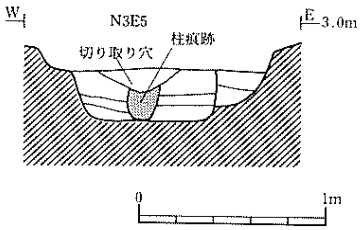
第141図　南１西２区南東部建物跡平面図

cm 残存しており、1 ヶ所に礎板が据えられている。柱痕跡は径 13～19cm の円形で、1 ヶ所で柱材が遺存している。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ1241 掘立柱建物跡】（第 141･142･166 図）

調査区南東に位置する東西 4 間、南北 3 間の南・東廂付の東西棟で、同位置で一度建て替えられている（ＳＢ1241Ａ→Ｂ）。柱穴はＳＸ2121 整地層上面および地山面で検出した。ＳＢ1242 掘立柱建物跡、ＳＡ3045 材木塀跡、ＳＫ1331・1335・1449 土壙、ＳＤ1216･1236 溝跡などと重複し、ＳＡ3045、ＳＫ1331・1335、ＳＤ1216･1236 より新しく、ＳＫ1449 より古い。ＳＢ1242 との新旧関係は不明である。



第142図　SB1241柱穴断面図

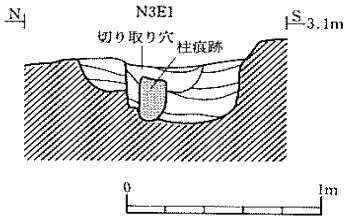
ＳＢ1241Ａは身舎 9 ヶ所、廂 7 ヶ所で柱穴を検出している。平面規模は後続するＳＢ1241Ｂと同規模とみられるが、その他の詳細は不明である。

ＳＢ1241Ｂはすべて柱穴を検出し、この中で身舎 5 ヶ所、廂 1 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が総長約 10.9m、柱間寸法が南入側柱列で西より約 2.8m･2.28m･3.13m、廂の出は約 2.8m である。梁行は西廂側柱列で総長約 8.2m、柱間寸法が約 2.7m 等間、廂の出は約 3.0m である。方向は南入側柱列でみると、東で約 9 度南へ偏している。柱穴は身舎･廂ともに一辺が 57～121cm の方形で、深さは身舎が 50～56cm、廂が 40～47cm 残存している。柱痕跡は径 18～22cm の円形で、12 ヶ所で柱の抜き取り、4 ヶ所で柱の切り取りがみられる。抜取り穴堆積土には少量の灰白色火山灰粒と多量の炭化物ブロックが混入する。なお、本建物跡の約 2.5m 北で、北側柱列に沿って東西に延びるＳＤ1266 溝跡を検出している。位置や方向、溝の総長などからみて、本建物跡と一連の溝跡の可能性が考えられる。

遺物はＡの柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器、Ｂの抜取り穴から灰釉陶器、柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器などが出土している。Ｂ柱穴出土の坏類の底部調整は土師器が回転ヘラケズリ調整や手持ちヘラケズリ調整が多く、須恵器はヘラ切りや回転糸切りの無調整が主体で前者がやや多い。赤焼土器は相対的に極少量である。

【ＳＢ3030 掘立柱建物跡】（第 143･168 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する東西 2 間以上、南北 2 間以上の建物跡で同位置で一度建て替えられている（ＳＢ3030Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出した。ＳＤ3038 溝跡と重複し、これよりも新しい。



第143図　SB3030柱穴断面図

Ａは柱穴を 5 ヶ所検出し、この中の 1 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は後続するＳＢ3030Ｂと同規模で、柱穴は深さ 36～69cm、柱痕跡が約 14cm の円形である。その他の詳細についてはＢに壊されているため不明である。

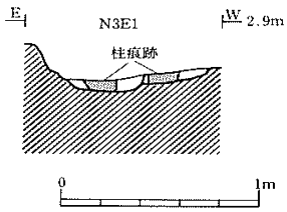
Ｂは柱穴を 5 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。柱間寸法は北側柱列で東より 1.95m･2.20m、東側柱列で北より 2.34m･1.75m である。方向は東側柱列でみると、北で約 7 度東へ偏し

ている。柱穴は一辺が64～88cmの方形で、深さは47～71cm残存しており、1ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径15～21cmの円形で、1ヶ所で柱の切り取りがみられ、焼土粒を含む黒褐色土が堆積している。

遺物はBの柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ1246掘立柱建物跡】（第141･144･169図）

調査区南東に位置する南北2間、東西2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で6ヶ所検出し、この中の5ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＦ2260小溝状遺構群と重複し、これより新しい。



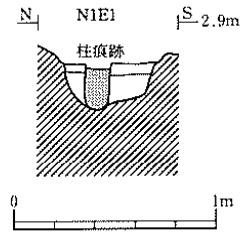
第144図　SB1246柱穴断面図

柱間寸法は東側柱列で北より1.73m･2.30m･2.15m、北側柱列は等間とすると約2.1mである。方向は東側柱列でみると、北で約3度東へ偏している。柱穴は一辺が34～56cmの隅丸方形で、深さは14～24cm、柱痕跡は径10～20cmの円形である。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器が少量出土している。

【ＳＢ1245掘立柱建物跡】（第141･145･169図）

調査区南東に位置する南北4間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で12ヶ所検出し、この中の11ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＦ2260小溝状遺構群、ＳＤ1448溝跡と重複し、これより新しい。



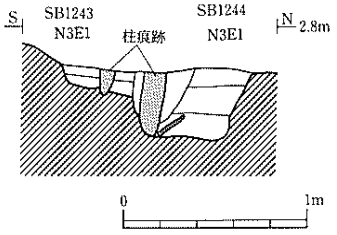
第145図　SB1245柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長7.61m、柱間寸法が北より1.83m・2.05m･1.83m･1.85m、梁行は北妻で総長3.48m、柱間寸法が西より1.69m・1.80mである。方向は東側柱列でみると、北で約3度東へ偏している。柱穴は一辺が24～56cmの方形で、深さは23～34cm残存している。柱痕跡は径12～19cmの円形で、3ヶ所で柱の切り取りがみられる。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、平瓦、砥石などが少量出土している。坏類の底部調整は土師器、須恵器ともに回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＢ1243掘立柱建物跡】（第146･170図）

調査区南東隅やや北寄りに位置する南北3間、東西2間の南北棟で、ほぼ同位置で1度建て替えられている（ＳＢ1243A→B）。柱穴は地山面で検出した。ＳＢ1244掘立柱建物跡、ＳＦ2260小溝状遺構群と重複し、ＳＦ2260より新しく、ＳＢ1244より古い。



第146図　SB1243・1244柱穴断面図

ＳＢ1243Aは柱穴を5ヶ所検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は後続するＳＢ1241Bとほぼ同規模とみられるが、その他の詳細は不明である。

ＳＢ1243Bは柱穴を10ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が西側柱列で総長6.14m、柱間寸法は北より2.05m･2.06m･2.00m、梁行は南妻で総長5.00m、柱間寸法は西より2.35m･2.64mである。方向は西側柱列でみると、北で約7度東へ偏している。柱穴は一辺が36～78

cmの方形で、深さは26～41cmである。柱痕跡は径13～17cmの円形で、1ヶ所で柱材が遺存している。また1ヶ所で柱の切り取りがみられ、切り取り穴堆積土には灰白色火山灰粒が多く混入する。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器、製塩土器、平瓦が少量出土している。

【ＳＢ1244掘立柱建物跡】（第170図）

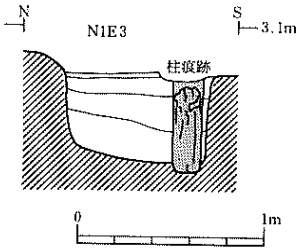
調査区南東隅やや北寄りに位置する南北2間、東西2間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で9ヶ所検出し、この中の5ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1243掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。

平面規模は東側柱列で総長2.56m、柱間寸法は等間とすると約1.3m、北側柱列で総長2.12m、柱間寸法は等間とすると約1.1mである。方向は北側柱列でみると、北で約4度東へ偏している。柱穴は一辺が52～100cmの方形で、深さは43～52cm残存している。柱痕跡は径13～20cmの円形で、6ヶ所で柱の切り取りおよび抜き取りがみられる。柱穴埋土には灰白色火山灰粒が混入する。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

【ＳＢ3035掘立柱建物跡】（第147･169図）

調査区南東隅のやや西寄りに位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で10ヶ所検出し、この中の8ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＩ3052竪穴住居跡、ＳＥ3026井戸跡、ＳＫ3001・3027土壙、ＳＤ2228･3050溝跡と重複し、ＳＩ3052、ＳＤ2228･3050より新しく、ＳＫ3001・3027より古い。ＳＥ3026との新旧関係は不明である。



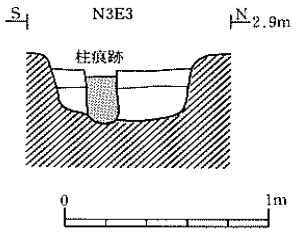
第147図　SB3035柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長6.49m、柱間寸法が北より約2.2m・約2.1m･2.16m、梁行は北妻で総長4.83m、柱間寸法が西より2.43m・2.42mである。方向は西側柱列でみると、北で約8度東へ偏している。柱穴は一辺が78～111cmの方形で、深さは46～78cm残存している。柱痕跡は径13～22cmの円形で、7ヶ所で柱材が遺存している。また、1ヶ所で柱の抜き取りがみられ、焼土粒を含む黒褐色土が堆積している。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が出土している。

【ＳＢ1551掘立柱建物跡】（第148･107図）

調査区南東隅に位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で10ヶ所検出し、この中の9ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＥ1434･2265･2267井戸跡、ＳＤ2268溝跡と重複し、これらより新しい。



第148図　SB1551柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長5.19m、柱間寸法は北より1.82m・1.45m･1.93mであり、梁行は北妻で総長4.05m、柱間寸法は西より2.07m･1.98mである。方向は東側柱列でみると、北で約3度東へ偏している。柱穴は長軸43～91cm、短軸34～64cmの隅丸長方形で、深さは20～35cm残存しており、1ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。柱痕跡は径12～21cmの円形で、2ヶ所で柱材が遺存している。柱穴埋土には灰白色火山灰粒が混入する。

遺物は柱穴埋土からロクロ調整の土師器と須恵器が少量出土している。

(2)竪穴住居跡

【ＳＩ3052竪穴住居跡】（第169図）

調査区南東隅のやや西寄りに位置し、地出面で検出した。ＳＢ3035 掘立柱建物跡、ＳＥ3026 井戸跡、ＳＤ2228・3050溝跡と重複し、ＳＢ3035より新しく、ＳＥ3026、ＳＤ2228・3050よりも古い。本調査区内で唯一確認された竪穴住居跡であるが、残存状況が悪く周溝以外の施設については不明である。

平面形は長辺約6.2m・短辺約4.5mの長方形を呈し、周溝は上端幅23～46cm、下端幅10～30cm、深さ約13cm で、断面形は「U」字状を呈する。方向は北辺でみると東で約 7 度南へ偏している。堆積土は炭化物を少量含む黒褐色土が自然堆積している。

遺物は出土していない。

(3)井戸跡

井戸跡は調査区の北西部で 2 基、南東隅で 5 基の計 7 基を検出した。これらのうち構造がわかるものは 5 基で、木組の井戸枠を有するものが 3 基（ＳＥ50･2265･3026）、丸太をくり抜いた井戸枠を有するものが 2 基（ＳＥ1434･2267）である。掘り上げを行っていないＳＥ6井戸跡と、撹乱によってそのほとんどが壊されているＳＥ3048井戸跡については井戸枠構造などの詳細は不明である。

【ＳＥ50井戸跡】（第149･162図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳＢ178・179掘立柱建物跡と重複し、これらより新しい。

掘り方を掘り、横板井篭組の井戸枠を据えた井戸跡であるが、井戸枠の上部および東辺を灰白色火山灰降下直後に抜取られている。掘り方は一辺約2.2mの方形で、深さ約1.2mである。そして底面のほぼ中央部には南北0.8m、東西1.0mほどの範囲を約0.4m掘り下げて、水溜としている。

井戸枠は掘り方のほぼ中央部に据えられており、長さ 110～135cm、幅 10～30cm、厚さ 4～7cm の長方形の板材を、主に溝状の切込みを入れて組み上げている。さらに西辺の内側では井戸枠をおさえるための径約 5cm の打ち込み杭を 2 ヶ所確認した。平面規模は南北で内法約 0.8mで、東辺を除き 3 段残存している。

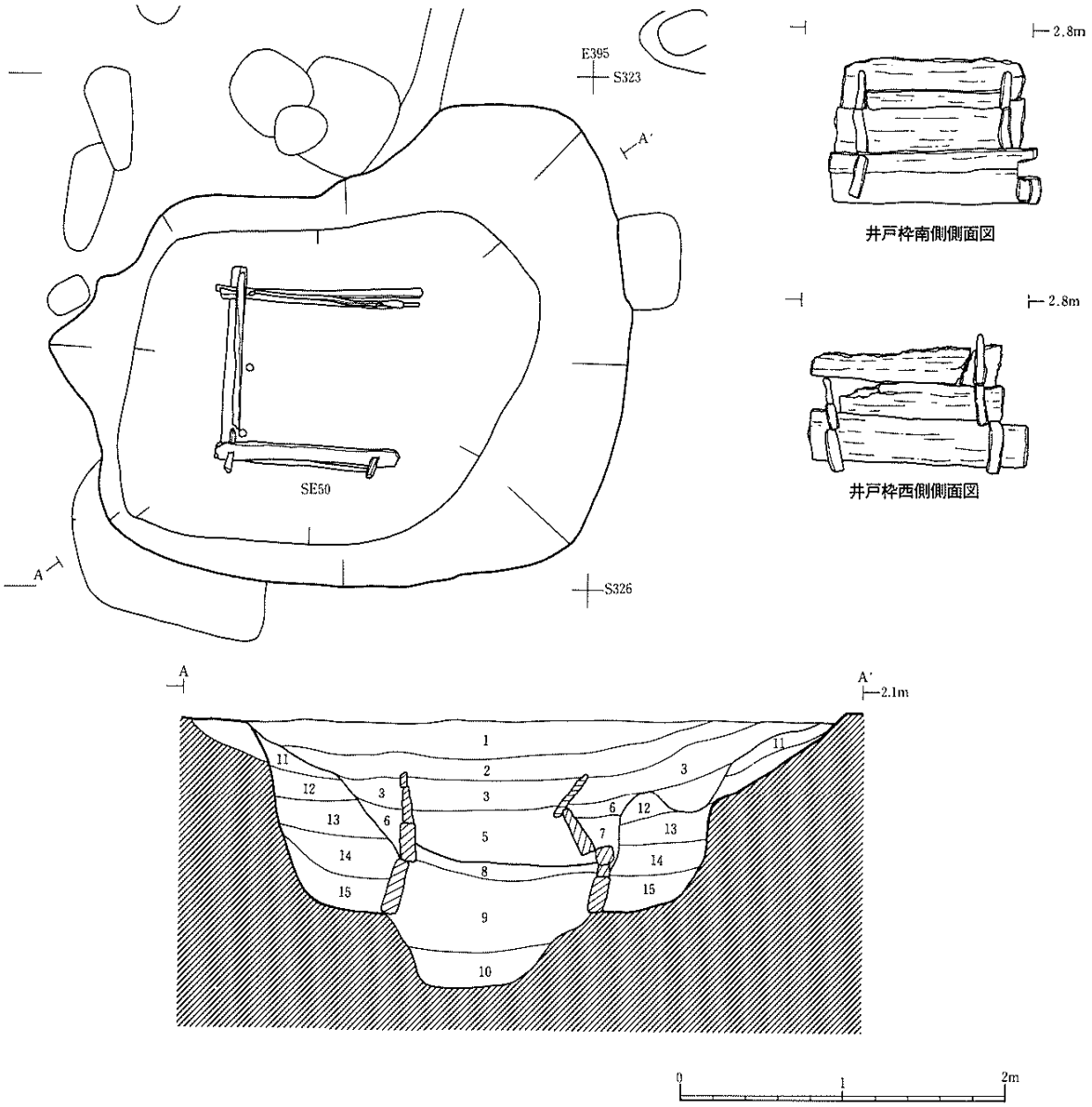
掘り方埋土には地山の砂のブロックが混入する黒・黒褐色土が詰め込まれている。

井戸枠内堆積土は 6～10 層で井戸機能時の自然堆積土である。1～5 層は井戸枠抜取り後の自然堆積土である。

遺物は掘り方埋土や井戸枠内堆積土および枠材の抜取り穴堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器、曲げ物などが出土しており、その他に井戸枠内堆積土、抜取り穴堆積土には赤焼土器も含まれる。またこれらの中には「忻」などの墨書土器もある。坏類の底部調整は掘り方埋土出土のものは、土師器が回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整が多く、須恵器はヘラ切りや回転糸切り無調整で前者がやや多い。抜取り穴・井戸枠内堆積土出土のものは土師器坏は回転糸切り無調整が主体で、須恵器坏は掘り方埋土のものと同様である。

【ＳＥ6井戸跡】（第162図）

調査区北側に位置し、地山面で検出した。北東部は調査区外に延びる。ＳＤ1020溝跡と重複し、これ



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物・焼土含。	9	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	［枠内堆積土］炭化物含。
2	黒 10YR2/1	シルト	［抜取り穴堆積土］灰白粒・地山ブロック含。	10	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	［枠内堆積土］地山砂含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］黒色粘土ブロック含。	11	黒褐 10YR3/1	シルト	［掘り方埋土］炭化物・焼土含。
4	黒褐 2.5Y3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］黒色粘土ブロック・地山砂含。	12	黒褐 10YR2/2	シルト	［掘り方埋土］細砂ブロック含。
5	黒褐 10YR2/2	シルト	［抜取り穴堆積土］遺物多。	13	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	［掘り方埋土］地山砂ブロック・炭化物含。
6	黒褐 10YR2/2	シルト	［抜取り穴堆積土］黒色粘土ブロック・地山砂含。	14	黒 10YR2/1	粘質シルト	［掘り方埋土］粗砂多。
7	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］灰白粒若干含。	15	オリーブ黒 5Y3/1	砂質粘土	［掘り方埋土］粗砂含。
8			［枠内堆積土］灰白の一次堆積層。				

第149図　南1西2区 SE50井戸跡

より新しい。

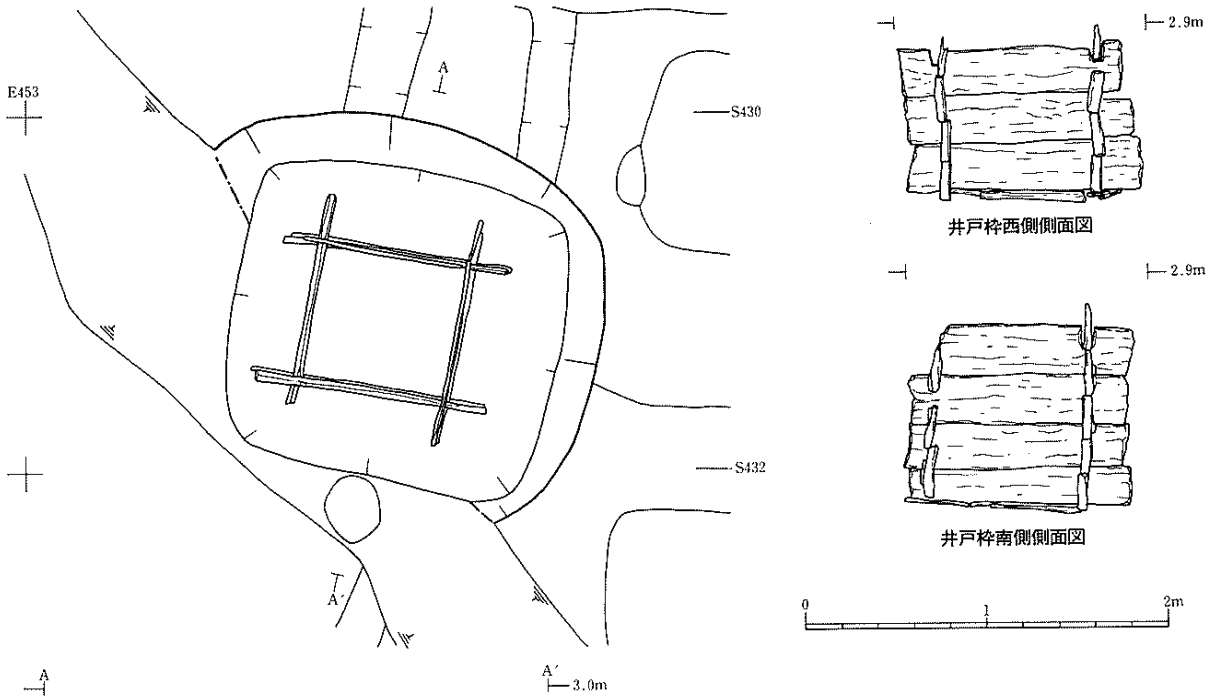
掘り上げは行っておらず、井戸枠構造などの詳細は不明であるが、平面確認において中央部に井戸枠内堆積土あるいは井戸枠抜取り穴堆積土と考えられる黒褐色土、その周囲に掘り方埋土と考えられる地山ブロックが多く混入する人為的埋土を検出していることから、掘り方を掘り、井戸枠を据えた井戸跡の可能性が考えられる。掘り方の平面形は北東部が調査区外に延びるものの、一辺約 2.5mの隅丸方形と推定される。

遺物は検出面から土師器、須恵器、赤焼土器および縁釉・灰釉陶器などが出土している。

【ＳＥ3026 井戸跡】（第150･169図）

調査区南東隅やや西寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ3035掘立柱建物跡やＳＩ3052竪穴住居跡、ＳＤ2228溝跡と重複し、ＳＩ3052、ＳＤ2228より新しい。ＳＢ3035との新旧関係は不明である。

掘り方を掘り、横板井篭組の井戸枠を据えた井戸跡であるが、井戸枠の上部を抜き取られている。掘り方は上部は一辺約 2.3mの隅丸方形、下部は 1.7～1.8mの方形で、深さは約 1.5mが残存し、壁は急に立ち上がっている。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物含。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］
3	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物含。
4	オリーブ黒 5Y3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］灰白粒含。
5	黒 5Y2/1	粘土	［抜取り穴堆積土］グライ化した地山ブロック含。
6	黒 7.5Y2/1	砂質粘土	［抜取り穴堆積土］グライ化した粗砂含。
7	黒 7.5Y2/1	砂質粘土	［枠内堆積土］グライ化した粗砂・黒色粘土多。
8	黒褐 2.5Y3/2	シルト	［掘り方埋土］
9	黒褐 10YR3/2	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック・炭化物・灰白粒含。
10	黒褐 10YR3/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。炭化物・灰白粒含。
11	黒 2.5Y2/1	シルト	［掘り方埋土］炭化物含。
12	黒 5Y2/1	粘土	［掘り方埋土］
13	黒 5Y2/1	砂質粘土	［掘り方埋土］グライ化した粗砂多。

第150図　SE3026井戸跡

井戸枠は長さ120～130cm、幅21～30cm、厚さ4～6cmの長方形の板材を、板の上下両側に溝状の切込みを入れて組み上げたものである。但し、北辺と南辺の最下段の板には上側にのみ切り込みが入れられている。平面規模は内法一辺約0.8mで、横板4段が残存している。また北辺を除く底面には沈下防止や高さを調節するための板を敷いている。

掘り方埋土には地山ブロックが混入する黒・黒褐色土が詰め込まれている。

井戸枠内堆積土は第7層で、井戸機能時の自然堆積土である。1～6層は井戸枠抜取り後に埋め戻された人為的な層で、6層には抜き取った枠材が多く含まれている。

遺物は掘り方埋土と井戸枠内堆積土および枠材の抜取り穴堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、緑釉陶器、瓦などが出土しており、坏類には「守」などの墨書土器も含まれる。また抜取り穴堆積土からは挽物（鉢）も出土している。

【ＳＥ1434井戸跡】（第151･170図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

掘り方を掘り、丸太をくり抜いた井戸枠を据えた井戸跡である。掘り方は平面形は一辺約1.2mの隅丸方形で深さは約1.1mである。

井戸枠は掘り方のやや北側に据えられている。丸太を分割してくり抜き、それを合わせて井戸枠としたもので、径約5cmの丸材を間に入れ、枠が内側にズレるのを防止している。平面形は内径約0.3～0.4mの円形で、約0.6m残存している。

掘り方埋土には地山ブロックが混入する黒色の粘質土や粘土が詰め込まれている。

井戸枠内堆積土は第1層で、井戸機能時の自然堆積である。

遺物は掘り方埋土や井戸枠内堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、平瓦などが出土しており、坏類には「守」などの墨書土器も含まれる。

【ＳＥ2265井戸跡】（第151･170図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1551掘立柱建物跡やＳＥ2267井戸跡と重複しＳＢ1551より古く、ＳＥ2267より新しい。

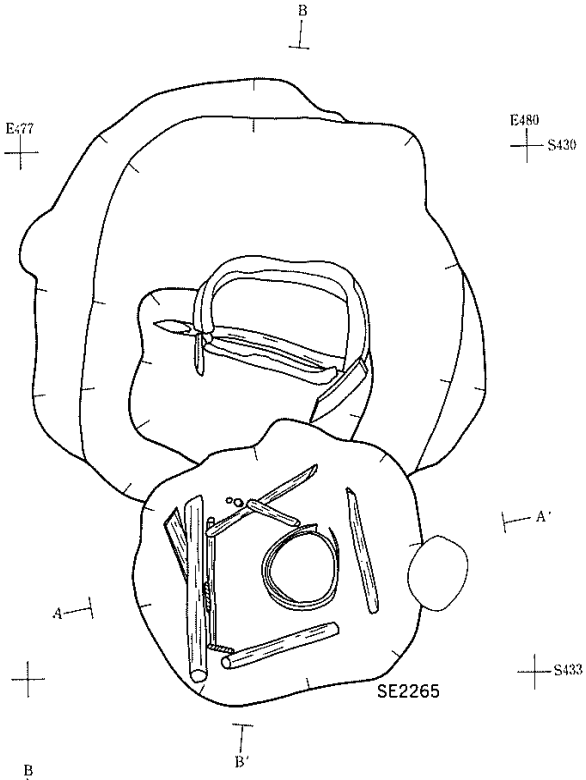
掘り方を掘り、縦板組の井戸枠を据えた井戸跡であるが、井戸枠は底部付近まで抜き取られている。掘り方は一辺約1.0～1.2mの隅丸方形で、深さは約1.0m残存し、断面形は摺鉢状を呈する。底面中央には、周囲より10cmほど掘り下げて、側板のみの曲物を据えている。

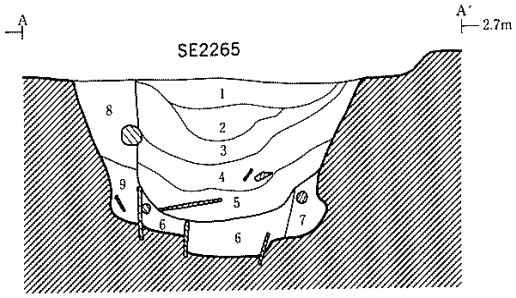
井戸枠は掘り方のほぼ中央部に据えられている。比較的残存状況のよい南・西辺でみると、長さ約60cm、幅約15cm、厚さ約2cmの長方形の板材を縦に数枚並べ、その内外両側で、径5～11cm、長さ70～100cmの丸材を横桟に用いて組んだものと考えられる。平面規模は一辺が推定約0.9mである。

掘り方埋土には地山ブロックが混入する黒・黒褐色土が詰め込まれている。

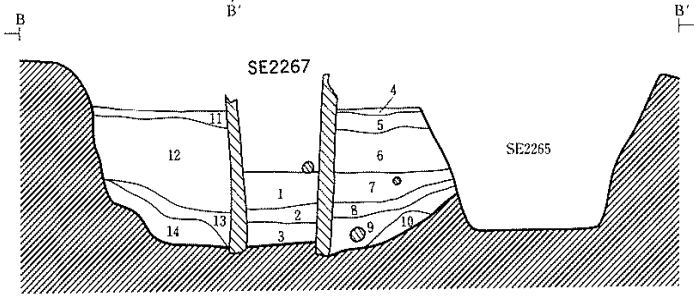
井戸枠内堆積土は第6層で、井戸機能時の自然堆積土である。1～5層は井戸枠抜取り後に埋め戻された人為的な層で、5層には抜き取った枠材が多く含まれている。

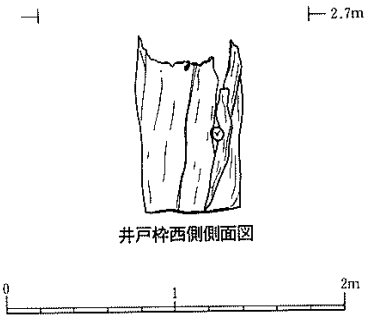
遺物は掘り方埋土と井戸枠内堆積土および枠材の抜取り穴堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土しており、その他には、井戸枠内堆積土から挽物(盤)・曲げ物、抜取り穴からは斎串も出



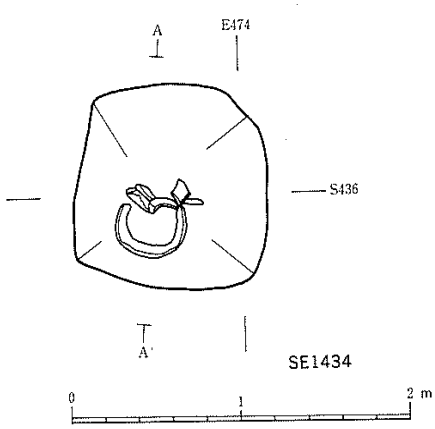


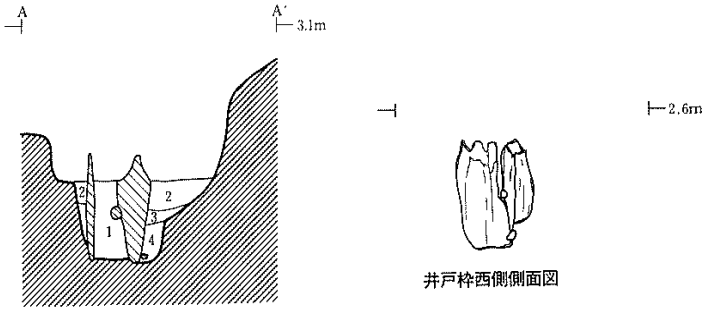
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 地山砂・炭化物含。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 炭化物層。
3	オリーブ黒 5Y3/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 炭化物層。地山砂ブロック含。
4	オリーブ黒 5Y3/1	シルト	[抜取り穴堆積土] 地山砂ブロック多。
5	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	[抜取り穴堆積土] 炭化物含。木片多。
6	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	[枠内堆積土]
7	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。
8	黒 5Y2/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック・炭化物若干含。
9	黒 7.5Y2/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック・炭化物若干含。





No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒 5Y2/1	砂質シルト	SE2267B	[枠内堆積土] 炭化物多。	8	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質粘土	SE2267B	[掘り方埋土] 比較的均質な黒色土。
2	オリーブ黒 7.5Y3/1	粘土		[枠内堆積土]	9	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質粘土		[掘り方埋土] 地山ブロック(大)含。
3	オリーブ黒 5Y3/1	粘土		[枠内堆積土]	10	オリーブ黒 7.5Y3/2	砂質粘土		[掘り方埋土] 地山ブロック含。
4	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。	11	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	SE267A	[掘り方埋土] 地山ブロック(大)多。
5	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック含。	12	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質粘土		[掘り方埋土] 地山ブロック(大)多。
6	オリーブ黒 5Y3/1	砂質粘土		[掘り方埋土] 炭化物多。	13	オリーブ黒 5Y2/2	砂質粘土		[掘り方埋土] 地山ブロック含。
7	オリーブ黒 5Y3/1	砂質粘土		[掘り方埋土] 地山ブロック多。	14	オリーブ黒 5Y3/1	粘土		[掘り方埋土] 炭化物若干含。





No	土色	土性	備考
1	オリーブ黒 7.5Y3/1	粘土	[枠内堆積土] 炭化物若干含。
2	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。炭化物若干含。
3	オリーブ黒 5Y3/1	粘土	[掘り方埋土] 地山砂含。
4	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質粘土	[掘り方埋土] 地山砂ブロック (大) 含。

第151図　SE2265・2267・11434井戸跡

土している。

【ＳＥ2267 井戸跡】（第151･170図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1551 掘立柱建物跡やＳＥ2265 井戸跡と重複し、これらより古い。

掘り方を掘り、丸太をくり抜いた井戸枠を据えた井戸跡である。掘り方は一辺約 2.2mの不整方形で、深さ約 1.1m、断面形は摺鉢状を呈する。南側は改修のため一度掘り直しがなされている。

井戸枠は掘り方のほぼ中央部に据えられている。丸太を分割して刳り貫き、それを合わせて井戸枠としたもので､径約 6cm の丸材を間に入れて枠が内側にズレるのを防止している。平面形は内法長径 0.8m・短径約 0.4mの楕円形で、約 1.1m残存している。

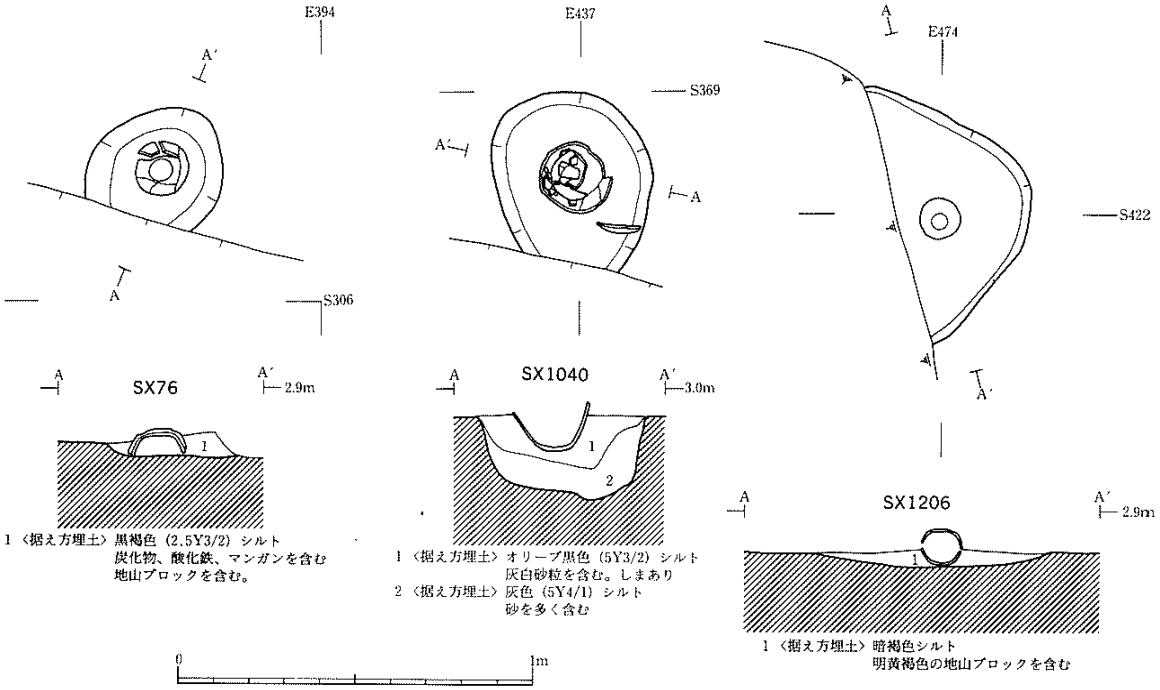
掘り方埋土には地山ブロックが混入する黒色土が詰め込まれている。井戸枠内堆積土は 1～3 層で、井戸機能時の自然堆積土である。

遺物は掘り方埋土や枠内堆積土から土師器、須恵器、丸瓦などが出土しており、枠内堆積土からは曲げ物も出土している。

(4) 土器埋設遺構

【ＳＸ76 土器埋設遺構】（第152･162図）

調査区の北西部に位置し､ＳＤ147 溝跡堆積土上面で検出した土器の埋設遺構である。



第152図　SX76・1040・1206土器埋設遺構

据え方は径約 40cm、深さ約 7cm の断面形が浅い皿状をなすほぼ円形の小土壙である。土師器坏 2 個を重ねて、伏せた状態で埋設している。坏はともに非ロクロ調整で口縁部が内湾し外面に沈線がある丸底風平底の坏である。埋土は地山粒や炭化物が混入する黒褐色土である。

【ＳＸ1040 土器埋設遺構】（第164図）

調査区のほぼ中央部に位置し、ＳＸ2121 整地層上面で検出した土器の埋設遺構である。ＳＤ1038 溝跡と重複し、これより新しい。

据え方は径 50cm、深さ約 25cm で断面形が逆台形状をなすほぼ円形の小土壙で、ロクロ調整の土師器甕を正位に埋設している。甕の中からはほぼ完形の土師器坏が 2 個体、須恵器甕の小破片、1 辺 10cm 程の炭塊が出土している。甕の上半部が削平により失われており、これらの埋設時の状況については明らかではないが、甕内に埋納もしくは甕の口縁部に坏を入子の状態で蓋とした可能性が考えられる。埋土は上層が粘性が強く灰白色火山灰粒・炭化物・焼土が混入するオリーブ黒色土、下層が砂混じりの灰色土である。

【ＳＸ1206 土器埋設遺構】（第170図）

調査区の南東部に位置し、地山面で検出した土器の埋設遺構である。土師器坏と赤焼土器坏を合口にして埋設している。

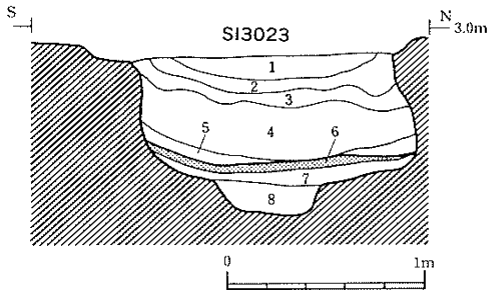
据え方は上部の削平や西側の撹乱によって壊されており詳細は明らかではないが、径約 70cm 程の土壙とみられる。断面形は浅い皿状をなし、深さは約 10cm 残存している。堆積土は地山ブロックを含む暗褐色土である。

(5) 竪穴遺構

【ＳＩ3023 竪穴遺構】（第153･169図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。北東部分は撹乱により壊されている。重複は認められない。

平面形は一辺約 1.5ｍの隅丸方形を呈し、方向は西辺でみると、北で約 18 度東に偏している。掘り方埋土上面を床面とし、その直上には竹を含む植物遺体(6 層)が 4cm 程の厚さで認められた。壁はやや内傾して立ち上がり、約 0.8ｍ残存している。掘り方底面は中央部の径約 0.4ｍの範囲をさらに 16cm 程掘り下げて、一段深くなっている。遺構内堆積土は 5 層に細分され、1・5 層が自然堆積、2～4 層が人為的埋土である。なお、植物遺体は床面に貼り付いた状態で検出されたが、とくに編み込まれ



No	土色	土性	備考
1	褐灰 2.5Y4/1	シルト	［竪穴内堆積土］炭化物・焼土含。
2	にぶい黄 10YR6/3	砂質シルト	［竪穴内堆積土］人為堆積土。地山土多。
3	褐灰 10YR4/1	シルト	［竪穴内堆積土］人為堆積土。地山ブロック（小）含。
4	黒褐 10YR3/1	シルト	［竪穴内堆積土］人為堆積土。地山ブロック（大）多。
5	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	［竪穴内堆積土］人為堆積土。地山ブロック（小）含。
6	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	［植物層］竹を含む植物遺体が貼付く。
7	オリーブ灰 2.5GY5/1	砂質シルト	［掘り方埋土］グライ化した粗砂層。
8	黒褐 10YR2/2	粘土	［植物層］しまりなし。

第153図　SI3023竪穴遺構断面図

ているような状況は認められなかった。

遺物は掘り方埋土から挽物（皿）・曲げ物、遺構内堆積土からはロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、瓦、砥石などが出土している。

(6) 土壙

150 基以上の土壙を検出した。ここでは、これらのうち出土遺物の多いものや、他の遺構との重複関係においてある程度年代が把握できるものを中心に説明し、その他の土壙については平面形や規模等を一覧表に一括して掲載した。

【ＳK79 土壙】（第154･161 図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳB198 掘立柱建物跡と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸約 1.9m･短軸約 1.4mの楕円形で、深さは約 20cm である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器などが出土している。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整が多い。

【ＳK74 土壙】（第154･162 図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳK73・75 土壙と重複し、ＳK75 より新しく、ＳK73 より古い。

平面形は長軸約1.4m以上･短軸約1.0mの不整方形で、深さは約35cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に細分され、灰白色火山灰ブロックを多く含み、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、灰釉陶器などが少量出土している。

【ＳK73 土壙】（第154･162 図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳB16 掘立柱建物跡、ＳK72･74 土壙と重複しＳB16、ＳK74 より新しく、ＳK72 より古い。

平面形は 1 辺 1.2～1.4mの不整方形で、深さは約 35cm である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。堆積土は 3 層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。1 層には灰白色火山灰ブロックを含む。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器などが少量出土している。

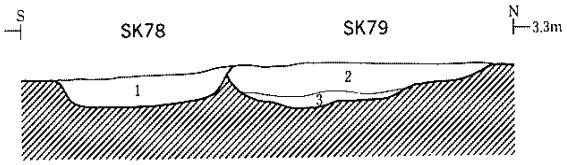
【ＳK72 土壙】（第154･162 図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳK73 土壙と重複し、これより新しい。

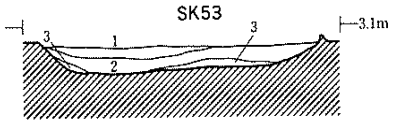
平面形は径約 1.4mの不整円形で、深さは約 30cm である。壁はやや急に立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 1 層で、灰白色火山灰が混入する人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器などが出土しているが、赤焼土器は少量である。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整、須恵器はヘラ切り無調整が多い。

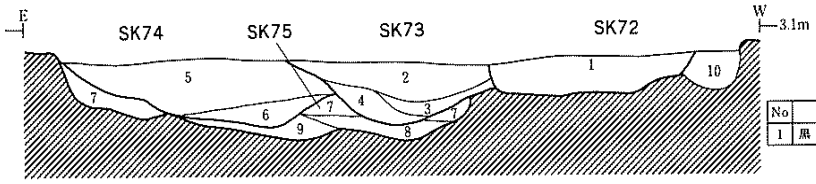
【ＳK53 土壙】（第154･162 図）

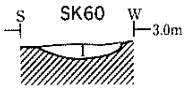


No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SK78	炭化物・地山ブロック少量含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	SK79	炭化物・地山土多。
3	黒褐 10YR3/2	シルト		地山土多。



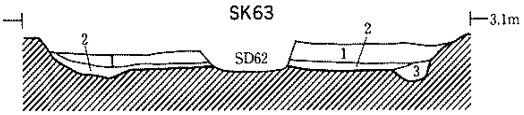
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物多。焼土含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	炭化物・地山ブロック含。
3	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物多。焼土・地山砂若干含。



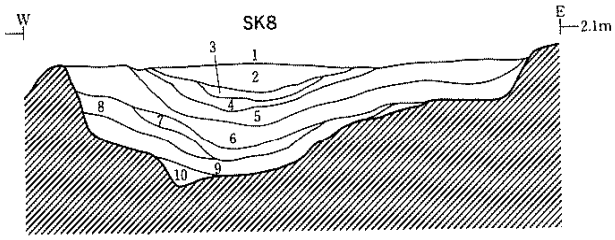


No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物含。

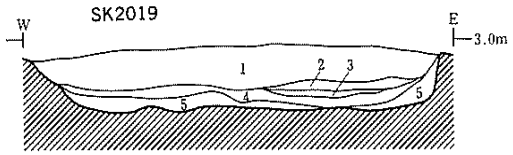
No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/1	シルト	SK72	灰白粒・炭化物・地山ブロック含。	6	黒褐 10YR2/3	粘質シルト	SK74	炭化物・地山ブロック（大）含。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SK73	灰白ブロック・炭化物含。	7	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	SK75	地山ブロック含。
3	黒褐 10YR2/2	シルト		地山ブロック多。炭化物含。	8	黒 2.5Y2/1	粘質シルト		地山砂多。炭化物含。
4	黒褐 10YR3/1	粘質シルト		炭化物含。地山砂若干含。	9	黒 2.5Y2/1	粘質シルト		
5	黒褐 10YR3/2	シルト	SK74	灰白ブロック多。炭化物・地山ブロック含。	10	黒褐 2.5Y2/1	シルト	土壙	地山ブロック多。炭化物含。



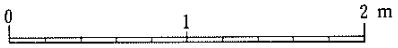
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白粒・炭化物若干含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	地山砂少量含。
3	褐灰 10YR4/1	シルト	炭化物・地山砂ブロック含。

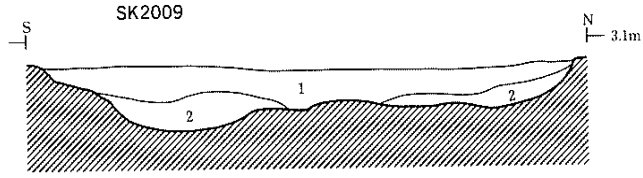


No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物ブロック含。
2	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	炭化物・地山ブロック含。
3	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	地山砂多。
4	黒 10YR2/1	粘質シルト	
5	黒 10YR2/1	粘質シルト	地山砂多。
6	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	スクモ層。炭化物・地山ブロック。
7	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物多。
8	黒褐 10YR2/3	粘質シルト	自然木多。
9	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物多。地山砂ブロック含。
10	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物多。

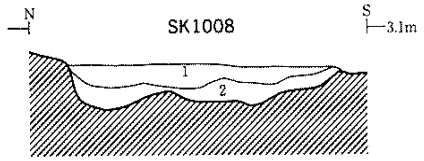


No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	人為堆積土。灰・炭化物多。
2	黒 10YR1.7/1	粘質シルト	地山砂ブロック若干含。
3	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	炭化物若干含。
4	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物若干含。
5	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	炭化物若干含。地山土ブロック（大）多。





No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	人為堆積土。灰・炭化物多。
2	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	人為堆積土。地山ブロック（大）多。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	炭化物多。
2	にぶい黄 2.5Y6/4	シルト	

第154図　南１西２区土壙断面図(1)

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳＡ19 塀跡、ＳＤ52 溝跡などと重複し、ＳＡ19 より新しく、ＳＤ52 より古い。

平面形は東側を小溝に壊されているが最大約1.6ｍの隅丸方形と推定される。深さは約17cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は3層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器および須恵器などが出土している。

【ＳＫ63 土壙】（第154･162図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳＤ61・62 溝跡などと重複し、これより古い。

平面形は長軸約5.0ｍ･短軸約2.5ｍの隅丸長方形で、深さは約25cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はほぼ皿状を呈する。堆積土は3層に細分され、いずれも自然堆積である。1層には灰白色火山灰粒を少量含む。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器などが出土しているが、赤焼土器は少量である。

【ＳＫ60 土壙】（第154･162図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

平面形は径0.5～0.6ｍの円形で、深さは約10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は1層で、自然堆積である。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器などが出土している。

【ＳＫ45 土壙】（第162図）

調査区北西のやや東寄りに位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

平面形は径0.6～0.8ｍの円形で、深さは約13cmである。断面形はほぼ皿状を呈する。

遺物は堆積土中から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器および須恵器が出土している。

【ＳＫ8 土壙】（第154･162図）

調査区北西のやや東寄りに位置し、地山やＳＤ2121 整地層下で検出した。南側は調査区外に延びる。

平面形は長軸2.5ｍ以上･短軸1.8ｍ以上の不整方形で、深さは約60cmである。底面は北西側がやや浅くなっており、壁はやや急に立ち上がっている。堆積土は10層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は堆積土中から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器などが出土している。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整と回転ヘラケズリ調整や手持ちヘラケズリ調整が混在し、須恵器はヘラ切りと回転糸切り無調整が主体で、中でも前者がやや多い。

【ＳＫ2009 土壙】（第154･163図）

調査区中央のやや西側に位置し、地山面で検出した。ＳＢ2035 掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は確認できなかった。

平面形は径3.0～3.5ｍの不整円形で、深さは約35cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に細分され、人為的埋土である。

遺物は堆積土中から主にロクロ調整の土師器および須恵器などが多数出土しており、緑釉・灰釉陶器などもある。坏類には「忻」などの墨書土器も含まれる。坏類の底部調整をみると、土師器は回転糸切り無調整が多く、その他に回転ヘラケズリ調整や手持ちヘラケズリ調整も含まれる。須恵器はヘラ切りと回転糸切り無調整が主体で、中でも前者がやや多い。

【ＳＫ2019 土壙】（第154･163 図）

調査区中央のやや西寄りに位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

平面形は長軸約 3.5m･短軸約 2.5mの楕円形で､深さは約 35cm である｡底面はほぼ平坦で､壁は東側は急に立ち上がるが、西側は緩やかに立ち上がっている。堆積土は 5 層に細分され、1 層が人為的埋土、2～5 層が自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉・灰釉陶器が多数出土しており、製塩土器などもある。坏類には「忻」「右」「常」などの墨書土器も含まれる。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整が多く、須恵器は回転糸切り無調整が多い。

【ＳＫ1008 土壙】（第154･163 図）

調査区中央に位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

平面形は長軸約2.0m･短軸約1.2mの不整形で､深さは約35cmである｡壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はほぼ皿状を呈する。堆積土は 2 層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、砥石などが出土しており、坏類には「而」の墨書土器も含まれる。土師器坏の底部調整は手持ちヘラケズリ調整が多い。

【ＳＫ1009 土壙】（第165 図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した。ＳＫ1010 土壙と重複し、これより新しい。

平面形は長軸約 2.5m･短軸約 2.0m楕円形で､深さは約 12cm である｡壁は緩やかに立ち上がり､断面形は浅い皿状を呈する。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉陶器、瓦などが出土している。坏類は土師器が最も多く、須恵器は赤焼土器よりも少ない。坏類の底部調整は回転糸切り無調整が多い。

【ＳＫ1010 土壙】（第165 図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した。南西部は調査区外に延びる。ＳＫ1009 土壙と重複し、これより古い。

平面形は 1 辺約 2.5m以上の隅丸方形と推定され深さは約 10cm である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は地山ブロックが混入する黒褐色土で人為的埋土とみられる。また底面との境には炭化物が薄い層状に堆積している。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器などが出土している。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整や手持ちヘラケズリ調整、回転ヘラケズリ調整が混在する。

【ＳＫ3002 土壙】（第155･165 図）

調査区南側に位置し、打ち込み杭をともなう性格不明の土壙で、地山面で検出した。重複は認めら

れない。

平面形は径約 1.2mの円形で、深さは約 15cm。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状を呈する。土壙内には径約 5cm の杭が不規則に打ち込まれており 12 本確認している。堆積土は 2 層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、砥石などが出土している。

【ＳK1210 土壙】（第155･166 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳD1020Ｂ溝跡と重複し、これより新しい。

平面形は径 1.6～2.0mの不整円形で、深さは約 60cm である。壁はやや急に立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。堆積土は 13 層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、灰釉陶器、瓦などが出土している。

【ＳK1218 土壙】（第155･166 図）

調査区南東のやや北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳD1020Ｂ溝跡と重複しこれより古い。

平面形は径 3m 前後の円形で、深さは約 60cm である。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 7 層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は非ロクロ調整とロクロ調整の土師器、須恵器、紡錘車などが出土しており、非ロクロ調整の土師器坏は無段丸底のものである。

【ＳK2261 土壙】（第155･167 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳK2262 土壙やＳD2288 溝跡と重複し、これらより新しい。

平面形は径約 0.7mの円形で、深さは約 25cm である。底面にはやや歪みがあり、壁は急に宜ち上がっている。堆積土は 5 層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。1～3 層には灰白色火山灰粒が少量含まれる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器などが出土している。

【ＳK3021 土壙】（第155･169 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳK3022 土壙と重複し、これより新しい。

平面形は径約 2.0mの円形で、深さは約 85cm である。底面はやや歪んでおり、壁は緩やかに立ち上がっている。断面形は摺鉢状を呈する。堆積土は 8 層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。

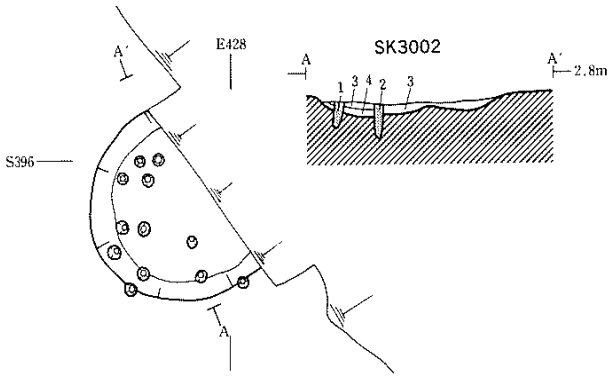
遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、瓦などが出土している。

【ＳK3027 土壙】（第155･169 図）

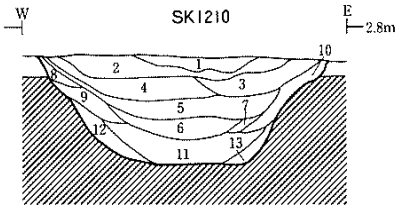
調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ3035 掘立柱建物跡やＳK3001 土壙と重複しＳＢ3035 より新しく、ＳK3001 より古い。

平面形は長軸約2.3m･短軸約1.4mの隅丸長方形で、深さは約60cmである。壁はやや急に立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 10 層に細分され、1～3・10 層が自然堆積層、4～9 層が人為的埋土とみられる。

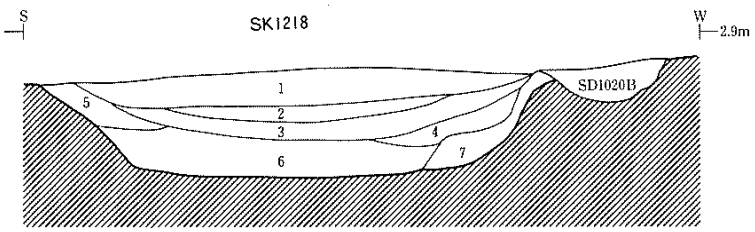
遺物は主に堆積土 1～3 層中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉陶器、瓦などが出土している。土師器が多く、赤焼土器は小破片が数片出土しているのみである。坏類の底部調整



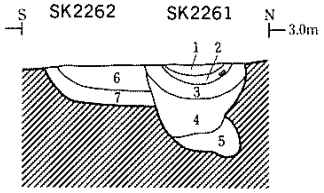
No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	粘質シルト	[柱痕跡]炭化物・焼土多。
2	黒 10YR2/1	粘質シルト	[柱痕跡]炭化物・焼土多。
3	黒褐 10YR2/2	シルト	人為堆積土。炭化物・焼土・地山砂ブロック多。
4	黒褐 10YR3/2	シルト	人為堆積土。地山砂ブロック多。炭化物・焼土含。



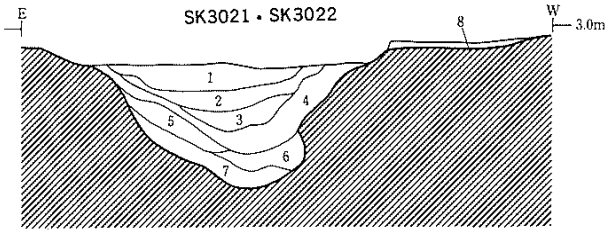
No	土色	土性	備考
1	黒 2.5Y2/1	粘土	炭化物・黒色粘土ブロック含。
2	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	炭化物含。
3	黒褐 10YR2/3	粘質シルト	炭化物含。
4	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	炭化物・地山砂ブロック・黒色粘土ブロック含。
5	黒褐 10YR2/2	粘土	
6	黒褐 2.5Y3/1	粘土	地山砂含。
7	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	
8	黒褐 2.5Y3/2	シルト	灰白ブロック多。
9	黒褐 10YR2/2	粘土	灰白粒多。炭化物・地山砂含。
10	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	
11	黒 5Y2/1	粘土	地山砂含。
12	オリーブ黒 5Y2/2	粘質シルト	炭化物・地山砂若干含。
13	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	地山ブロック多。



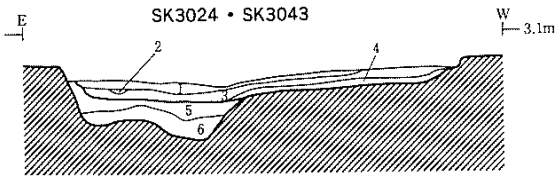
No	土色	土性	備考
1	黒 5Y2/1	シルト	炭化物少量含。
2	オリーブ黒 5Y2/2	粘質シルト	地山砂多。
3	オリーブ黒 5Y2/2	粘質シルト	
4	オリーブ黒 5Y2/2	シルト	
5	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	地山砂多。
6	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	地山砂少量含。
7	オリーブ黒 5Y2/2	シルト	地山砂ブロック（大）多。



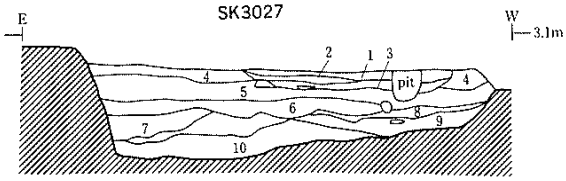
No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR2/2	シルト	SK2261	灰白粒含。
2	黒 10YR2/1	シルト		炭化物多。
3	黒 10YR2/1	シルト		灰白粒・地山砂・炭化物含。
4	黒 10YR1.7/1	シルト		地山砂・炭化物含。
5	黒 10YR1.7/1	シルト		
6	黒褐 10YR2/2	シルト	SK2262	灰白粒・炭化物含。
7	黒 10YR2/1	シルト		炭化物含。



No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR2/2	シルト	SK3021	炭化物含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト		炭化物・地山砂少量含。
3	黒褐 10YR3/1	粘質シルト		
4	黒 10YR2/1	粘土		炭化物・地山砂少量含。
5	黒 5Y2/1	粘質シルト		地山ブロック含。
6	黒 7.5Y2/1	粘土		
7	オリーブ黒 5Y3/1	粘質シルト		地山ブロック多。
8	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SK3022	炭化物含。



No	土色	土性	備考	
1	灰オリーブ 5Y4/2	シルト	SK3024	人為堆積土。炭化物多。
2	灰オリーブ 5Y4/2	シルト		
3	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト		炭化物・焼土多。
4	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト		地山砂ブロック多。
5	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	SK3043	地山砂ブロック若干含。
6	灰オリーブ 5Y5/3	砂質シルト		地山ブロック多。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/2	シルト	炭化物・遺物多。	6	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	人為堆積土。地山ブロック（大）多。
2	黒 10YR2/1	シルト	炭化物・灰多（ラミナ）・遺物多。	7	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	人為堆積土。炭化物・地山砂若干含。
3	黒褐 2.5Y3/1	シルト	遺物多。	8	黒 2.5Y2/1	シルト	人為堆積土。しまりのない炭化物・木片多。
4	黄褐 2.5Y5/3	砂質シルト	人為堆積土。黒褐色粘質土ブロック含。	9	灰オリーブ 5Y4/2	砂質シルト	人為堆積土。しまりのない細砂・木片含。
5	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	人為堆積土。地山砂ブロック含。炭化物多。	10	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	しまりのない細砂ブロック多。

第155図　南1西2区土壙断面図(2)

は土師器が回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整、須恵器は回転糸切り無調整とヘラ切り無調整が多い。

【ＳＫ3001 土壙】（第169図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ3035 掘立柱建物跡やＳＫ3027 土壙と重複し、これらより新しい。

平面形は径約 1.4ｍの円形で、深さは約 72㎝。壁はやや急に立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。堆積土は黒・黒褐色粘質土で 11 層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉・灰釉陶器、瓦などが出土している。坏類では土師器が最も多く、須恵器や赤焼土器はそれぞれ土師器の半分程である。坏類の底部調整は土師器、須恵器ともに回転糸切り無調整が多い。

【ＳＫ3024 土壙】（第155･169 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＫ3043 土壙、ＳＤ2228･3050 溝跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸約2.3ｍ･短軸約1.5ｍの隅丸長方形で、深さは約25㎝である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は 6 層に細分され、1 層は人為的に埋め戻されている。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、瓦、砥石などが出土している。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整と手持ちヘラケズリ調整、須恵器はヘラ切り無調整が多い。

【ＳＫ1226 土壙】（第170図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。

平面形は長軸 1.3ｍ、短軸 0.9ｍの楕円形で、深さは約 25㎝ である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は地山粒が混入する灰・黒色土で炭化物を多く含む自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中から非ロクロの土師器および須恵器、製塩土器などが少量出土している。

【ＳＫ2266 土壙】（第170図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1551 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。

平面形は北側を土壙によって壊されているが径 2ｍ 前後の不整円形と考えられる。深さは約 15㎝ で、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は地山ブロックが混入する黒褐色土で炭化物を多く含み、人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土中から非ロクロ調整の土師器および須恵器、土錘、砥石などが出土しており、特に土錘は 29 個体がまとまって出土している。

(7) 区画施設

ＳＸ1250 西 1 道路の東西側溝およびＳＸ1300・1400 南 1 道路の北側溝とほぼ同位置で検出した区画施設である。道路廃絶後に構築され、ＳＡ1412→ＳＤ1240・1230 の変遷が認められた。

【ＳＡ1402 材木塀跡】（第170図）

ＳＸ1250 の西側溝とほぼ同位置に構築した擬跡で、ＳＸ1250Ｅ･Ｆと同様に路面Ⅳの上面で検出した。

溝状の掘り方（布掘り）に丸太材を密接して立て並べて塀としたもので、ＳＸ1250 の西側溝上でＳＸ1250･1300 のコーナー付近から北に約 25ｍ検出し、さらに調査区外に延びている。掘り方の上部が切り取り溝によって壊されているが、上幅 1.0～1.4ｍ、下幅 0.6ｍ、深さ（路面Ⅳからの深さ）0.9ｍ程で、断面がＵ字形をなしている。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質土である。

材木の痕跡は径 30㎝ 程で、大部分のものが切り取り溝によって途中で切り取られているが、中にはそのまま抜きとられているものもある。切り取り溝は丸太材の両側から連続する楕円形状に掘られており、上幅 1.4ｍ、下幅 0.8ｍ、深さ 0.9ｍ程で、断面形は上部が大きく開いたＵ字形である。堆積土はしまりのない黒色土からなる。材木塀の方向は材木の痕跡で、北で僅かに西に偏りしている。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器、瓦などが出土している。遺物量は少なく、小破片のものが多いが、坏では赤焼土器が目立つ。

【ＳＤ1230･1240 溝跡】（第34･170 図）

ＳＡ1402 の材木切り取り後に掘られた溝跡で、路面Ⅳの上面で検出した。

ＳＤ1240 は、ＳＸ1250 の西側溝からＳＸ1300 の北側溝にかけて、ほぼ同位置を逆「Ｌ」形に巡る溝跡である。ＳＡ1402 の切り取り溝をやや広げて掘られており、上幅が約 2ｍ、深さ 0.5ｍで、断面形は上部が大きく開いたＵ字形を呈している。方向は、南北方向が北で約 2 度西に偏し、東西方向が東で約 5 度南に偏している。堆積土はいずれもしまりのない黒色粘土や黒褐色土で、堆積土上部には基本層位Ⅱ層の堆積が認められる。コーナー部分には長径 2.5ｍ、短径 1.7ｍ、深さ 1.0ｍ程の枡（ＳＫ1202）を構築している。

ＳＤ1230 は、ＳＤ1240 南北溝から分岐し、ＳＸ1250 の東側溝およびＳＸ1400 の北側溝とほぼ同位置を「Ｌ」形に巡る溝跡である。上幅 1.3ｍ、下幅 0.6ｍ、深さ 0.5ｍ程で、断面形は底面が平坦な逆台形状を呈している。ＳＤ1240 との南北溝間の距離は溝心々で 3.5ｍを測る。ＳＤ1230 東西溝は南北溝に比べて浅く残存状況も悪いが、ＳＤ1240 の東延長上をさらに東に延びていたものと思われる。堆積土はＳＤ1240 と同様である。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、瓦などがある。このうち坏では赤焼土器が主体をなしており、土師器は回転糸切り無調整のものが圧倒的に多い。

(8) 材木塀跡・柱列

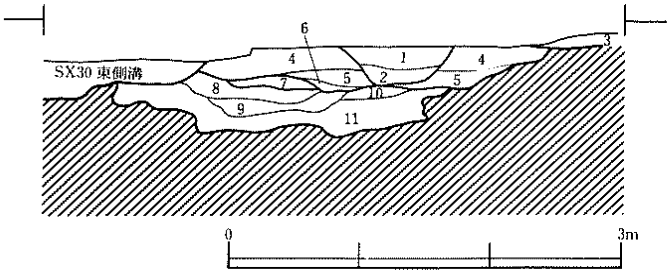
材木塀跡を 11 条、柱列を 1 条検出した。材木塀跡はいずれも布掘り状の掘り方に柱を据えて埋め戻したものである。

ａ. 材木塀跡

【ＳＡ200 材木塀跡】（第156･161 図）

調査区北西端に位置し、ＳＸ30 東側溝に沿って南北に延びる材木塀跡である。ＳＸ10・30Ｃ側溝埋没後に施したＳＸ999 整地層の上面で検出した。ＳＸ10 とのコーナー付近から南に約 14ｍ検出し、南側はさらに調査区外に延びている。ＳＢ209 掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

掘り方（布堀り）は、塀廃絶後の抜き取り溝によって壊されているため部分的に確認できたにすぎ



No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	SA200	地山ブロック多。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	抜取り	地山砂ブロック含。
3	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト	SX999	地山砂ブロック多。
4	にぶい黄褐 10YR4/3	砂質シルト	C側溝	地山砂多。
5	黒褐 2.5Y3/2	シルト		
6	黄灰 2.5Y4/1	シルト		
7	黒褐 2.5Y3/2	シルト	B側溝	
8	オリーブ黒 5Y3/1	シルト	SK320	
9	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	砂質シルト		粗砂・スクモのブロック多。
10	オリーブ灰 5GY5/1	砂		スクモ・粗砂の互層(ラミナ)
11	オリーブ黒 5Y3/1	シルト		地山ブロック多。

第156図　SA200材木塀跡断面図

ないが、上端幅約 0.7m、底面幅 0.5mである。断面は「U」字形をなし、深さは約 40cm 残存する。材木痕跡は確認できたもので、径 10～15cm 程である。方向は、抜き取り溝の心々で、北で約 9 度東に偏している。なお、ＳA200 はＳX999 上面で検出された遺構の中で最も古いことや側溝との位置関係などから、ＳX30Dに伴うものと考えられる。ＳA200 とＳX30D東側溝との間隔は心々で約 1.8mである。

遺物は抜き取り溝堆積土から土師器、須恵器が少量出土している。特徴の分かるものとしては、ヘラ切り無調整の須恵器坏がある。

【ＳA19 材木塀跡】（第161 図）

調査区北西に位置する東西方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。地山面で検出した。ＳB14･25･163･168・179 掘立柱建物跡やＳK54・67 土壙、ＳD61・108 溝跡などと重複し、これらより古い。

掘り方は約 36mまで検出し、東側は調査区外に延びる。上端幅約 0.4～0.7m、底面幅 0.3～0.4m、深さは 20cm 前後で、断面形は「U」字状を呈する。柱痕跡は径 9～22cm の円形で柱間隔は 10～30cm である。方向は東で約12 度南に偏している。

遺物は掘り方埋土から調整不明の土師器と須恵器が数片出土しているのみである。

【ＳA123 材木塀跡】（第157･161 図）

調査区北西に位置し湾曲しながら南東方向に延びる塀跡である。ＳX2121 整地層上面で検出し、布掘り状の掘り方を持つが柱はすべて抜き取られている。ＳB91 掘立柱建物跡、ＳA124 材木塀跡と重複し、ＳA124 より新しく、ＳB91 より古い。

掘り方は約 11mまで検出し、両端は調査区外に延びている。上端幅約 1.0m、底面幅約 0.7m、深さは約 30cm で、断面形は逆台形状を呈する。方向は抜取り溝両端でみると、東で約 37 度南へ偏している。

抜取り溝堆積土は 4 層に分けられ、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物は掘り方や抜取り溝から調整不明の土師器と須恵器が数片出土しているのみである。

【ＳA124 材木塀跡】（第157･161 図）

調査区北西に位置する南東方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。地山やＳX2121 整地層上面で検出した。ＳB91 掘立柱建物跡やＳA123 材木塀跡と重複し、これより古い。

掘り方は約 6ｍまで検出し、両端は調査区外に延びる。上端幅約 0.5～0.7m、底面幅約 0.3m、深さは約 35cm で断面形は「U」字状を呈する。柱痕跡は径 15cm 前後の円形で上部に柱の切取りがみられる。柱間隔は 30～70cm、方向は東で約 24 度南へ偏している。

遺物は切取り溝から調整不明の土師器が数片出土しているのみである。

【ＳA89 材木塀跡】（第157･162 図）

調査区北西に位置する南東方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。ＳＸ2121 整地層上面で検出した。ＳＢ175・176 掘立柱建物跡と重複し、これらより古い。

掘り方は総長約 9ｍ、上端幅約 0.2～0.6ｍ、底面幅 0.1～0.5ｍ、深さ約 30cm で断面形は「Ｕ」字状を呈する。柱は切り取られているが、底面近くで円形で径 17cm 前後の痕跡が確認されている。柱間隔は最も残りのよい部分で約 10cm である。方向は東で約 28 度南へ偏している。抜取り溝は地山ブロックが混入する黒色土で人為的に埋め戻している。

遺物は調整不明の土師器が 1 片出土しているのみである。

【ＳＡ1 材木塀跡】（第157･162図）

調査区北西に位置する南東方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。ＳＸ2121 整地層上面で検出した。ＳＤ218 溝跡と重複し、これより新しい。

掘り方は約 3ｍまで検出し、南東側は調査区外に延びる。上端幅約 0.5ｍ、底面幅 0.3ｍ、深さ約 34cm で断面形は「Ｕ」字状を呈する。柱は切り取られており、底面近くで円形で径 15cm 前後の痕跡を確認した。柱間隔は最も残りのよい部分で約 30cm である。方向は東で約 21 度南に偏している。切取り溝には炭化物を含む黒褐色土が自然堆積している。

遺物は切取り溝から灰釉陶器が出土している。

【ＳＡ1034 材木塀跡】（第157･164 図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した。布掘り状の掘り方を持つ南北方向の塀跡と考えられるが柱はすべて抜き取られており、掘り方も壊されている。ＳＤ1033 とほぼ同位置･同方向で構築されている。

抜取り溝から推定すると掘り方は長さ約 6ｍで、上端幅 0.6ｍ以下、底面幅 0.3ｍ以下、深さ 50cm 以下である。方向は北で約 4 度東へ偏している。抜取り溝堆積土は 3 層に分けられ、自然堆積で 1 層には灰白色火山灰を含む。

遺物は抜取り穴からロクロ調整の土師器と須恵器、瓦などが出土している。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整が主体で、須恵器は回転ヘラケズリ調整、ヘラ切り無調整、回転糸切り無調整が混在する。

【ＳＡ2080 材木塀跡】（第164 図）

調査区ほぼ中央に位置する東南方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。ＳＸ2121 整地層上面および地山面で検出した。ＳＢ2055・2056 掘立柱建物跡、ＳＡ1034 材木塀跡と重複し、ＳＡ1034 より新しいが、ＳＢ2055・2056 との新旧関係は不明である。

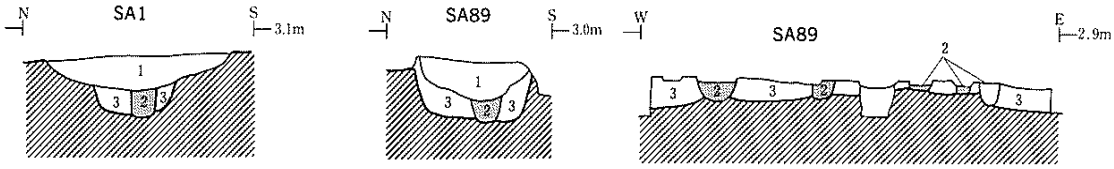
掘り方は約 3.5ｍまで検出したが、残りが悪く東側は削平されている。上端幅 0.3～0.6ｍ、底面幅 0.2～0.3ｍ、深さ約 24cm で断面形は「Ｕ」字状を呈する。柱痕跡は径 10～13cm の円形である。柱間隔は最も残りのよい部分で約 30cm、方向は東で約 8 度南へ偏している。抜取り溝堆積土は 1 層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【ＳＡ3004 材木塀跡】（第165 図）

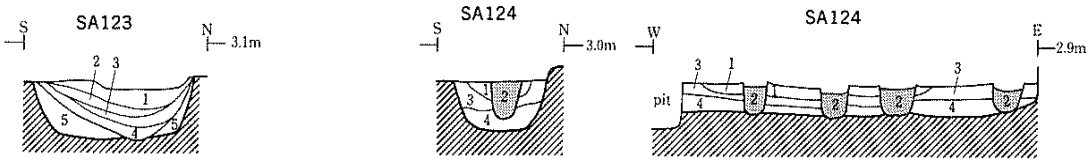
調査区南側に位置する南北方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。ＳＸ2121 整地層上面および地山面で検出した。重複は認められない。

掘り方は約４ｍまで検出し、南側は調査区外に延びる。上端幅約 0.4ｍ、底面幅 0.2～0.3ｍ、深さ約 20cm で断面形は「U」字状を呈する。柱は切取られているが、底面近くで円形で径 10～13cm の痕跡が確認されており、柱間隔は残りの良いところで約 20cm である。方向は北で約 10 度東へ偏している。



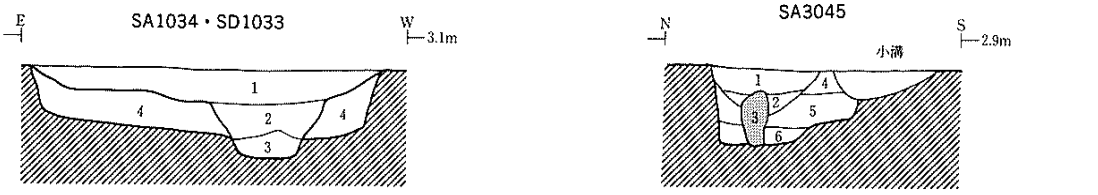
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	[切取り溝堆積土] 炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[柱痕跡] 地山ブロック・炭化物含。
3	黒褐 2.5Y3/2	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック（大）含。

No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	[切取り溝堆積土] 地山ブロック・炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[柱痕跡] 地山土・炭化物含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック（大）多。



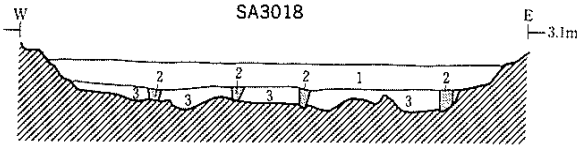
No	土色	土性	備考
1	黒 10YR1.7/1	シルト	[抜取り溝堆積土] 地山砂ブロック・炭化物含。
2	褐灰 10YR4/1	シルト	[抜取り溝堆積土] 灰白粒含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	[抜取り溝堆積土]
4	黒 10YR2/1	シルト	[抜取り溝堆積土] 地山砂ブロック・炭化物含。
5	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂が互層をなす。

No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	[抜取り溝堆積土]
2	黒 10YR1.7/1	シルト	[柱痕跡] 地山ブロック含。
3	黒 10YR2/1	シルト	[掘り方埋土] 地山ブロック多。炭化物・砂含。
4	黒褐 10YR3/1	砂	[掘り方埋土]



No	土色	土性	備考	
1	黒褐 7.5YR3/1	シルト	SA1034	[抜取り溝堆積土]灰白粒・炭化物含。
2	オリーブ黒 5Y3/1	粘土		[抜取り溝堆積土]炭化物・遺物含。
3	黒 5Y2/1	粘土		[抜取り溝堆積土]地山ブロック含。
4	オリーブ黒 5Y3/1	粘土	SD1033	地山ブロック含。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 7.5YR3/1	シルト	[切取り溝堆積土] 炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[切取り溝堆積土] 炭化物含。
3	黒 10YR2/1	シルト	[柱痕跡] 地山砂粒・炭化物少量含。
4	黒褐 2.5Y3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック・炭化物少量含。
5	黒褐 10YR3/1	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。
6	暗灰黄 2.5Y5/2	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。



No	土色	土性	備考
1	褐灰 7.5Y4/1	シルト	[抜取り溝堆積土] 炭化物含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	[柱痕跡] 地山砂・炭化物含。
3	黒褐 10YR3/2	シルト	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。炭化物含。

第157図　南１西２区材木塀跡断面図

抜取り溝堆積土は1層で、炭化物を含む黒褐色土が自然堆積している。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

【ＳＡ3045材木塀跡】（第157･170図）

調査区南東に位置する東西方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。ＳＸ2121整地層上面および地山面で検出した。ＳＢ1241・3129掘立柱建物跡やＳＫ1383・1382・1449土壙などと重複し、これらよりも古い。

掘り方は未精査部分も含め約35ｍまで検出し、東側は調査区外に延びる。上端幅約0.6～0.7ｍ、底面幅0.3～0.5ｍ、深さ35㎝前後で断面形は「Ｕ」字状を呈する。柱は切取られており、底面近くで円形で径10～12㎝の痕跡を確認している。柱間隔は約20㎝、方向は東で約8度南へ偏している。切取り溝堆積土は2層に分けられ、人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。

【ＳＡ3018材木塀跡】（第157･168図）

調査区南東に位置する東西方向の塀跡で布掘り状掘り方を持つ。地山面で検出した。重複は認められない。

掘り方は総長約2ｍである。上端幅約0.4～0.5ｍ、底面幅0.2～0.3ｍ、深さ30～35㎝で断面形は「Ｕ」字状を呈し、底面にはやや凹凸がある。柱は切取られており、底面近くで円形で径8㎝前後の柱痕跡を確認している。柱間隔は最も残りのよい部分で約45㎝、方向は東で約5度南へ偏している。掘り方埋土は地山ブロックが混入する黒褐色土で炭化物を含む。柱痕跡には地山粒が混入し炭化物を若干含む黒褐色土が堆積している。

遺物は出土していない。

ｂ.柱列

【ＳＡ2320柱列】（第170図）

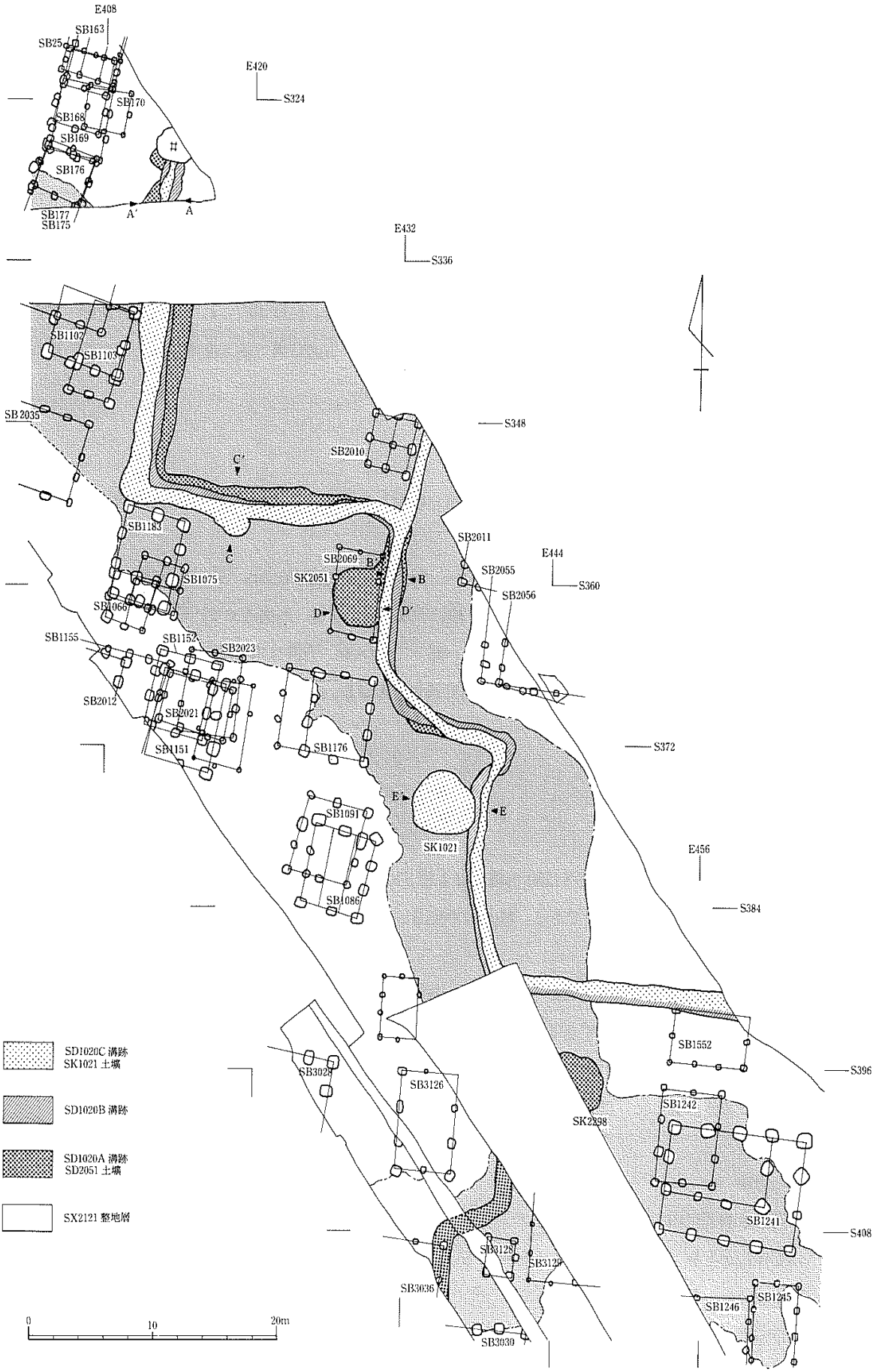
調査区の南東隅に位置し、ＳＸ1250西側溝およびＳＸ1300北側溝に沿ってＬ字状にめぐる、南北8間以上、東西2間以上の柱穴列である。地山面で検出した。ＳＢ1551掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

総長は南北21.94ｍ、東西2.82ｍまで検出し、柱間寸法は南北が北より8.51ｍ(3間分)･3.16ｍ･2.70ｍ･2.99ｍ･1.97ｍ･2.64ｍである。方向はコーナー付近でやや振れるが、南北方向が北で約1度東に偏し、東西方向が東で約1度南へ偏している。柱穴は一辺15～36㎝の隅丸方形、柱痕跡は径11～16㎝の円形である。掘り上げは行っていないため、深さについては不明である。

(9)溝跡

溝跡は調査区内で40条以上検出した。ここでは、出土遺物の多いものや他の遺構との重複関係において年代が把握できるものを中心に説明する。その他の溝跡については、規模や方向等を一覧表に一括して掲載した。

【ＳＤ1020溝跡】（第158･163･164･166･167図）



第158図　SD1020溝跡と建物跡群